ベルニナ820をお買い上げの皆さま

このたびはベルニナ820のご購入、誠にありがとうございます。ベルニナ820は、正にソーイングの究極というべきシステムを搭載したコンピューターミシンです。どうぞ心ゆくままにクリエイティブな世界をご堪能下さい。

ベルニナ820には、最先端技術の粋とベルニナ伝統の最高品質という、過去と未来両方の「究極」が詰まっています。より早く、より快適に、より長い時間、よりクリエイティブに、そしてもちろん、より楽しく縫うことができる、ベルニナとお客様双方の夢の結晶といってもよいでしょう。

ミシンをフルに活用するには、まずその機能を知っていただかなくてはなりません。

何かご質問がおありの場合は、ご遠慮なくお買い上げ店にお問い合わせ下さい。また講習会等に、ぜひご参加下さい。皆さまがクリエイティブな時間を心豊かに楽しんで下さることを、願ってやみません。

ハンス・ペーター・ウルチ
代表取締役社長
ベルニナ・インターナショナル株式会社
CH-8266 Steckborn, Switzerland
www.bernina.com

032298.53.10_1204_B820_JP

安全に関する重要事項

当製品のご使用にあたっては、電化製品を使用する際の一般的な順守事項に加えて、以下の注意事項を必ずお守り下さい。

また、ミシンのご使用の前には必ず説明書をご一読の上、操作方法を十分理解してから、ご使用下さい。

ミシンを使わないときは、プラグをコンセントから抜いておいて下さい。

危険

感電のおそれがあります。次の注意事項をお守り下さい。

1 プラグをコンセントに接続したままで、ミシンから離れないで下さい。
2 ご使用後、またはミシンの掃除をする際には、必ずコンセントからプラグを抜いて下さい。
3 LEDライトによる被爆の危険があります。光学的機器を使って、ライトを直接見ないようにして下さい。こちらはクラス1MのLED製品です。

警告

火傷、火災、感電およびケガの原因になります。次の注意事項をお守り下さい。

1 この説明書の記載内容に従ってご使用下さい。また、ベルニナ社がお薦めする付属品のみをご使用下さい。
2 おもちゃとしては、絶対にご使用にならないで下さい。お子様のご使用、またはお子様の近くでのご使用時は、特別の注意をお願いします。当製品は、身体的または精神的障害のある方、経験および知識に欠ける方（子供を含む）に単独でお使いいただけるものではありません。必ず保護者あるいは責任者の監督指導下でご使用下さい。また、お子様がミシンをおもちゃにしないよう、ご注意下さい。
3 次のような場合には、当製品の使用を避けて下さい。
   - ミシン、フットコントローラーのコード、プラグに傷があるとき。
   - ミシンが正常に作動しないとき。
   - 落としたり、損傷したとき。
   - 水の中に落としたとき。

   このような場合には、お買い上げ店に、ミシンの点検、修理、調整のご依頼をお願い致します。
4 ミシンの通気孔をふさがないで下さい。また、ミシンの通気孔に糸くずやほこり、布くずが詰まった状態で使用しないで下さい。モーターの過熱の原因となります。
5 操作中は、動く部品に指を近づけないで下さい。特に針の周りでは、細心の注意を払って下さい。
6 ミシンやフットコントローラーの隙間からものを入れたり、差し込んだりしないで下さい。
7 戸外では使用しないで下さい。
8 酸素ガス等の引火性のあるスプレーを使用している場所では、使わないで下さい。また酸素ガスを扱う場所でのご使用は避けて下さい。
9 裁縫中に布を引っ張ったり、押し込んだりすると、針をいため、針折れの原因となります。
10 曲がった針は使用しないで下さい。
11 必ずベルニナ純正の針板をご使用下さい。まちがった針板のご使用は、針折れの原因となります。
12 プラグをコンセントから抜く前に、必ずミシンのすべての電源をオフ«0»にして下さい。プラグをコンセントから抜く場合には、コードを引っ張らずに、プラグを持って抜いて下さい。
13 糸、針、ボビン、押え金等を交換する際には、ミシンの電源をオフ«0»にして下さい。
14 ミシンカバーを外したり、注油、または説明書に従って調整する場合には、必ずプラグをコンセントから抜いて下さい。
15 ミシンは二重に絶縁されています。ミシンの修理には、必ず専用の部品を使って下さい。詳しくは取扱説明書をご覧下さい。

二重絶縁について

二重に絶縁された製品では、アースの代わりに２種類の絶縁システムを採用しています。二重絶縁の製品には、アースはなく、また取り付ける必要もありません。二重絶縁の製品の点検には、細心の注意およびシステムに関する知識が必要とされますので、資格のある技術者にお任せ下さい。交換部品は、実際に製品に使われている部品と同一のものでなければなりません。二重絶縁の製品については、「DOUBLE INSULATION」または「DOUBLE INSULATED」の表示がなされています。

こちらの ⧈ シンボルも、二重絶縁を示します。

ご注意

当製品の誤った使用によって生じた損害については、当社は責任を負いかねます。

当製品は、家庭用ミシンです。

説明書は大切に保管して下さい。

032298.53.10_1204_B820_JP

ソーイング

アクセサリーおよび準備

機能およびセッティング

メインステッチカテゴリー

ベルニナワールド

メンテナンスおよびトラブルシューティング

ステッチおよびモチーフ一覧

索引

032298.53.10_1204_B820_JP

重要!
危険!

ヒント!

文
ゲイル・ヒーラート Gayle Hillert, ヘルベルト・シュトルツ Herbert Stolz,
ジョアナ・ヴィルド Joanna Wild

ソーイングおよび作品制作
コレッテ・コグレイ Colette Cogley, ジャン・デルピット Jeanne Delpit,
スーザン・フィアース Susan Fears, クラウディア・ジーザー Claudia Giesser,
ゲイル・ヒーラート Gayle Hillert, ニーナ・マックベイ Nina McVeigh,
ピア・ヴェルシュ Pia Welsch, ジョアナ・ヴィルド Joanna Wild

画面デザインおよびイラスト
スカルプトSculpt, CH-Steckborn

写真
スターリング・ライスグループ Sterling Rice Group, USA
パトリス・ハイルマン Patrice Heilmann, CH-Winterthur

マニュアルデザインおよびコンセプト
エリカ・ヴォーレンヴァイター・クツィブルヤ Erika Vollenweider-Czibulya

タイプ、レイアウト、DTP
スーザン・リビ Susanne Ribi,
エリカ・ヴォーレンヴァイター・クツィブルヤ Erika Vollenweider-Czibulya

Copyright
2008 BERNINA International AG, CH-Steckborn

無断転載禁ず
技術の改善、機能の向上のためにミシンの機能、部品、そして付属品は通達無く変更する場合がございます。また、ミシンの機能及び付属のアクセサリーは国によって仕様が異なる場合がございますのでご了承ください。詳しくはベルニナ正規販売代理店にお問い合わせください。

032298.53.10_1204_B820_JP

アクセサリーおよび準備

アクセサリー 6

この製品に含まれるもの 6
- ミシン用カバー 6
- アクセサリー 6
- ビニール袋の内容 6

押え金 7

ベルニナ専用押え金（オプション） 7

アクセサリーボックス 8
- 自立型 8
- レイアウト 9

ミシンの外観 10

ミシンの外観 10

ミシンの準備 12

バッテリー 12

電源スイッチおよび電源コード 12

膝押え上げレバー(FHS) 12

フットコントローラー 13

LED ソーイングライト 13

収納式トリプル糸立て棒 14

ボビン 14
- 下糸の巻き取り 15
- 下糸巻きの中断 15
- ボビンの取り出しおよび取り付け方法 16

スライドオンテーブル 17

糸カッター 17

上糸をかける 18
- 2本針および3本針 19

糸ガイド付き糸潤滑装置 20
- 糸ガイドとして (図 1) 20
- 糸潤滑装置として (図 2) 20
- 取り付け方法 20

糸ガイド 21
- 装置の多様な使用方法 21

針の交換 22

押え金の交換 22

針板 23

送り歯および布送り 23
- 高さ調整板を使って縫う 24
- コーナー部分を縫う 24

糸調子 25
- 上糸調子 25
- 下糸調子 25
- 糸調子を変更するには 25

針について 26

糸と針に関する重要事項 26
- 糸 26
- 針、糸および布 26
- 針と糸 26

ガイドライン 27

針の一覧表 28

この製品に含まれるもの

ミシン用カバー

- ミシンを埃や汚れから守ります。

アクセサリー

- フットコントローラー
- 電源コード
- 保証書
- 膝押え上げレバー（FHS）
- スライドオンテーブル
- スライドオンテーブル用布ガイド
- 取扱説明DVD
- ミシン用カバー
- アクセサリーボックス
- 糸潤滑装置

ビニール袋の内容

1 ボビン4個
2 ガイド（調整可能）
3 ボビンマジック用糸通し
4 ピンセット
5 ネット2本
6 コーディングアタッチメント
7 拡大鏡用アダプター
8 小型ネジ回し
9 タッチペン
10 シームリッパー
11 糸くず用ブラシ
12 多機能ツール
13 糸通し（手動）
14 糸コマホルダー（小）
15 キングサイズ糸コマまたは円錐型糸コマ用ホルダー
16 高さ調整板
17 針セット（130/705H）
18 ミシンオイル
19 チェック・ミラー
20 回転釜クリーニング工具

押え金

1C　標準押え

1D　デュアルソーイング押え

3A　布ガイド付自動ボタンホール押え

4D　ファスナー押え

5　まつり縫い押え

20C　オープン刺しゅう押え

37D　パッチワーク押え

42　BSR押え

ベルニナ専用押え金（オプション）

8　ジーンズ押え

50　ウォーキング押え

キルティング、エアルームソーイング、ホームデコレーション、洋服の仕立て等の作業には、ベルニナ専用特殊押え金のご使用をお薦めします。同封のアクセサリーカタログでご紹介している特殊押え金は、お買い上げ店にてお買い求めいただけます。

アクセサリーボックス

自立型

► ボックスの後ろ側にある脚部分を、かちっという音がして固定するまで引き出して下さい。

レイアウト

アクセサリーボックスには、小型引き出し**A**、大型引き出し**B**、ボビンホルダー**C**および押え金ホルダー**D**が標準装備されています。

- ボビンを取り外すには、ホルダーのE部分を軽く下に押します。
- 布ガイド付自動ボタンホール押え3Aは、左側の**F**に収納できます。
- 針ケースは、**G**の縦型収納スロットに収納します。

ミシンの外観

8
B 820
7
9
10
11
12
13
15
17
14
16
BERNINA
6
5
4
2
3
20
19
18
1
21

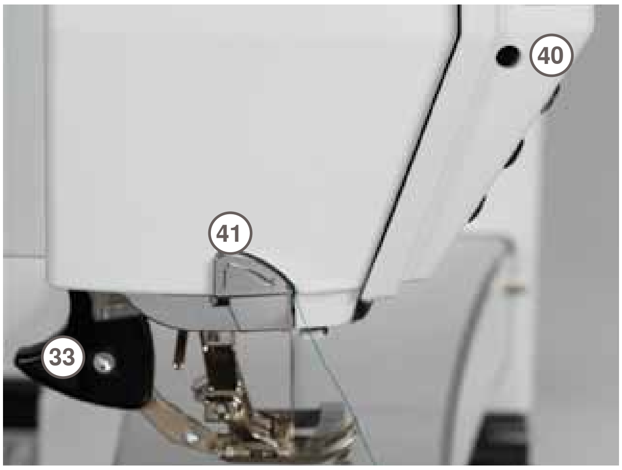
22
23
26
29
24
27
30
25
28

31
33
32

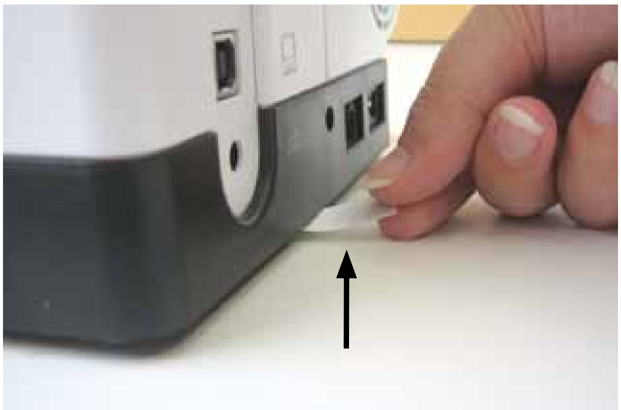
17
16
34
35
36
37
38
39

1 釜カバー
2 針板
3 オプションアクセサリー取付け穴
4 押え金
5 針止めネジ
6 糸ガイド
7 画面
8 キャリングハンドル
9 モード切替ボタン
- セットアップボタン
- ガイドボタン
- クリエイティブコンサルタントボタン
- ヘルプボタン
- エコボタン
- «clr»クリアーボタン

10 振り幅調節ダイヤル
11 送り長さ調節ダイヤル
12 針基線選択ボタン
13 下糸巻取装置
14 下糸巻取装置用糸カッター
15 上糸かけ溝
16 収納式トリプル糸立て棒
17 伸縮式糸立てロッド
18 下糸ガイド
19 スライドオンテーブル取付け用ソケット
20 ダーニング用フープ取付け穴
21 膝押え上げレバー（FHS）差込口
22 スライドスピードコントロール
23 自動糸通し
24 針上下位置停止ボタン
25 押え金上下位置停止ボタン
26 留め縫いボタン
27 一模様縫いボタン
28 自動糸カッター
29 手元スタートストップボタン
30 手元返し縫いボタン
31 特殊アクセサリーポート
32 BSR接続
33 ベルニナデュアルフィード（上送り機構）
34 弾み車
35 USB接続
36 PC接続
37 フットコントローラー用ソケット
38 電源スイッチオンおよびオフ(«I», «0»)
39 電源コード用ソケット
40 ソーイングレンズ(オプション)取付け用穴
41 糸カッター



バッテリー



ミシンをお使いになる前にバックアップバッテリーの保護シートを取り除いてください。

電源スイッチおよび電源コード

A 電源スイッチ
ミシンは、≪I≫でスイッチオン、≪0≫でオフとなります。

I 電源がオンになった状態
0 がオフになった状態

B 電源コードの接続位置
C フットコントローラーの接続位置
D PCの接続位置
E USBスティックの接続位置

ミシンを気温の低い場所に保管していた場合には、1時間ほど暖かい部屋に置いてからご使用下さい。

膝押え上げレバー(FHS)

押え金を上下するのに使います。

膝押え上げレバーの取り付け方

- レバーを取付け用の穴にセットします。これで、座った状態で、膝を使って押え金を上下できます。

押え金を上下させるには

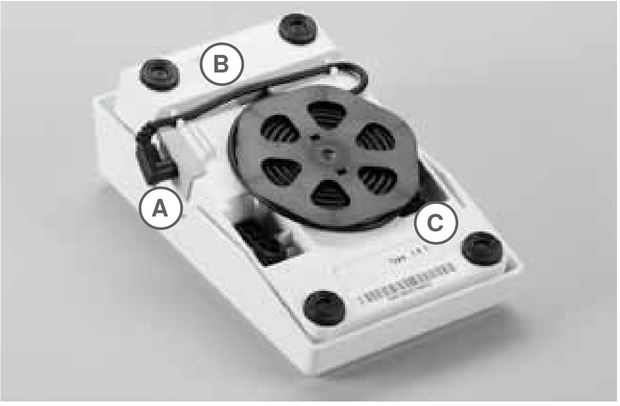
- レバーを膝で右に押すと、押え金が上がり、同時に送り歯は下がります。上糸テンションは開放されます。
- 最初の一針を縫うと同時に、送り歯は上がります。

レバーの調整は、お買い上げ店にご相談下さい。

フットコントローラー

ソーイングスピード
- ► フットコントローラーの踏み込み加減によってコントロールできます。

針の上下
- ► まず足全体をコントローラーに乗せます。
- ► その状態で、かかとを軽く1回踏み込むと、針を今ある位置とは反対の、上または下に動かすことができます。



コードの収納
- ► コードを底のリールの周囲に巻き付けます。
- ► その後、端のプラグを**A**に差し込んで固定します。

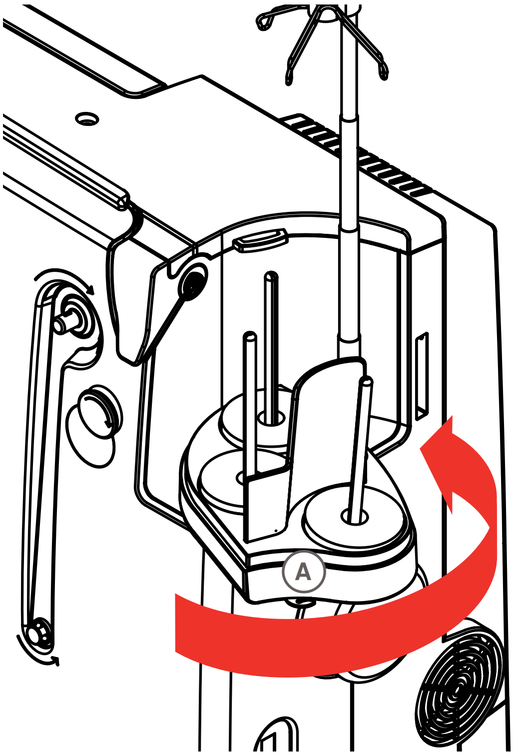
ご使用の際は
- ► コードを必要な長さだけ引き出し、**B**または**C**に固定します。

LED ソーイングライト

LEDソーイングライトは、ソーイング中の手元に影を作りません。また大変寿命の長いライトです。

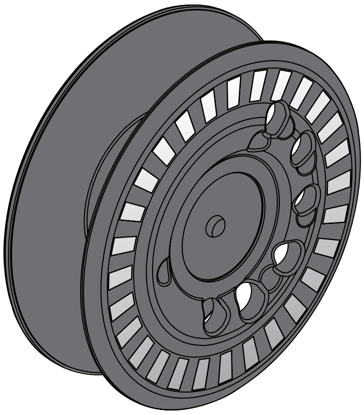
> ⚠ ソーイングライトの交換は、ミシン本体をお買い上げ店にお持ち下さい。

収納式トリプル糸立て棒

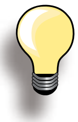


- 糸立て棒のカバーを上に向かってまっすぐに取り外して下さい。
- 伸縮式糸立てロッドを引き出し、すべての部品がしっかりと収まっていることを確認します。
- 糸立て棒を右側に回すようにして、かちりとはめ込みます。これで装置の全体が見えるようになり、使用可能となります。
- ボビンに下糸を巻き取るには、**A**の糸立て棒をお使い下さい。

ボビン



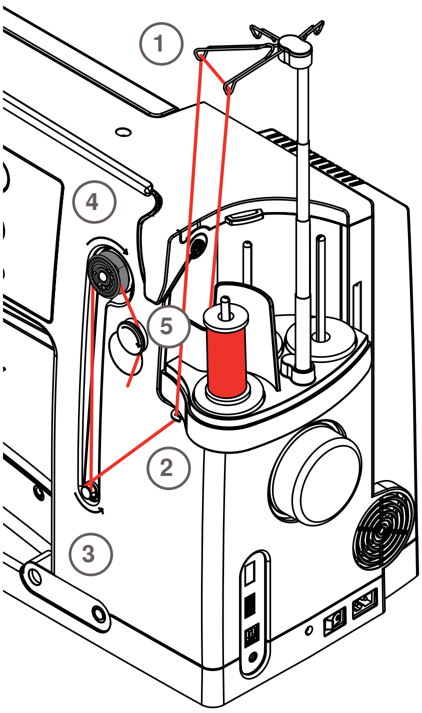
ベルニナ820専用のボビンには、従来の４割増の糸を巻き取ることができます。ボビンの挿入方法が間違っている場合には、エラーメッセージが表示されます。



ボビンの巻取り量は、事前に25%、50%および100%から選択、指定できます。

ボビンの取り扱いにはご注意下さい。特に白いセンサー面には、傷や汚れがつかないようにして、下糸センサー機能が正しく作動するようにして下さい。ボビンは必ず、アクセサリーボックスの専用場所に保管するようにして下さい。

下糸の巻き取り



ミシンの準備

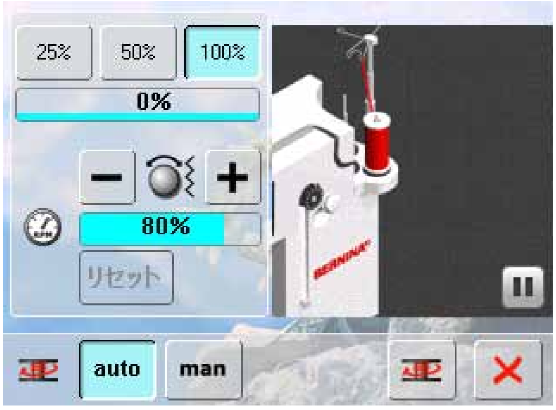
- ► 電源スイッチをオン«I»にします。
- ► 空のボビンを、白いセンサー面が前にくるように、糸立て棒にセットします。
- ► 下糸巻き取り用の画面が表示されます。
- ► システムがボビンの巻き取り状況を読み取り、選択可能なボビンフィルの下にバーで表示されます。
- ► 糸コマを前側の糸立て棒に立て、伸縮式糸立てロッドの該当するガイド①に糸を通します。

下糸を巻き取る

- ► 糸を両手で支えながら、矢印に従って、②のプレート上のガイドに通し、それから③の下糸ガイドに回しかけます。
- ► 糸を1、2回、④の空のボビンに矢印の方向に巻き付けます。余りは矢印方向に引き出し、⑤の糸カッターでカットします。
- ► ボビンの巻き取り量を選択します。標準は100%となります。
- ► «スタート» 画面で、ボビンのアイコンにタッチします。
- ► 巻き取りのスピードは、«+»or«-»アイコンまたは振り幅調節ダイヤルで調整できます。
- ► 指定の巻き取り状態になると、ミシンは自動的に停止します。
- ► ボビンを取り外し、糸をカッターでカットします。
- ► 画面が閉じます。

下糸巻きマニュアルモード

- ► «man»アイコンにタッチします。
- ► «bobbin» アイコンをタッチしている間糸巻きが出来ます。

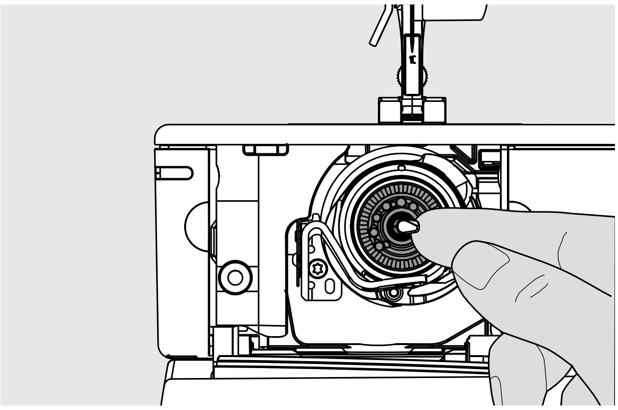


下糸巻きの中断

- ► 下糸巻きの作業を中断したい時は、«Start»ー（ボビン）アイコンをタッチします。　画面を閉じるには✕ アイコンをタッチします。

- ► 作業を続行するには
  - ‣ «bobbin»をタッチします。（アイコンは時計の場所に表示されます）＝糸巻きの画面が表示されます。
  - ‣ «Start»アイコンをタッチすると下糸巻きを開始します。

ボビンの取り出しおよび取り付け方法

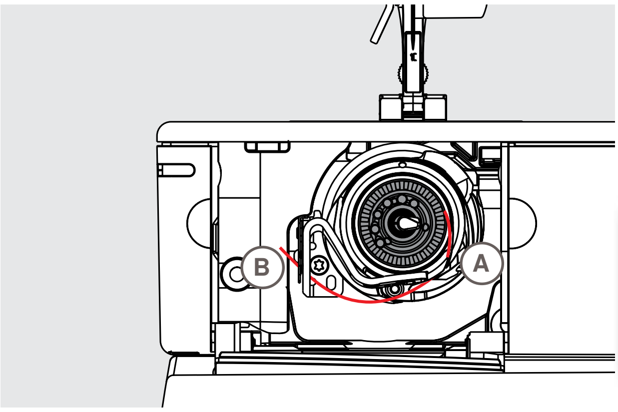


ボビンの取り出し方

► 釜カバーを開くと、釜が回転して正面に向きます。
► ボビンの中央にある留め金を左側に押して、飛び出してきたボビンを取り外します。

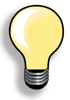
ボビンの取り付け方

► ボビンのセンサー面が見えるようにして、ボビンを回転釜にセットし、しっかりはめ込みます。

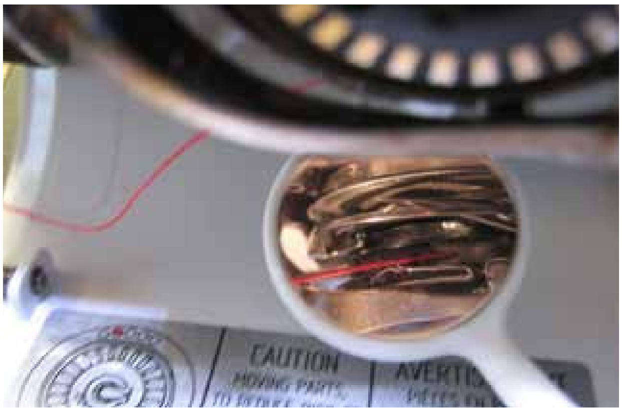


下糸をセットする

► 糸を右側の**A**の溝に入れるように引き、それからバネの下を通して左側に引き出します。
► そのまま**B**の糸カッターでカットします。
► 釜カバーをゆっくり閉めると、回転釜は後方に収まります。


下糸は引き出した時点でソーイングに最適の長さとなっていますので、それ以上引き出す必要はありません。

大釜が正常な上糸通しの位置にあるときにボビンを取り出します。



釜の糸掛けを確認する

下糸の糸掛けが完了したら、糸掛けが完全に出来ている事を付属のチェック・ミラーを使って確かめます。
► 通常のソーイング用糸掛けの位置

スライドオンテーブル

スライドオンテーブルを使えば、作業スペースを広げることができます。

スライドオンテーブルの取り付け方

- ► 針と押え金を上げます。
- ► フリーアームにかぶせて、テーブルを左から右に強く押し込み、しっかりとはめ込みます。

取り外し方

- ► 針と押え金を上げます。
- ► ボタンを押し込みながら、左に向けて取り外します。

スライドオンテーブルを取り外す際には、必ず釜カバーを閉めて下さい。

シームガイド

- ► 解放ボタンを押して、テーブル下の溝に、左から右に向けて挿入します。
- ► シームガイドは、テーブルの幅一杯に移動できます。

定規

- ► «**0**»が、中央の針基線を示します。

糸カッター

ミシン左側面

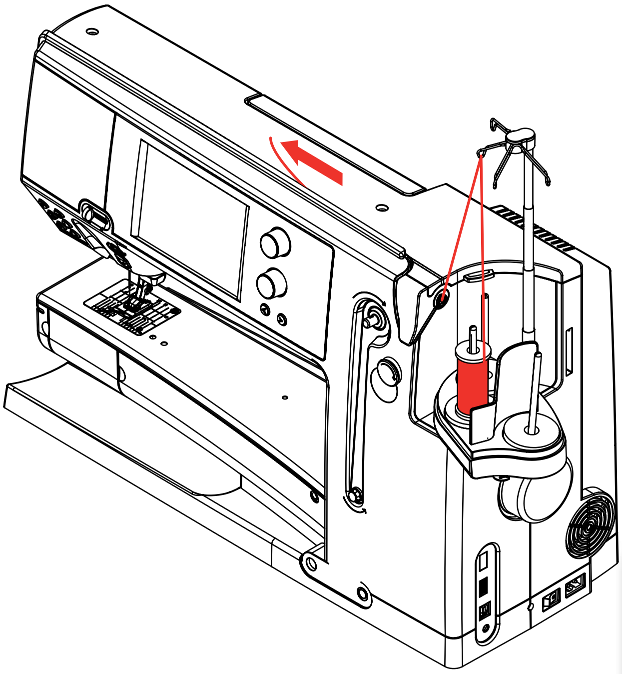
- ► 上下両方の糸をまとめて、後ろから前に向けて糸カッターの上を通します。
- ► 上下の糸端は、次の最初の一針を縫うと同時に、糸カッターから外れます。

下糸巻取装置の糸カッター

- ► 下糸を巻き取った後、矢印の方向に糸を引き、糸カッターでカットします。

ミシンの準備

上糸をかける

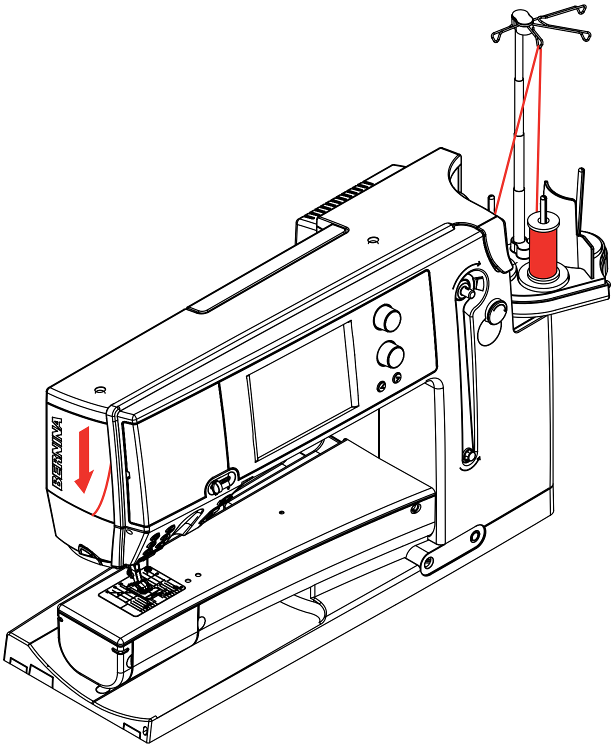


自動上糸通し

- ► 糸コマを後ろまたは中央の糸立て棒にセットします。
- ► 糸を両手で持ち、伸縮式糸立てロッドの該当するガイドに通して、ミシンの上糸かけ溝に通し、その後針止めネジの糸ガイドを通して、後ろから前に向けて糸カッターの上を通します。
- ► 自動糸通しボタンを押すと、メッセージおよびアニメーションが表示されます。
- ► 糸通しの間は、手元スタートストップボタンが赤く点灯します。
- ► 糸通しに失敗すると、エラーメッセージが表示されます。
- ► ✕ をタッチしてエラーメッセージを閉じ、再スタートします。
- ► 糸通しが成功すると、手元スタートストップボタンは緑色に変わります。

マニュアル（手動）糸通し

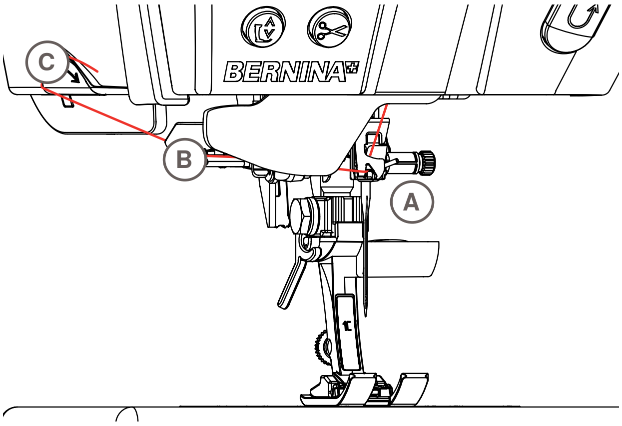
- ► 前項の最初の２つの手順に沿って、上糸をかけます。
- ► 画面上の«手動糸通し»アイコンをタッチします。
- ► «自動糸通し»ボタンを押してから、糸を手で通します。



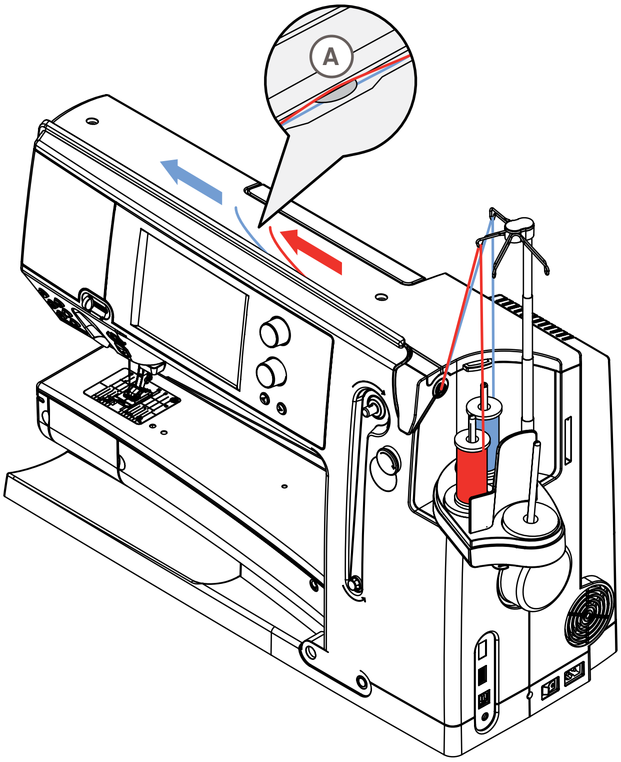
- ► 扱いにくい糸を使う場合には、糸コマにネットをかぶせるとよいでしょう。
- ► 大きな糸コマには大型のネットを、小さなものには小型のネットを使います。
- ► ネットをかぶせれば、糸が不必要にほどけてしまうこともなく、均一に送ることができます。
- ► 縫い始める前に糸を押え金の下に置き、それから後ろに回しましょう。

ミシンで縫い始める際には、必ず針板の上に布をセットして下さい。

糸通しの前に、ミシンの電源を必ずオンにして下さい。



2本針および3本針

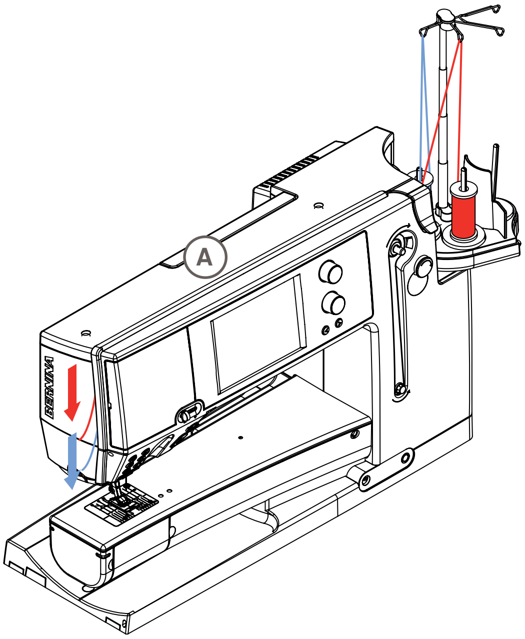


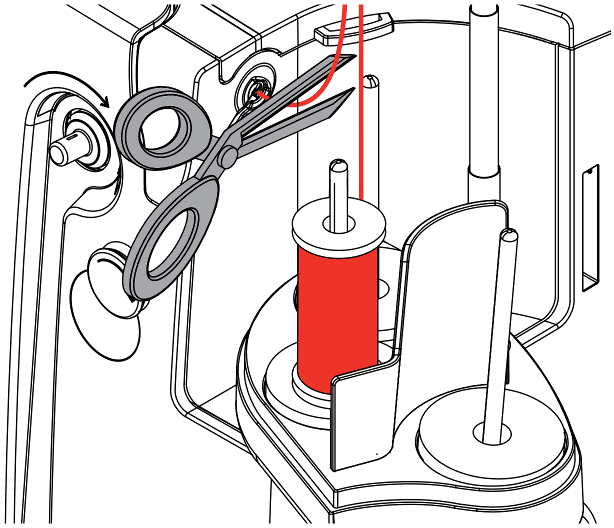
2本針

- ► 画面上の«セキュリティプログラム»アイコンをタッチします。
- ► セキュリティ画面から、2本針のアイコンをタッチします。
- ► 糸コマの１本を中央、もう1本を後ろ側の糸立て棒にセットし、それぞれを伸縮式糸立て棒の該当するガイドに通します。
- ► 後ろ側の糸立て棒にセットした糸をテンションディスクＡの後ろに、中央の糸立て棒にセットした糸をテンションディスクＡの前側にそれぞれ通しながら、２本の糸をいっしょに上糸かけ溝に通します。それから２本の糸を針止めネジの糸ガイドに通して下さい。
- ► 中央の糸立て棒にセットした糸を、テンションディスク**A**の後ろ側スリットに通し、糸カッターでカットします。
- ► 自動糸通しボタンを押して、右側の針に手動で通します。

3本針

- ► セキュリティ画面から、3本針を選択します。
- ► 糸立て棒3本にそれぞれ糸コマをセット、伸縮式糸立て棒の該当するガイドにそれぞれ通します。
- ► 通常どおりに糸かけをします。中央および後ろ側の糸は、糸通し用のスリットを通って、テンションディスクAの後ろ側に、前の糸は前側に、それぞれ通します。





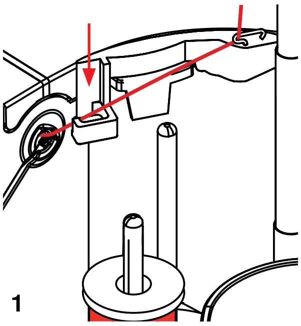
糸の交換

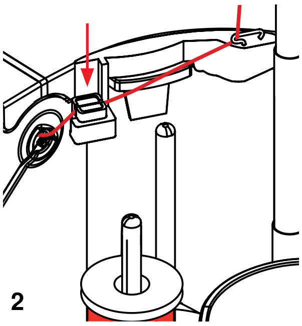
- ► 糸コマからの糸を上糸かけ溝の前でカットし、針の近くで前方に引っ張ってミシンから外します。

糸ガイド付き糸潤滑装置

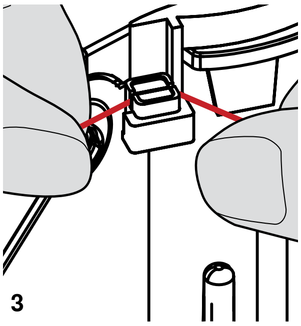
糸ガイドとして (図 1)
もつれやすいタイプの糸などをご使用の場合、糸潤滑装置としてではなく、糸ガイドとしてお使いください。

糸潤滑装置として (図 2)
糸切れをおこしやすいタイプの糸、メタリック糸、糸撚りの弱いタイプの糸などをご使用の際には、糸潤滑装置のご使用をおすすめ致します。シリコン潤滑液が糸の表面をなめらかにして、より均一な縫い目となります。


1


2

取り付け方法
- ► 糸立て棒のカバー取り付け部分に、装置を差し込み下へしっかりとおしこんで下さい (図 1)
- ► 糸を通すあき口が、左右にくるように潤滑装置を左側のホールダーにはめ込んでください。(図 2)
- ► フェルト部分にシリコン潤滑液数滴を落してしめらせます。
- ► 糸こまを通常のように、中央あるいは後方の糸立て棒にセットします。糸を伸縮式糸立てロッドの該当するガイドに、それから糸潤滑装置上の糸ガイドに通します。

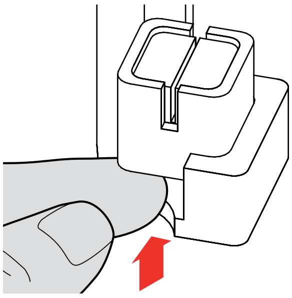

3

- ► フェルト部分が湿っているようご注意下さい。(図 3)
- ► 糸を両手で持ち、フェルトの中の溝に通して、できるだけ深くはめ込んで頂くと、刺しゅうの際にフェルトからはずれません。
- ► そこからは通常の上糸かけを完了して下さい。シリコン潤滑液を時おり補充していただき、フェルトがいつもしめっているようにして下さい。

4

- ► 糸潤滑装置を使っているミシンで上糸を掛ける時は、自動糸通し機がスムーズに働くように糸こまとミシンの間で図のように約2～3センチくらい糸をたるませて、糸通しのボタンを押してください。(図4参照)

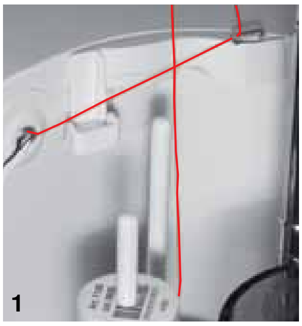
> ⚠ シリコン潤滑液は糸にのみご使用ください。回転釜への注油には絶対にお使いにならないで下さい。

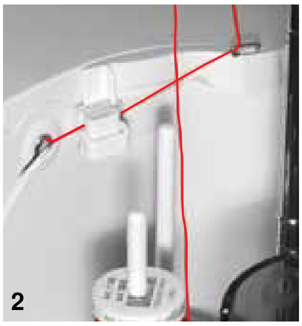


この装置を糸ガイドとしてだけにご使用になる場合は、潤滑装置部分はお取り外し下さい。
- ► 潤滑装置は、角のつき出た部分を上に押しあげてはずして下さい。.

装置を再びミシンに取り付けます。潤滑装置上の糸ガイドも含めて、通常に糸かけをして下さい。(図 2)

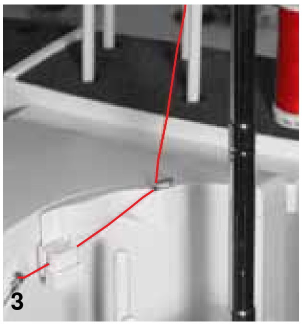
032298.53.10_1204_B820_JP

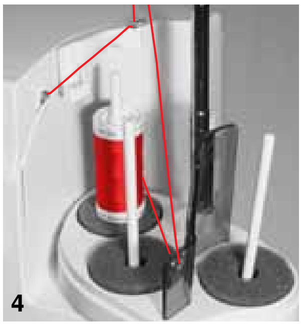




装置の多様な使用方法

- ► 伸縮式糸立てロッド、あるいは別売りの糸コマ立てから垂直に糸を送る（糸潤滑機能付きあるいは機能なしで）（図 1-3）





- ► 放射状に糸を送る（糸潤滑機能付きあるいは機能なしで）（図 4）
- ► 糸潤滑装置を使っているミシンで上糸を掛ける時は、自動糸通し機がスムーズに働くように糸こまとミシンの間で図のように約2〜3センチくらい糸をたるませて、糸通しのボタンを押してください。（図5参照）

糸ガイド

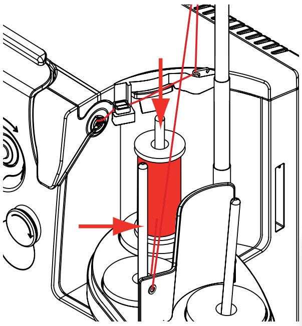
糸ガイドの使用方法

- ► 後方糸立て棒についている既存のタイプのものを、スポンジ状のロータリー・ディスク(中心部に白いプラスティック芯があります)に入れ替えて下さい。

糸ガイドを使う

メタリック糸や、糸が水平の巻き糸などをお使いになる場合、より均一な糸送りをして糸コマが必要以上にすべるのをふせぎます。

- ► 糸コマを糸立て棒にいれ、糸を糸ガイドに通します。それから糸を伸縮式糸立てロッドの中央ガイドに通して下さい。あとは通常の上糸かけを行って下さい。
- ► 糸潤滑装置を使っているミシンで上糸を掛ける時は、自動糸通し機がスムーズに働くように糸こまとミシンの間で図のように約2〜3センチくらい糸をたるませて、糸通しのボタンを押してください。

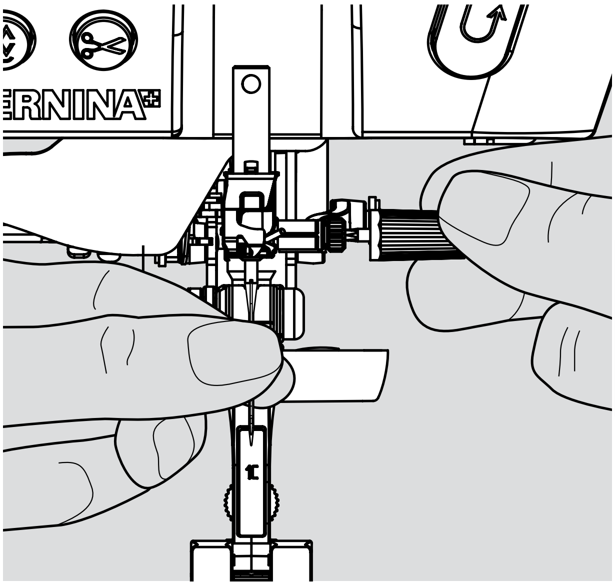


(図中矢印で示された)2本の糸立て棒どちらでもご使用いただけますが、糸ガイドとの角度からいって、後方糸立て棒のほうが優れています。

刺しゅうの縫い目を均一にする為、上糸調子を少しゆるめる必要があるかもしれません。

> ⚠ 糸コマの下には必ずスポンジのディスクをお使い下さい。

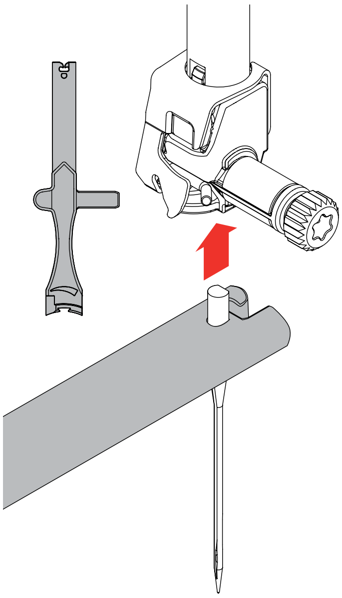
針の交換



► 針を上げます。
► 押え金を下げて、電源スイッチをオフ«0»にします。

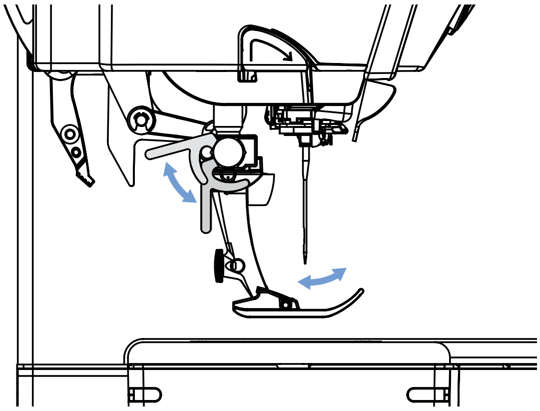
針を取り外すには
► 小型ねじ回しを使って針止めネジを緩め、針を下に引き出します。

弾み車を回して針を下げると、作業がしやすくなります。



針をセットするには
► 針の平らな面を後ろに向けます。
► 多機能ツールを使って、針を一番上の位置まで押し込みます。
► 針止めネジを締めます。

押え金の交換

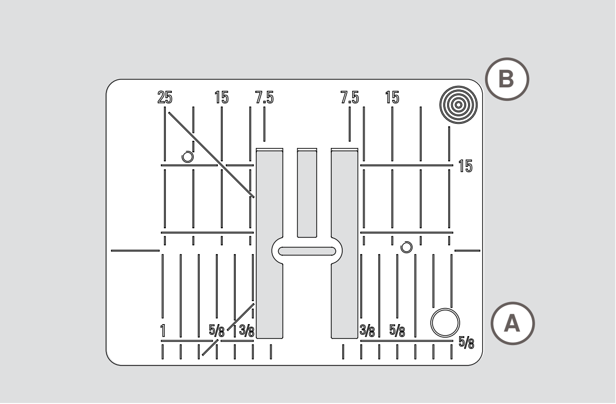


► 針および押え金を上げます。
► 電源スイッチをオフ «0»にします。

押え金を取り外すには
► 押え止めレバーを上げます。
► 押え金を取り外します。

押え金を取り付けるには
► 押え金を押え棒の先端にかぶせるようにして、押し上げます。
► 押え止めレバーを下げます。

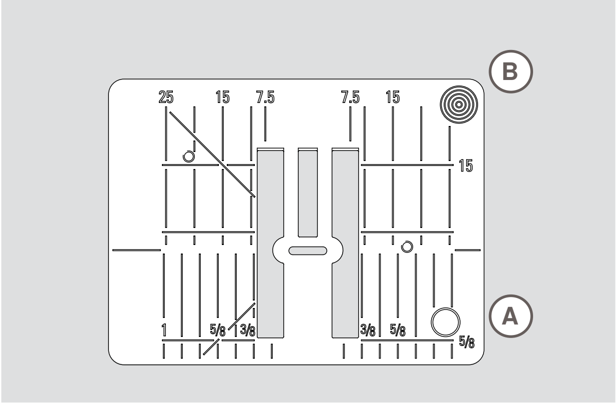
針板



9mm

針板のシームガイドライン

- 針板には、縦横および斜め（対角線）のラインが描かれており、それぞれ国によってミリおよびインチで寸法が表示されています。
- このラインを使って、正確に縫い進めたり、トップステッチをかけることができます。
- 横線はコーナー部分を縫ったり、ボタンホール作りに役立ちます。
- 対角線は、パッチワークのピーシングに使います。
- 縦線は針からの距離を知るのに便利です。
- 針の刺す場所は、«0»です。(= 中央の針基線)
- 寸法は、中央の針基線から左右に向かって印されています。



5.5mm (オプション)

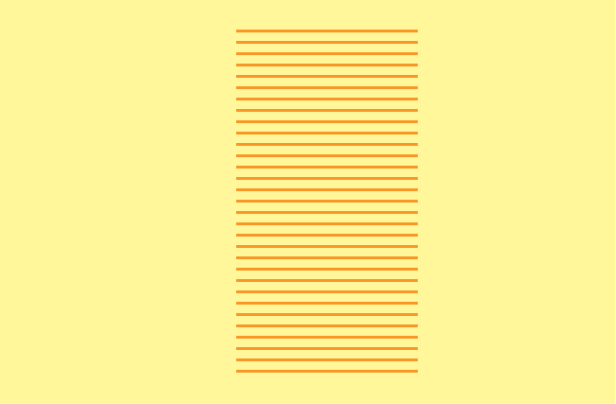
針板の取り外し方

- 押え金および針を上げます。
- 電源スイッチをオフ «0»にします。
- 針板の後方右コーナーBの部分を下方に押し込み、浮かせます。
- 針板を取り外します。

針板をセットするには

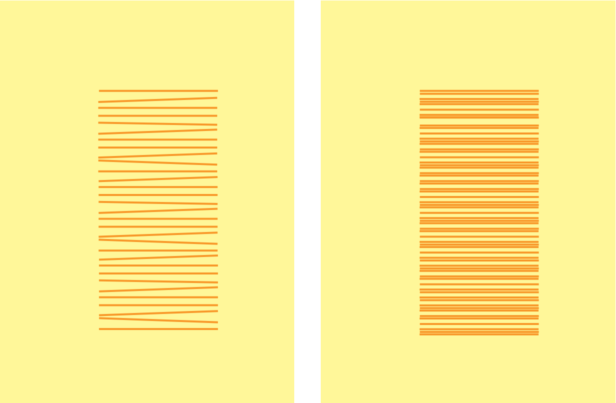
- 針板をAの開き部分の上に置き、かちりとはまるまで押し込みます。

送り歯および布送り


布に力を加えず均等に送れば、針目はきれいに揃います。

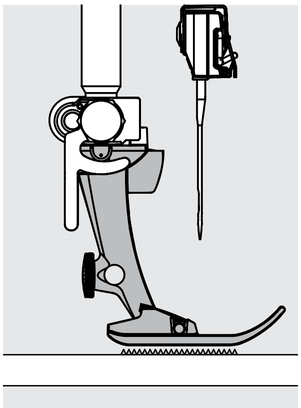
一針ごとに、送り歯もワンステップずつ進みます。ワンステップの長さは、選択したステッチの送り長さで決まります。

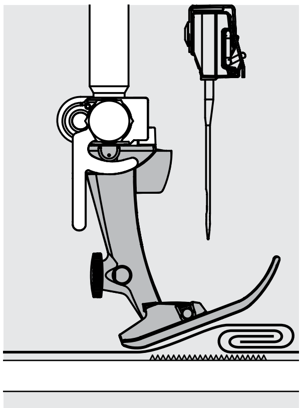
送り長さを短く設定すれば、送り歯の動きも小刻みになります。その場合、ミシンをフルスピードで動かしても、布は比較的ゆっくりと送られるようになります。(例:ボタンホール、サテンステッチ、飾り縫いなど。)


布を押したり引いたり、押さえたりすると、針目が乱れてしまいます。

032298.53.10_1204_B820_JP

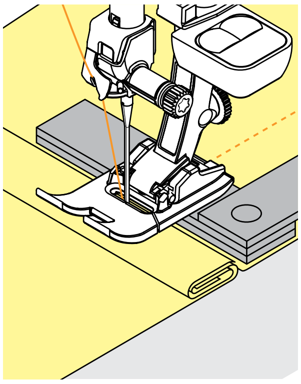
高さ調整板を使って縫う

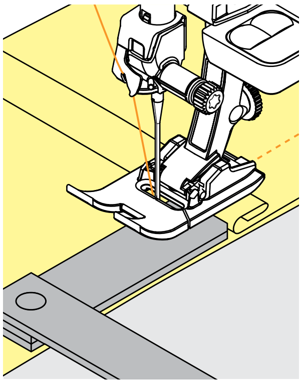




押え金を水平に保てば、正確に布を送ることができます。

布の重なった厚い部分を縫う際に押え金が傾いてしまうと、送り歯は布をしっかりつかむことができず、シワが寄ります。

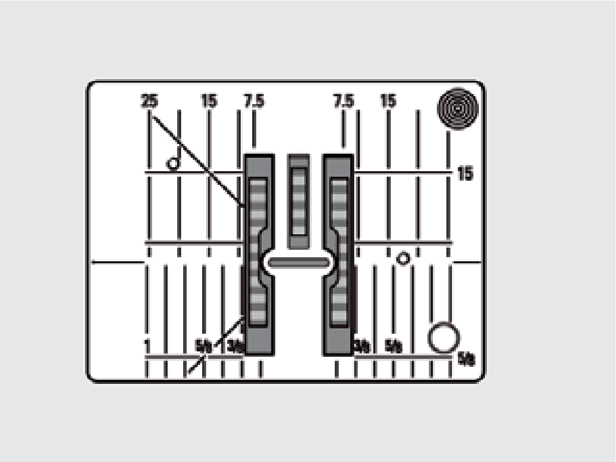




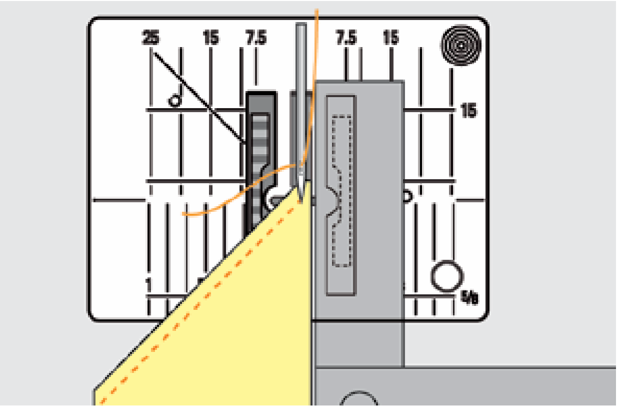
押え金の高さを水平に保つため、高さ調整板を押え金の下、針の後ろ側に必要な枚数（1〜3枚）当てます。

押え金の前部分の水平を保つには、押え金の右側、針のすぐ脇に板を当てるようにします。分厚い部分を過ぎたら、板を外します。

コーナー部分を縫う



針板の穴に幅があるため、送り歯の外側の歯は比較的離れた位置にあります。
コーナー部分を縫うには、布がほんの一部しか送り歯に捉えられないため、送りがうまくいかなくなります。



布の端に調整板を当てて、調整しましょう。

糸調子

上糸調子

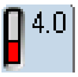
上糸調子を強くすれば、上糸の張りが強くなり、下糸を上に引き出す状態になります。

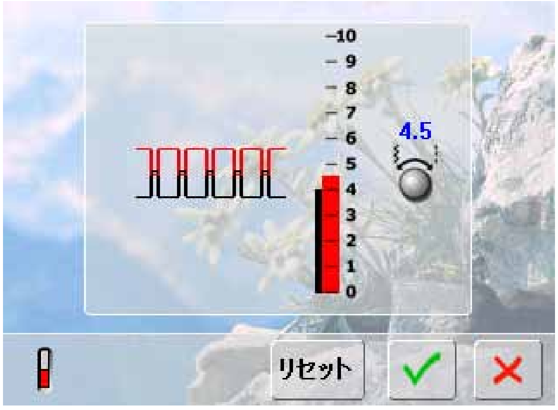
下糸調子を強くすれば、上糸が緩くなり、上糸を下に引き出す状態になります。

ステッチのパターンまたはプログラムを選択すると、基本のセッティングが自動的に適用されます。

上糸調子は工場出荷時に最適の状態に設定されています。この設定には、スイス製のメトラー社から発売されているメトロシーンMetroseneの100/2の糸を上下ともに使用しています。

飾り糸を使う場合には、きれいな仕上がりのために糸調子の調節が必要です。

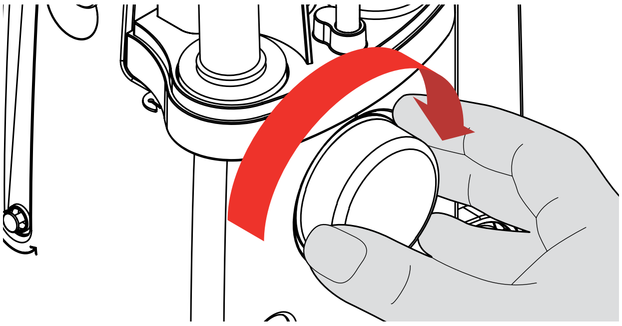


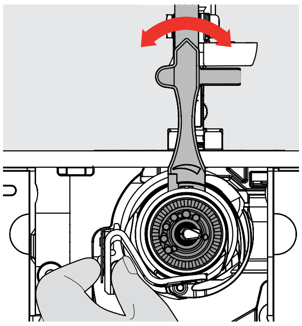


糸調子を変更するには

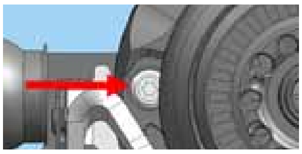
- ► アイコンをタッチすると、最適のステッチ状態が表示されます。
- ► スケール上の赤いバーは、基本の値を示します。
- ► 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを、左右どちらかに回します。（左に回せば緩み、右に回せば強くなります。）
- ► 糸調子の変更は、糸調子スケールの右側に表示されます。
- ► 糸調子の変更は、選択したステッチのみに適用されます。
- ► 変更は赤いスケールおよび機能アイコンに表示されます。
- ► 変更後も、基本設定は灰色で表示されたままになります。
- ► ✓ をタッチすれば、設定を保存できます。
- ► «リセット» をタッチすれば、基本設定に戻ります。
- ► ✕ をタッチすれば、設定は変わりません。
- ► 削除は、«クリアー»ボタンを押す、または«リセット»アイコンをタッチする、あるいはミシンの電源を切る、のいずれかの操作で可能です。

下糸調子





- ► ボビンケースを左手で強く押えながら、右手で弾み車を時計回りに回転させ、多機能ツールをスライダーの突起にイラストのようにしてはめます。
- ► 基本値（工場でセットされており、下記のいずれかの状態）
  - ‣ スライダーの突起がボビンケースの印に合っている状態、または
  - ‣ 突起が右側に1から2目盛りずれている、または
  - ‣ 突起が左側に1から2目盛りずれている状態。
- ► 多機能ツールで突起を押し付けて左側に回すと、糸調子が弱くなります。
- ► 多機能ツールで突起を押し付けて右側に回すと、糸調子は強くなります。
- ► 1目盛り当たり糸の圧力を4 g 変更します。



- ► 下糸通しをするには、大釜がイラストの位置にあることを確かめ、大釜の位置がずれている時ははずみ車を手で時計方向に回してイラストの位置にもってきます。

糸と針に関する重要事項

糸

糸は目的に応じて選んで下さい。きれいな仕上がりのために、糸と布の品質は大変重要です。できるだけ高品質のものをお使いになるようお薦めします。

コットン糸

- コットンは天然素材です。コットンの布を縫うのに最適です。
- シルケット加工されたコットン糸には、微かな艶があります。防縮加工済みです。

ポリエステル糸

- ポリエステル糸は大変丈夫で、耐色性が強いです。
- ポリエステル糸はコットン糸に比べて弾力があるので、丈夫で伸縮性のある縫い上がりとなります。

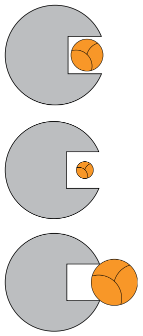
針、糸および布

針と糸の組み合わせには、注意が必要です。

正しいサイズの針を選ぶには、糸の太さだけでなく、縫う布のタイプも考えねばなりません。布の厚みおよび種類によって、糸の太さ、針のサイズおよび針先の形状を決定します。

> 針の状態をチェックしましょう
> 常に針の状態をチェックし、定期的に交換するようにして下さい。傷のある針の使用は、布を傷めるばかりでなく、ミシンの故障の原因にもなります。
>
> 針交換の目安
> 新しい作品に取り掛かる前に、針も新しく交換するとよいでしょう。

針と糸



正しい組み合わせ

きれいに縫うには、糸がこのようにスムーズに針表面の長い溝を通る必要があります。

糸が細過ぎる、または針が太過ぎる場合

溝と糸の間に、隙間があり過ぎます。糸が切れたり、針目が飛ぶ可能性があります。

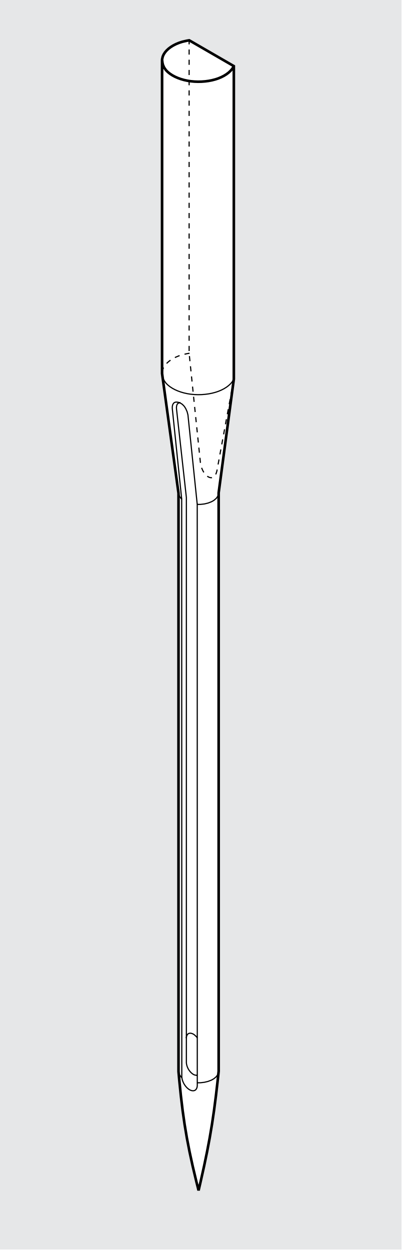
糸が太過ぎる、または針が細過ぎる

糸が針の溝の壁をこすって傷ついてしまいます。糸切れの原因になります。

ガイドライン

布と糸	針サイズ
薄手の布、細い糸（ダーニング用、刺しゅう糸等）	70番から75番
中くらいの布、普通の糸	80番から90番
厚手の布	100番、110番、120番

130/705 H - S / 70



130　針シャンクの長さ

705　針シャンクが平らである

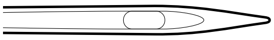
H　針スカーフ

S　針先の形状（この例では、ミディアムボールポイント）

70　サイズ (針シャンクの直径)

針の一覧表

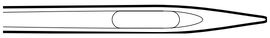
標準針
130/705 H/60 から100



通常の針先、少々丸みを帯びている。

ほとんどすべての天然および合成繊維（織地およびニット）

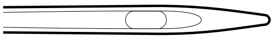
メタフィル針
130/705 H-MET/75-90 または H-SUK/90-100



大きな針穴

メタリック糸用

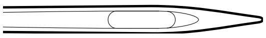
ジャージーおよびストレッチ針
130/705 H-S, H-SES, H-SUK/70から90



ボールポイント

ジャージー地および伸縮性のある布地

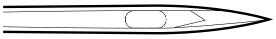
コードネット(トップステッチ)針
130/705 H-N/80から100



長めの針穴、小さなボールポイント

厚手の布地のトップステッチ用

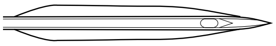
レザー針
130/705 H-LL, H-LR/90から100



カッティングポイント

すべてのレザー、合成皮革、ビニール地シート類

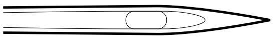
ウィング針(ヘムステッチ針)
130/705 HO/100から120



羽（ウィング）付きの幅広い針

ヘムステッチ用

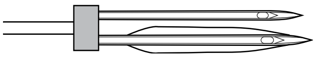
ジーンズ針
130/705 H-J/80から110



非常に細く鋭い針先

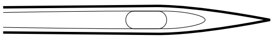
ジーンズ地、キャンバス地、オーバーオール等の厚手の布地

ダブルウィング針
130/705 H-ZWI-HO/100



ヘムステッチ刺しゅうの特殊効果用

マイクロテックス針
130/705 H-M/60から90



特別に細く鋭い針先

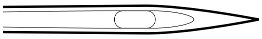
マイクロファイバーおよびシルク地

2本針
130/705 H-ZWI/70から100

2本の針間の長さ 1.0/1.6/2.0/2.5/3.0/4.0/6.0/8.0

伸縮性のある布地の飾りヘム、ピンタック、その他の飾り縫い用

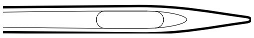
キルティング針
130/705 H-Q/75から90



細く鋭い針先

直線縫いおよびトップステッチに

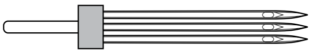
刺しゅう針
130/705 H-SUK/70から90



針穴が大きく、微かなボールポイント

天然および合成繊維への刺しゅう用

3本針
130/705 H-DRI/80



針間の長さ: 3.0

飾り縫い用

機能およびセッティング

一覧表 30

機能ボタン 30

画面の説明 32

機能 34

ソーイング 34

セットアッププログラム 36

メニュー画面 36
- 画面の説明 37
- 壁紙 37
- ソーイング 38
- 糸をカットした後の留め縫い 38
- インフォメーション 40
- バージョン情報 41
- 点検データ 41
- 画面の計測 42
- モニター機能 43
- リセットおよびユーザーデータの削除 44
- アップデート 45
- クリーニング 46
- クリーニング 46
- 上糸通し機構をクリーニングする 46
- 釜に注油する 46
- 布ガイド付自動ボタンホール押え３A をミシンに同調させる 47

チュートリアル 48

トピックのまとめ 48

クリエイティブコンサルタント 49

実用情報 49

ヘルププログラム 50

実用情報 50
- ステッチパターン 50
- 機能 50

バランス機能 51

バランス機能について 51
- 実用縫いおよび飾り縫い 51
- 補正 51
- ベルニナデュアルフィード(上送り機構) 52

バランス機能/押え圧調節 52

押え圧調節 52

ECOエコ 53

エコ機能について 53

機能ボタン

手元スタートストップボタン

- フットコントローラーを使っていないときは、このボタンでミシンの縫い始めと縫い終わりを操作します。
- 縫っている途中に布を回したり、動かしたいときは押えを少し持ち上げます－ホバリングと呼びます。

手元返し縫いボタンまたはバックステップボタン

- 縫い始めと縫い終わりを返し縫いします。ボタンを押している間、返し縫いを続けることができます。
- ボタンホールの長さをプログラムするのに使います。
- ダーニングの長さをプログラムするのに使います。
- 留め縫い機能のついた５番の直線縫いでその縫い終わりを決定します。
- キルター用留め縫いプログラム１３２４番に使います。
- （縫った縫目の軌跡を200針まで）正確にトレースして返し縫いするバックステップステッチ機能を起動させます。

一模様縫い

- この機能を起動すると、ソーイングの間中、ストップのシンボルが表示されます。
- パターンの一つ、または一連のコンビネーションを縫い終わると、ミシンは自動的に停止します。

自動糸カッター

- 上下の糸を自動的にカットします。
- セットアッププログラムにて、2針から6針の留め縫いをプログラムできます。留め縫いをした後、糸をカットします。

メタリック糸またはコードネットを使う場合には、ヘッドフレーム上の糸カッターのみをご使用下さい。

自動糸通し

- ボタンをタッチすると、糸かけおよび針の糸通しが完了します。

2本針、3本針およびウィング針の場合は、ボタンを押してから、手で糸を通す必要があります。
針のサイズが70から120までの場合は、自動糸通し機が使えます。メタリック糸やコードネットのような太い糸は、手で糸を通す方がよいでしょう。

50番、55番、80番、85番および86番の押え金を取り付けている場合は、自動糸通し機能は絶対に使わないようにして下さい。

針上下位置停止

標準設定では、針のシンボルは押え金マークの下に表示されます。

- ボタンを短く押した場合
  - 針が上下どちらかに動きます。（フットコントローラーをかかとで踏み込んだときと同様です。）
- ボタンを長めに押した場合
  - 針が下がります。針の表示は、下位置で表示されます。
  - この状態でミシンを止めると、針は下位置で停止します。
  - これが標準設定となります。
- ボタンをもう一度長めに押します。
  - 針が上がります。針の表示は、上位置で表示されます。
  - この状態でミシンを止めると、針は上位置で停止します。

押え金の位置

- ボタンを押すと、押え金は一旦下がった後、布をセットしやすいよう、少しだけ上がります。縫い始めれば、押え金は下がって布を押えるようになります。
- ボタンをもう一度押すと、押え金が上がり、同時に送り歯は下がります。

自動留め縫いプログラム

- 縫い始める前、または縫っている最中に、ボタンを押します。パターンは縫い終わりで留め縫いされます。留め縫いするステッチの数は、あらかじめプログラムしておきます。
- コンビネーションを縫い始める前にボタンを押すと、最初のパターンの縫い終わりを留め縫いします。留め縫いするステッチの数は、あらかじめプログラムした数となります。
- コンビネーションを縫っている最中にボタンを押すと、今現在縫っているパターンの縫い終わりを、プログラムされたステッチ数で留め縫いします。
- 留め縫いした後、ミシンは自動的に停止します。
- 留め縫いのステッチ数およびステッチタイプは、セットアッププログラムで指定できます。

スライドスピードコントロール

- 縫うスピードを、スライドを動かすことで無段階に調整できます。

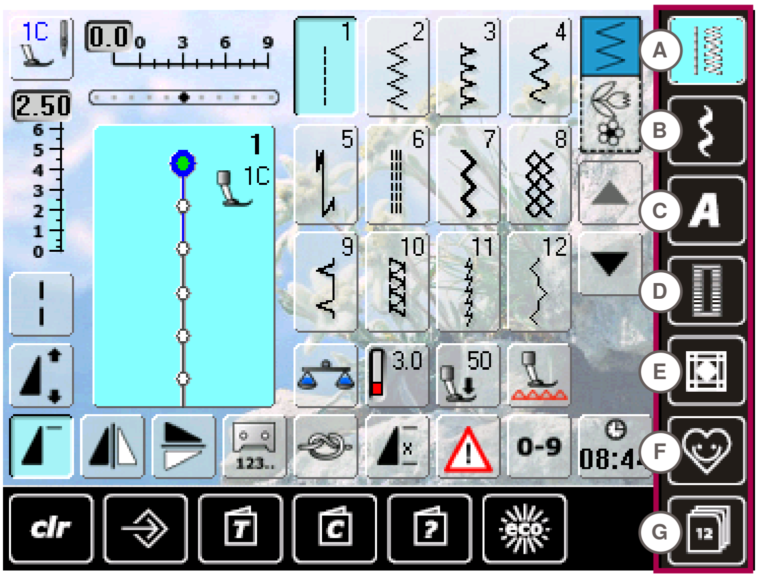
針基線の変更

- 左ボタンをタッチすると、針基線を左側に移動できます。
- 右ボタンをタッチすると、針基線を右側に移動できます。
- 早く動かしたい場合には、ボタンを押したままにします。
- 全部で11の針基線があります。(左右にそれぞれ5ヶ所ずつ、および中央)

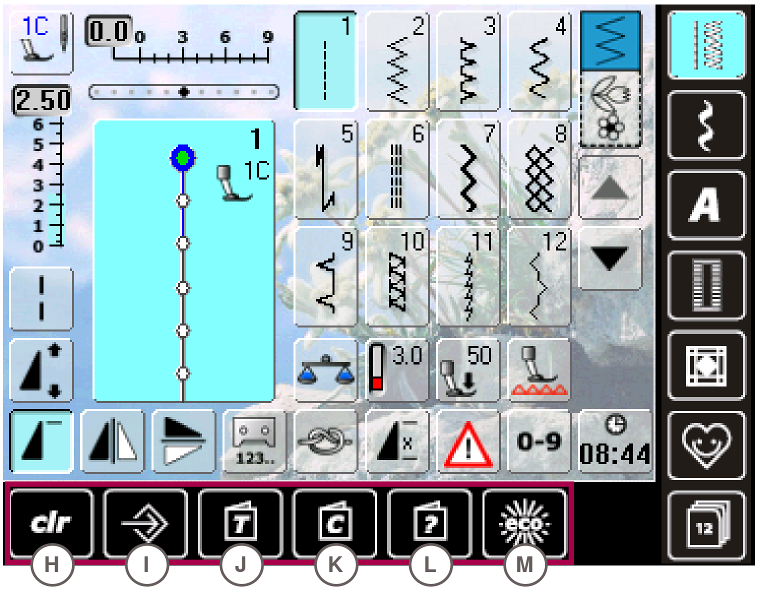
振り幅および送り長さ調整ダイヤル(多機能ダイヤル)

- 振り幅および送り長さを調整できます。
- 糸調子を変更できます。
- 押え圧を調整できます。
- ボタンサイズまたはボタンホールの切り込みの幅を調整できます。
- バランスを調整できます。

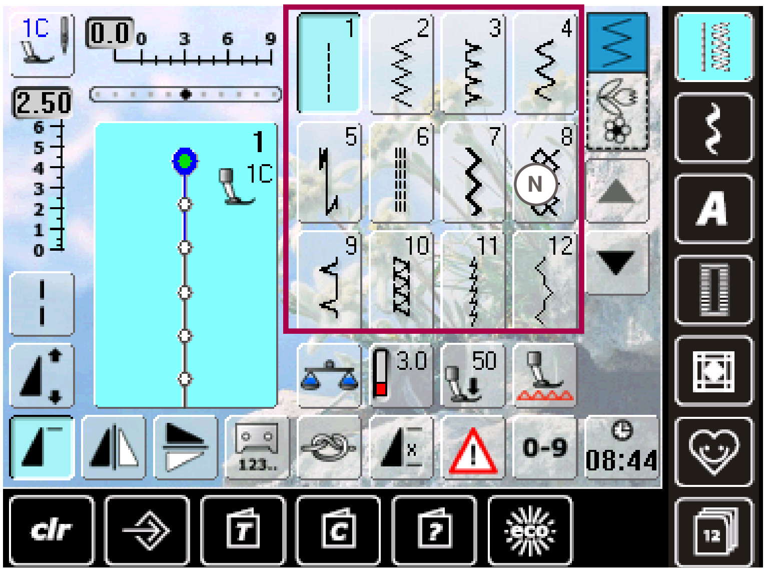
画面の説明



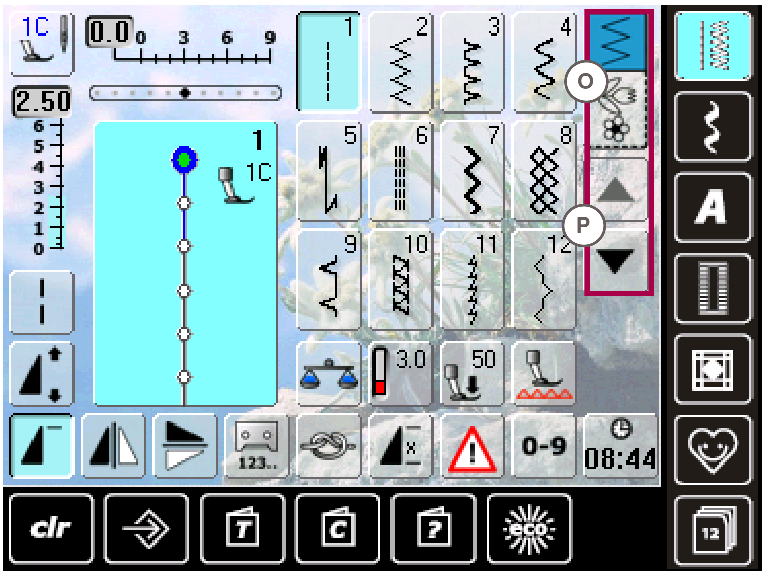
メニュー選択画面
- **A** 実用縫い
- **B** 飾り縫い
- **C** アルファベット
- **D** ボタンホール
- **E** キルトステッチ
- **F** パーソナルプログラム
- **G** 履歴



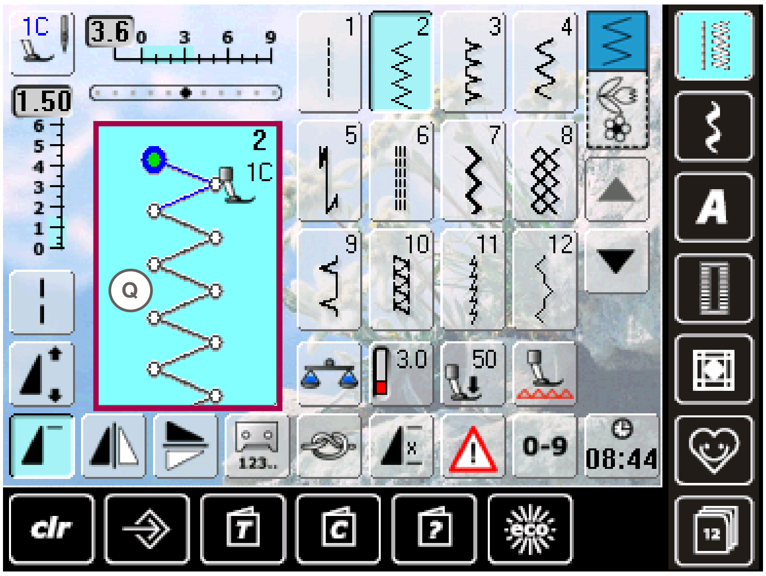
システム設定画面
- **H** クリアー（削除）
- **I** セットアッププログラム
- **J** チュートリアル
- **K** クリエイティブコンサルタント
- **L** ヘルプ
- **M** ECOエコ



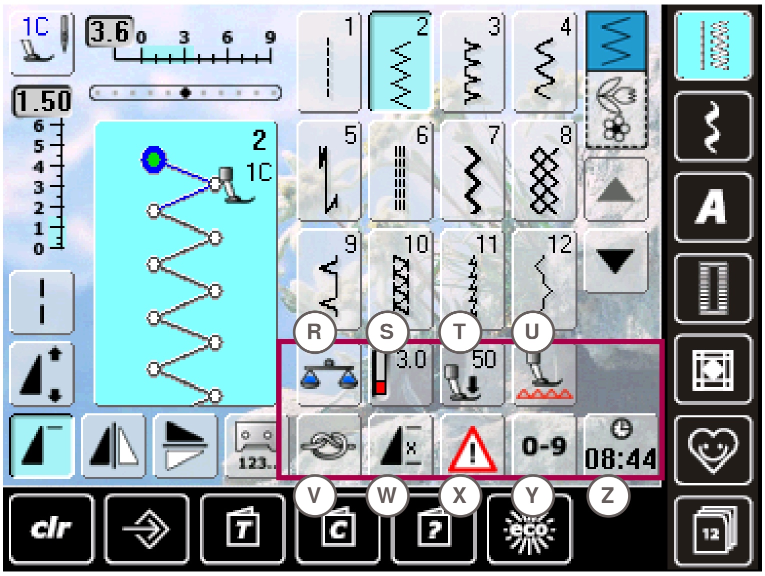
ステッチ画面
- **N** ステッチのパターン選択



選択画面
O シングルまたはコンビモード
P スクロールアップまたはダウン



ステッチ表示エリア
Q 選択したステッチパターンの表示



機能画面
R バランス
S 糸調子
T 押え圧
U 送り歯を下げる
V 留め縫いプログラム
W パターンリピート（連続模様）
X セキュリティプログラム
Y ステッチを番号で指定する
Z 時刻およびアラーム

今現在使用中の機能は、青色でハイライト表示されます。使っていないものは、灰色で表示されています。
マルチ機能のキーは、数秒間押し続けることでスイッチを切ることができます。

選択を確定する
- 変更または選択をオンにしたり、確定したりするのに使います。

画面を閉じる
- アプリケーションを閉じます。
- 直前に使っていた画面に戻します。

ロングステッチ
- 一針おきに縫います。送り長さの最長は12mmです。
- 実用縫いおよび飾り縫いの両方に使用可能です。
- ボタンホールおよび横送り縫いには使えません。

上下に反転
- 選択したステッチパターンを、縫っている方向に対して上下に反転します。

左右に反転
- 選択したステッチパターンを、縫っている方向に対して左右に反転します。

ステッチカウンター
- ボタンホールや直線縫い等、希望の長さまで縫ったら、手元返し縫いボタンを押します。
- 表示が«自動»に変わります。ボタンホールの場合は、2列目を手元返し縫いボタンで確定した後、表示が変わります。
- 選択したステッチパターンは、記憶されません。

パターン拡大2倍から5倍
- アイコンを1回以上タッチすると、2から5までの数字が表示されます。
- ステッチの形状は、そのまま保存されます。
- パターンが拡大されます。

頭出し機能
- ステッチパターンまたはプログラムされたステッチの縫い始めに戻ります。

ボタンホールの長さを直接入力する
- ボタンホールの希望の長さを、振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使ってミリ単位で入力します。

パターンリピート1回から9回
- アイコンを1回から9回の間でタッチします。1から9の数字が表示されます。
- 1の場合、ステッチまたはコンビネーションを1回縫い終わった時点で停止します。
- 2から9の場合は、表示された回数縫った時点で停止します。

手動ボタンホール
- 手動ボタンホールの画面が表示されます。
- 手動のボタンホールは、その形状により、5段階または7段階で縫うことができます。

ボタンホールの長さをプログラムする
- ボタンホールを選択すると、アイコンが自動的に青くハイライト表示されます。
- ボタンホールの長さを、手元返し縫いボタンを使うか、またはアイコンにタッチして直接プログラムする方法で設定します。
- 長さのプログラムが完了すると、機能はオフになります。
- 新しい長さをプログラムしたい場合には、もう一度アイコンをタッチします。

送り歯の位置
- «送り歯を下げる»のアイコンをタッチして、送り歯を下げます。
- 送り歯を下げると、赤く点滅して表示されます。

ボタンホールの切り込みの幅
- 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使って、ボタンホールの切り込みの幅を、0.1mmから2.0mmの間に設定します。
- 標準の設定は、0.6mmです。

留め縫い
- 縫い始める前に、アイコンをタッチすると、パターンの縫い始めを4針留め縫いします。
- 縫っている最中にアイコンをタッチすると、ステッチの縫い終わりを留め縫いした後、ミシンは停止します。
- パターンコンビネーションに留め縫い機能をプログラムすると、コンビネーションに含まれる個々のパターンの縫い始めまたは縫い終わりを留め縫いします。

多機能ボタン
- コンビネーションモードでのみ、使用可能です。
- 選択すると、その他の機能が画面に表示されます。

アルファベットの文字サイズ
- アルファベットを選択した場合、当初の文字のサイズは9mmです。
- 機能を選択すると、«2»がオンになり、アルファベットのサイズは6mmになります。

コンビネーションの分割(1)

- コンビネーションまたはメモリーフォルダーは、分割することができます。
- カーソルの当てられている箇所のみを縫うことができます。
- その他の部分を縫うには、カーソルを縫いたい箇所に当てる必要があります。

コンビネーションの分割(2)

- コンビネーションは好きなように分割できます。
- 縫い終わると、針は自動的に次の場所に移動します。

押え金の表示

- ステッチパターンに合わせて、お薦めの押え金の番号を表示します。
- 押え金が上にある場合は、アニメーションで表示されます。
- アイコンをタッチします。
- その他お薦めの押え金の番号が表示されます。

バックステップ機能

- 縫い終わったステッチの軌跡を200針まで正確にトレースして返し縫い出来ます。(機能の使い方は79ページを参照して下さい)

保存

- ステッチパターンコンビネーションおよび文字を保存します。

削除

- 単一のステッチパターン、パターンコンビネーション、メモリーバンクの内容、パーソナルプログラムに保存したステッチパターン等を削除できます。

バランス

- 前送りおよび返し縫いのバランスを調整します。
- デュアルフィード(上送り機構)のバランスを調整します。

ステッチを番号で指定する

- ステッチパターンの番号を入力して、ステッチパターンを呼び出すことができます。

手元返し縫いボタン

- 押し続けると返し縫いを続けます。(機能の使い方は79ページを参照して下さい)

大文字/小文字

- アルファベットの大文字と小文字の切り替えができます。

ファイルドロワー

- 保存したステッチを見ることができます。

糸調子

- 上糸調子を変更します。
- 数値は、アイコンの中に表示されます。

押え圧

- 多機能ボタンを使って、押え金の圧力を増減できます。
- 圧力の値は、アイコンの中に表示されます。

時刻およびアラーム

- 画面の上部分に、«+» および «-»アイコンを使って今現在の時刻をセットします。
- 画面下のアラームのアイコンをタッチします。
- アラームの時刻を«+» および «-»、または多機能ボタンを使って、セットします。個人的なメッセージを入れたい場合には、キーボードから入力して下さい。
- 今現在の時刻が、赤い数字で表示されます。

作品に取り掛かる前に、使用する土台布と同じ布のはぎれを使って試し縫いをしましょう。

セキュリティプログラム

- ある種の針のアイコンを選択した場合に、振り幅を自動的に制限することができます。
- これにより、2本針等の特殊針が押え金または針板にぶつかって折れる事故を防ぎます。
- 針に記された数字は、針の間の長さをミリ単位で表しています。
- 標準針アイコンをタッチすると、標準針機能が再びオンになり、振り幅制限が解除されます。
- 選択した針板によっては、針が板にぶつかって折れないよう、振り幅が自動的に制限されます。
- ミシンの電源を一旦オフにしてから再びオンにしても、この機能は残ります。

シングルモード

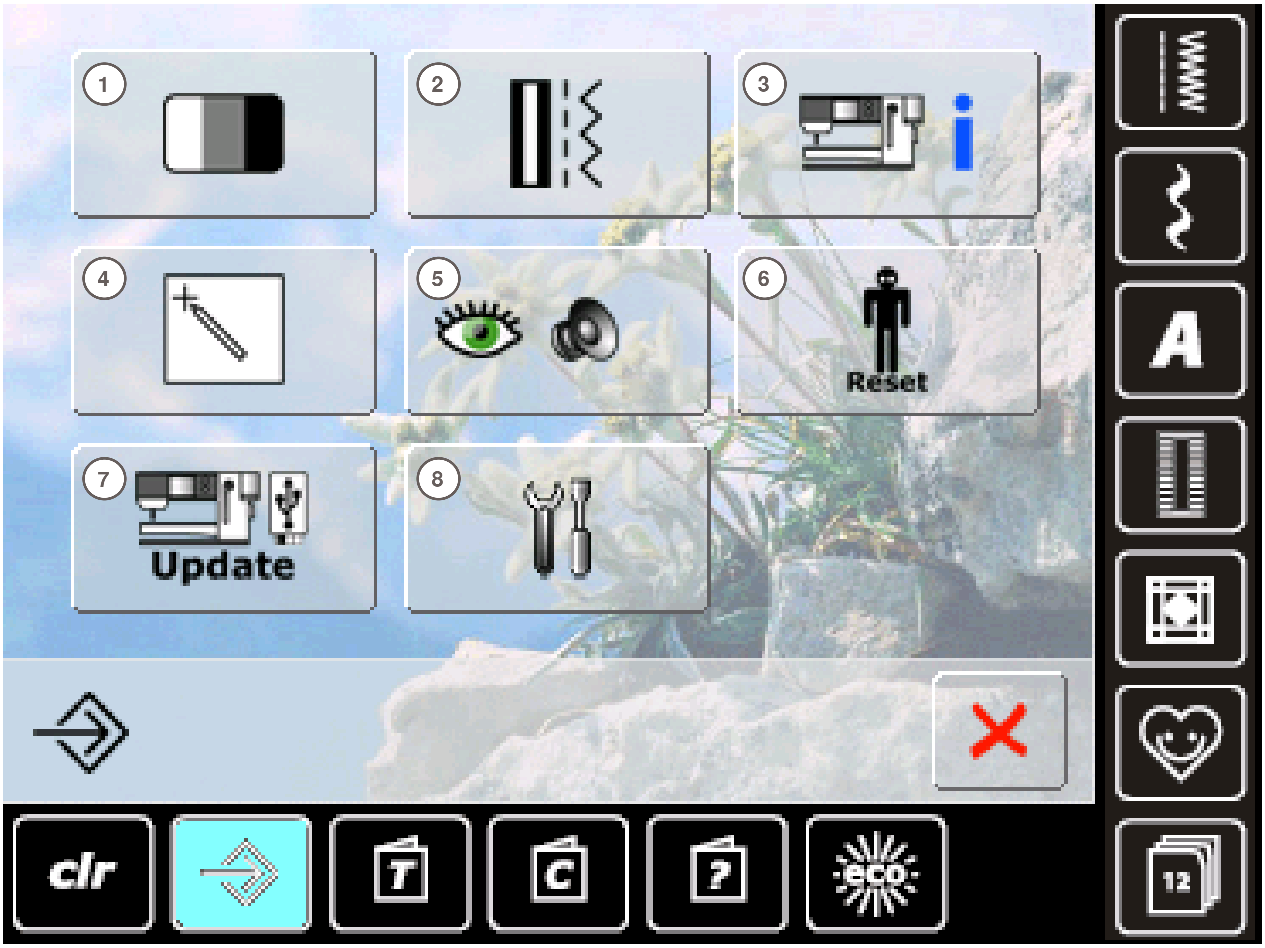
- シングルモードは、ミシンの電源をオンにすればいつでもオンになります。選択したステッチのみを縫う機能です。

コンビモード

- ボタンを押します。
- コンビモードがオン(青)になります。ステッチコンビネーションのプログラムが可能です。

メニュー画面

セットアッププログラムで、お好みのタッチスクリーンをデザインすることができます。
セットアッププログラムで加えた変更は、そのままミシンの電源をオフにした後も保存されます。
このルールに当てはまらない場合は、それぞれの関連する機能のページに説明されています。



選択メニュー
1　画面設定
2　ソーイングの設定
3　インフォメーション
4　画面の計測
5　モニターの設定
6　基本設定のリセット
7　ミシンのアップデート
8　ミシンのクリーニング

カスタマイズした内容は、ミシンの電源をオフにした後も保存されます。
設定は、いつでもプログラムし直すことができます。

システムの設定は、振り幅または送り長さ調節ダイヤル、あるいは«+»または«-»アイコンを使って変更することができます。
«リセット»ボタンで、基本設定をリセットすることができます。

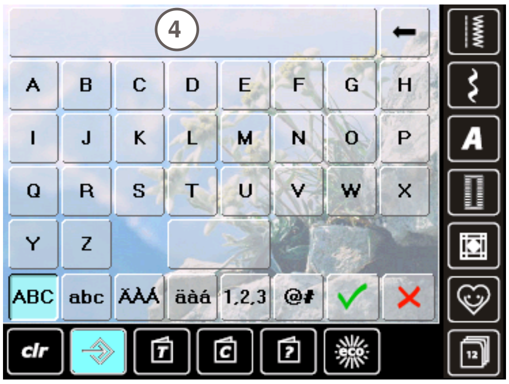
画面の説明

明るさ

- ► 振り幅調節ダイヤルを回すか、«+»または«-»アイコンにタッチすることで、画面の明るさ①を調節できます。
- ► 明るさは«+»または«-»アイコンの背景となっているブルーのバーに、数値で表示されます。
- ► 基本設定は、色の濃いバーで表示されます。

ソーイングライト

- ► ②のアイコンがオンになっている時は、ソーイングライトが点灯しています。
- ► アイコンがオフのときは、ソーイングライトもオフの状態です。
- ► ソーイングライトの明るさは、送り長さ調節ダイヤルまたは«+»«-»アイコンで調節できます。



ウェルカムテキスト

- ► ウェルカムテキスト③は自由に作成できます。
- ► スペースバーは、文字キーの下にあります。
- ► 入力したテキストは、文字キーの上のテキストバー④に表示されます。
- ► テキストバーにタッチすると、入力した内容を消去することができます。

- ► «バックスペース矢印»アイコンで、入力したテキストを右から左にかけて一文字ずつ削除することができます。

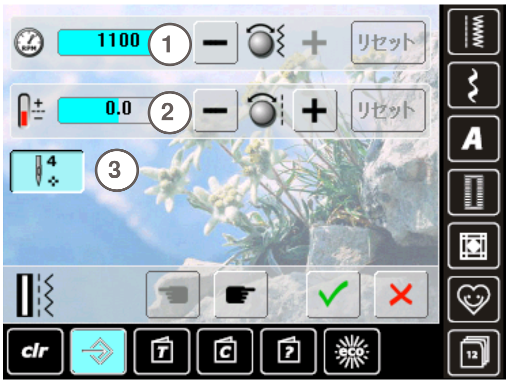
> - ► アルファベットの大文字«ABC»(標準)
> - ► 小文字«abc»
> - ► 数字および数字に関連する文字類
> - ► 特殊文字

壁紙

お好みの壁紙をお選び下さい。

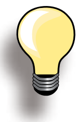
- ► 全部で13種類のイメージをご用意しました。
- ► スクロールアイコンを使ってご覧下さい。
- ► 標準のイメージは、「エーデルワイス」です。

ソーイング



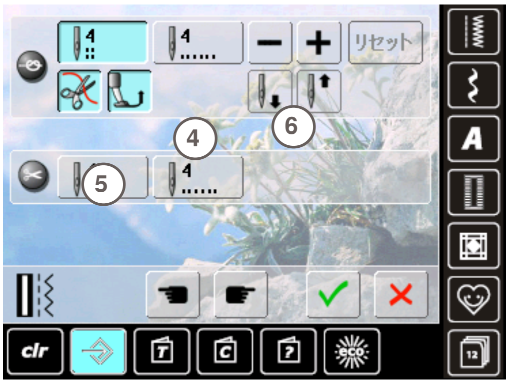
モータースピード
- ①で最高スピードを変更できます。
- バー上に表示された数値は、1 分間に縫えるステッチの数です。基本の値は、色の濃いバーで表示されます。

糸調子
- ②で、上糸調子の基本設定 (0) をプラスマイナス20%まで変更できます。
  0 = 基本設定



糸調子に変更を加えると、その後のすべてのステッチおよびパターンに影響します。また、ミシンの電源をオフにした後も設定は保存されます。

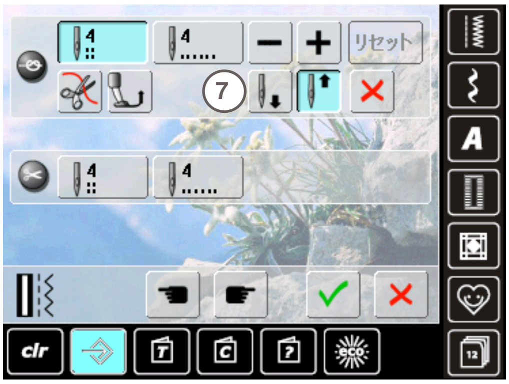
糸をカットした後の留め縫い
- 機能③がオンになっているのが、標準設定です。
- 自動糸カッターを使用している場合には、縫い終わりに4針留め縫いします。
- 機能をオフにしている場合は、留め縫いはされません。



自動留め縫いプログラム
- 留め縫いに使うステッチの種類および数を設定できます。
- 標準設定では、同じ箇所に4針の留め縫いをします。
- 前送りで留め縫いをしたい場合には、機能④を選択します。
- 留め縫いのステッチ数は、3針から6針の間で変更可能です。

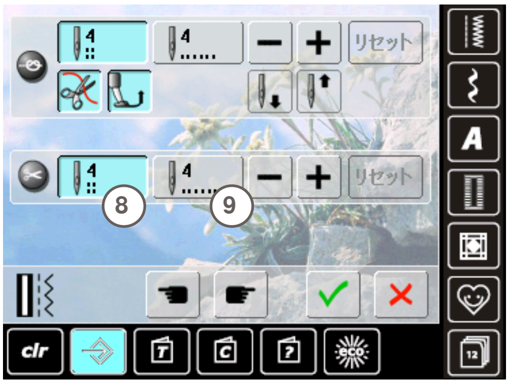
自動糸カッター
- 機能⑤がオンになっている場合は、縫い終わりで上下両方の糸端が自動的にカットされます。

押え金を上げる
- ⑥の機能がオンになっていると、留め縫いの後に押え金は自動的に上がります。
- 機能がオフの場合は、押え金は下位置に止まります。



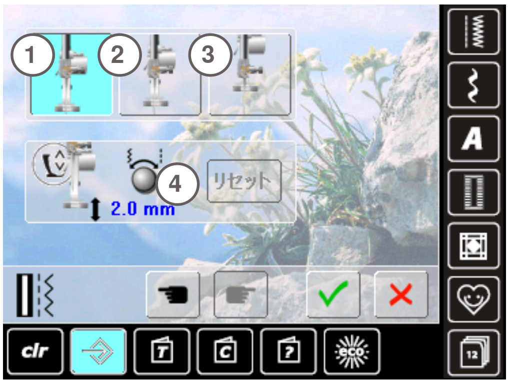
針停止位置の調整

- 留め縫いの際、自動糸カッターおよび押え金を上げる機能がオフになっている場合には、針停止位置⑦を選択できます。
- 標準設定では、留め縫いが完了した後、ミシンを停止すると、針は上位置、押え金は下位置でそれぞれ停止します。
- «針下位置» アイコンをタッチします。
- ミシンは留め縫いをした後で針を下の位置にして停止します。



自動糸カッターおよび留め縫い

- 糸をカットする前に留め縫いするステッチの種類および数をプログラムできます。
- 同じ場所での留め縫いを選択する場合は機能⑧、前送りで留め縫いをしたい場合には、機能⑨をタッチします。
- ステッチの数は、2針から9針の間で設定できます。
- 標準設定では、留め縫いはプログラムされていません。



針が下位置で停止する場合の押え金の位置

- アイコン①がオンになっている場合、ミシンを停止すると、押え金は下位置で停止します。
- アイコン②がオンになっている場合は、押え金は布を回転させるのに都合のいい程度上がります。(ホバリング・ポジション)
- アイコン③がオンになっている場合は、押え金は最高の位置まで上がります。

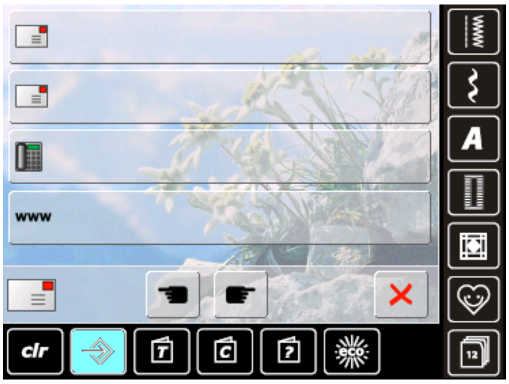
押え金のホバーポジション

- 振り幅および送り長さ調節ダイヤルで、ホバーポジションを0mmから最高7mmの間で設定できます。(標準設定は、2 mmです。)
- 設定した値(布と押え金の間の距離)は、④のアイコンに表示されます。

インフォメーション

針チャート
- ► 今現在セットされている針を選択します。
- ► ミシンの電源をオンにすると、選択した針が表示されます。
- ► 矢印アイコンをタッチして、針タイプをスクロールすることができます。

言語
- ► 矢印アイコンをタッチして言語リストをスクロールし、必要なものを選択して下さい。



お買い上げ店の情報
- ► 灰色のバーを押すと、お買い上げ店の情報を入力できます。
  - 店舗名
  - 担当者の氏名
  - 電話番号
  - ホームページもしくはeメールアドレス

バージョン情報

- ミシンおよび刺しゅう機（ミシンに接続した状態でご覧下さい）の今現在のバージョン情報を見ることができます。
- これまでのステッチ総数および最後の定期点検以降に縫ったステッチ数が表示されます。

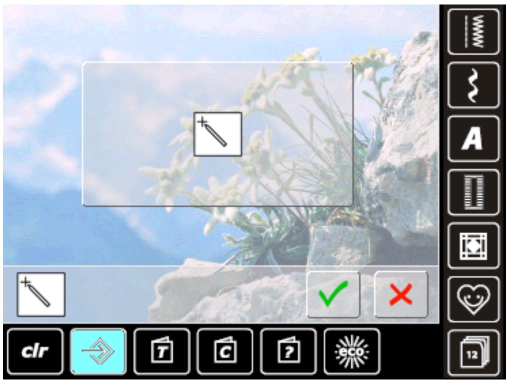
点検データ

お手持ちのミシンの点検データをUSBスティックに保存して、お買い上げ店の担当者に送ることができます。

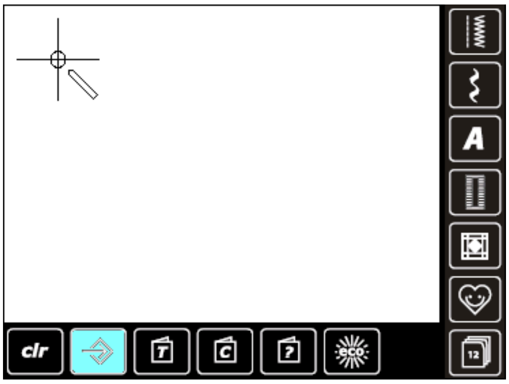
- USBスティックをミシンに接続します。
- «LOG(ログ)»をタッチします。
- データの保存が完了したら、スティックを取り外します。

画面の計測

計測の画面は、次の方法でも開くことができます。
- ミシンの電源をオフ«0»にします。
- フロントパネルにある針基線決定用の2個のボタンを押したままにします。
- ミシンの電源をオンにして、計測の画面が開いたら、ボタンを放します。



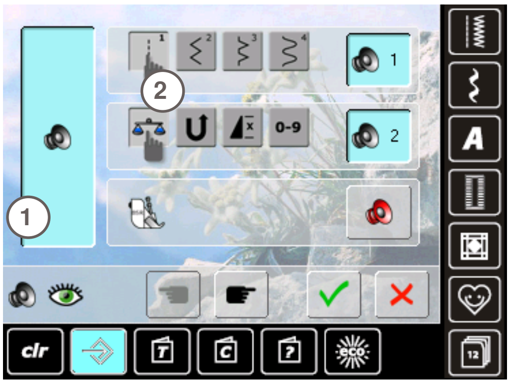
- 計測アイコンをタッチします。
- 他の画面が表示されます。



- タッチペンで、十字の中央をタッチします。十字が次の場所に移動します。
- この作業を繰り返して、合計３ヶ所を測定します。
- ✓ をタッチして、設定を保存します。

032298.53.10_1204_B820_JP

モニター機能



オーディオシステム

- サウンドは①でオンオフの操作ができます。

ステッチパターン、機能、BSRを選択する

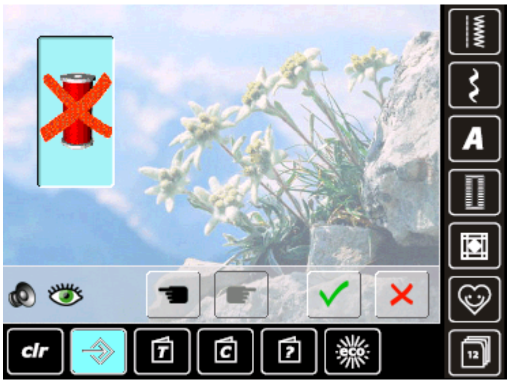
- ステッチパターンや機能の選択②は、音で確定できます。
- お好みの音が鳴るまで、スピーカーのアイコンを押し続けます。
- サウンドは6種類あります。
- アイコンはブルーで表示されます。サウンドは1から6までの番号で表示されます。
- 機能用のサウンド（中央）およびBSR機能によるキルティング用のサウンド（下）も、同様にオンオフの操作ができます。
- 「サウンドオフ」の選択肢は、スクロールしていくと、サウンドの最後に表示されます。

モニター機能

以下のモニター機能は、オンオフの操作ができます。

上糸センサー
下糸センサー
上下糸の最適な糸締り
空縫いの状態でソーイングする

- 開いた目が青色で囲まれている場合は、機能がオンになっています。
- 閉じた目が灰色で囲まれている場合は、機能はオフの状態です。
- モニタリング機能のサウンドは、機能用オーディオシステムで設定できます。



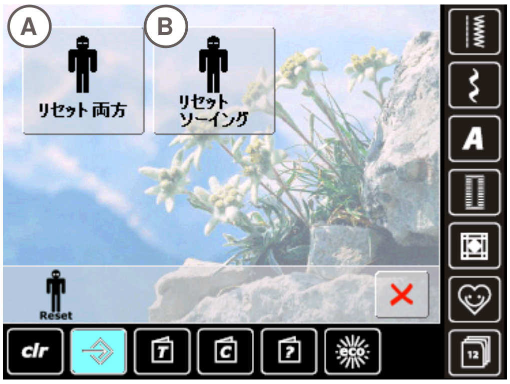
糸が無い状態でソーイングするには

- 上糸を掛けないで下さい（または、取り除いて下さい）。
- 左側の広い部分をタッチして下さい。
- 糸を掛けないでソーイングするモードがオンになりました。
- 他の３つのモニター機能はオフとなり、画面から消えます。
- 自動糸切り機能はオフの状態です。
- 別に押え金を選ぶには、またミシンの電源を切るには、この機能をオフにして下さい。

リセットおよびユーザーデータの削除

«リセット»アイコンにタッチして、以下のオプションから希望のものを選択します。

1 リセットの設定
2 ユーザーデータの削除



リセットの設定

1のバーにタッチして、以下のオプションから選択します。

A すべてリセット
B ソーイングのリセット

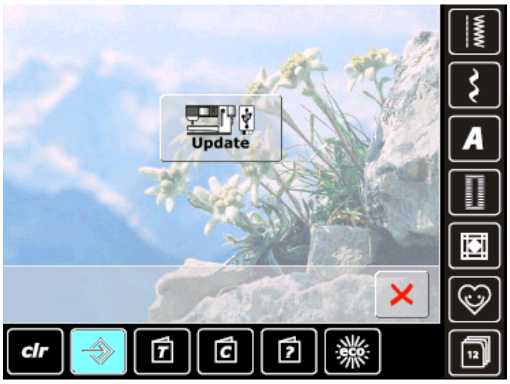
- ► 設定を初期の状態に戻したいものをタッチして下さい。
- ► ✔ で確定します。
- ► 元の画面に戻ります。
- ► 選択メニューが表示されるまで、✖ をタッチします。

ユーザーデータの削除

2のバーにタッチして、以下のオプションから選択します

C ソーイングの «パーソナルプログラム»

- ► 設定を削除したいものをタッチして下さい。
- ► ✔ で確定します
- ► これでデータは削除されました。前の画面に戻ります。
- ► 選択メニューが表示されるまで、✖ をタッチします。

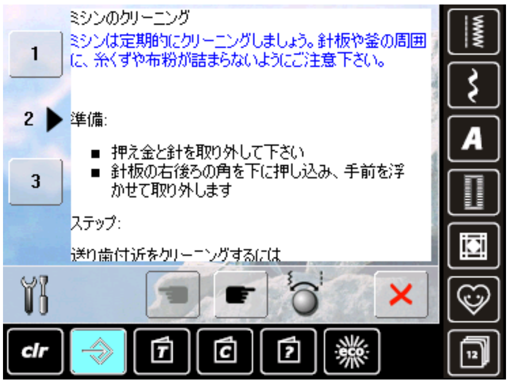


アップデートの方法

- 新しいソフトウェアバージョンの入ったBERNINAUSBスティックをセットします。
- «アップデート»をタッチします。
- もう一度 «アップデート» をタッチして、作業を開始します。
- 以下の状態を確認します。
  - BERNINA USBスティックがセットされているか。
  - 少なくとも10MB以上の空き容量があるか。
  - スティックに正しいソフトウェアバージョンが含まれているか。
- データおよび設定が認証されます。
- アップデートが完了すると、メッセージが表示され、ミシンの準備ができます。
- アップデートがスタートできない、または作業中に問題が生じた場合は、エラーメッセージが表示されます。

> ⚠ 「アップデート完了」のメッセージが表示されるまで、BERNINA USBスティックは絶対に取り外さないで下さい。

クリーニング

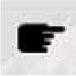


クリーニング

- ► ミシンのクリーニングは、取扱説明書に従って行って下さい。
- ► 1のフィールドをタッチします。
- ► 自動糸カッターの糸キャッチャーが右側に移動します。
- ► ピンセットを使って、注意深く糸くず等を取り除きます。
- ► 3のフィールドをタッチします。
- ► 自動糸カッターは、使用可能な状態に戻ります。

上糸通し機構をクリーニングする

- ► 説明とアニメーションに従がって上糸通し機構をクリーニングしましょう。



釜に注油する

- ► 説明とアニメーションに従がって釜に注油します。

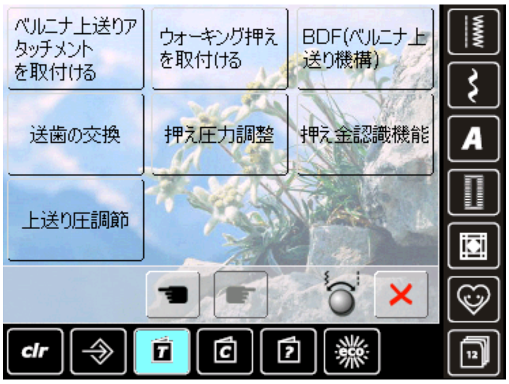
布ガイド付自動ボタンホール押え３Ａをミシンに同調させる

- 布ガイド付自動ボタンホール押え３Aをミシンに取り付けます。
- ミシン正面の（緑のイルミネーションの）スタート・ストップボタンを押します。
- 押え金が前後に動き出します。動きが小さい時は、はずみ車を更にもう少し手前に回して下さい。
- 押え金の同調が終わるとミシンは、画面上に同調が終わった事を表示します。
- これで同調作業は完了しました。

トピックのまとめ

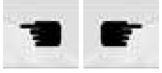
ガイド画面ではソーイング に関するさまざまな情報および説明をご覧いただけます。

1　糸かけについて
2　針について
3　押え金について
4　BSR(ベルニナステッチレギュレーター)について
5　トラブルシューティング
6　FHSフリーハンドシステム
7　その他
8　ボタンホール
9　キルティング
10　テクニック



- 必要なトピックを選択して下さい。ここでは例として押え金を選択します。
- 押え金に関するトピックの一覧表が表示されます。
- 必要なトピック(例・押え金の交換等)を選択します。

- 情報が表示されます。
- 画面上の説明文をスクロールさせるには、送りまたは振り幅調節ダイヤルを使うか、または指先かタッチペンを使って直接画面上でスクロールさせます。
- 表示されるアニメーションは画面右下コーナーのアイコンをタッチすることで止めたり、再スタートさせたりすることが出来ます。
- アニメーションを画面上で指先かタッチペンでタッチして左右に動かしてみてください。
- 表示されたアニメーションがマニュアルで操作できます。
- アニメーションを再度タッチすると自動再生モードに戻れます。

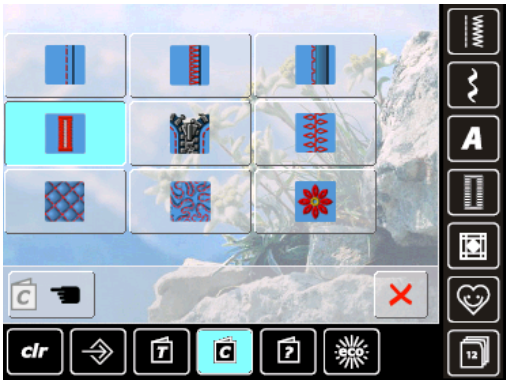


- 上記の2つのアイコンは、ページをめくるのに使います。
- ✕ をタッチすると、ガイド画面を閉じることができます。
- 直前に見ていたページに戻ります。

クリエイティブコンサルタントでは、ソーイングテクニックに関するさまざまな情報やヘルプをご覧いただけます。布と使いたいテクニックを選択すれば、その作業に適した針、押え金等に関するアドバイスが表示されます。
押え圧および上糸調子は、自動的に調節されます。

布のタイプ

- ► よく使われる布を、3つのカテゴリーに分けてリストアップしています。
- ► シルク等、使いたい布を選択して下さい。
- ► 使いたい布がリストにない場合は、一番近い性質の布を選択します。

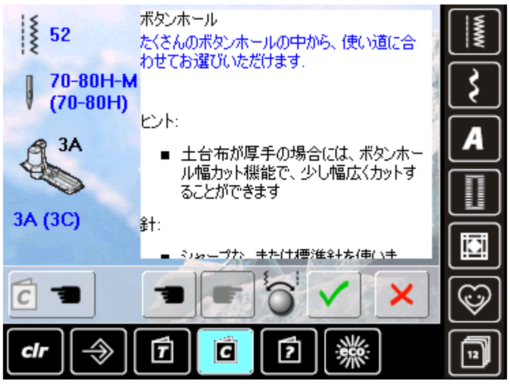


ソーイングテクニックの一覧表

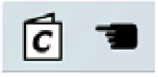
- ► 布タイプを選択すると、使用可能なソーイングテクニックが表示されます。
  - シーム縫い
  - オーバーキャスト縫い
  - まつり縫い
  - ボタンホール
  - ファスナー
  - 飾り縫い
  - ミシンキルト
  - フリーモーションステッチ
  - アップリケ
- ► 使いたいソーイングテクニック（例・ボタンホール等）を選択します。
- ► 該当するテクニックがリストにない場合は、一番近いテクニックを選択して下さい。

お薦め情報

- ► 選択した布およびテクニックに適したお薦め情報が表示されます。
- ► ガイド画面の該当情報へのリンクが表示されます。
- ► より多くの情報を得るための追加情報が表示されます。



- ► ボタンホールのリンクを選択します。
- ► ボタンホールに関するインフォメーションが表示されます。
- ► 振り幅または送り長さ調整ダイヤルを使って、スクロールします。

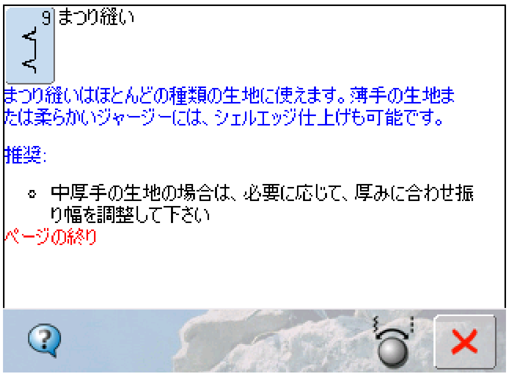


- ► クリエイティブコンサルタントのホーム画面が表示されます。
- ► ✔を選択すると、お薦めのステッチパターンを含む画面が表示されます。
- ► ✖を選択すると、クリエイティブコンサルタントの画面は閉じます。
- ► 前画面に戻ります。

032298.53.10_1204_B820_JP

ヘルププログラムには、個々のステッチおよび画面上の機能に関する情報が含まれています。どの画面で作業をしていても、ステッチおよび機能に関するヘルプ画面を開くことができます。

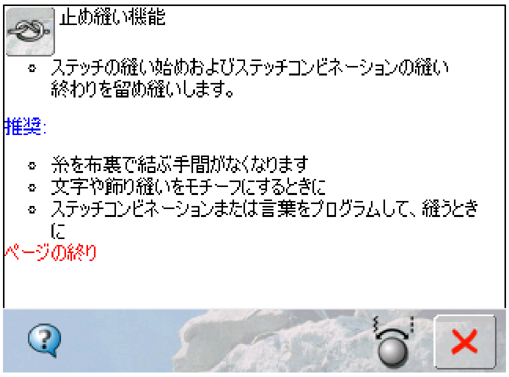
- «?»アイコンをタッチします。
- 使いたいステッチパターンまたは機能を選択します。



ステッチパターン

この画面には、以下の情報が表示されます。

- ステッチパターンの名称
- 適した素材
- その使い方



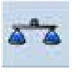
機能

この画面には、以下の情報が表示されます。

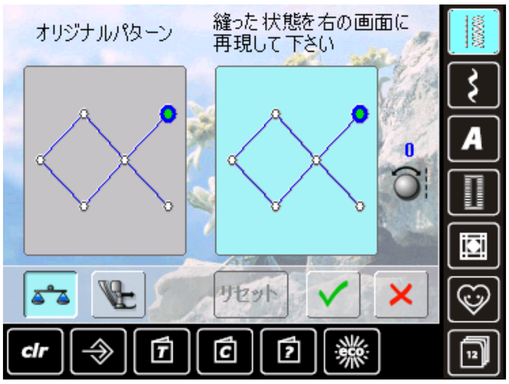
- 機能の名称
- 機能に関する説明
- その使い方

- ✕ を選択すれば、ヘルプ画面を閉じることができます。
- 前画面に戻ります。

バランス機能について

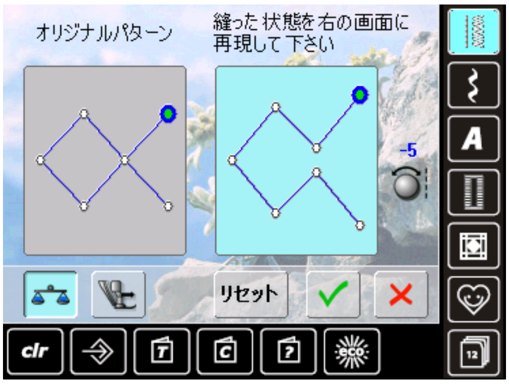


ミシンはすべて工場出荷時のテストを経て、最適の状態で設定されていますが、いろいろな布、糸、安定紙および芯地を使うことで、時にはプログラムどおりに縫えないこともあります。そんなときには、バランス機能で、ステッチを布の性質に合わせて修正しましょう。



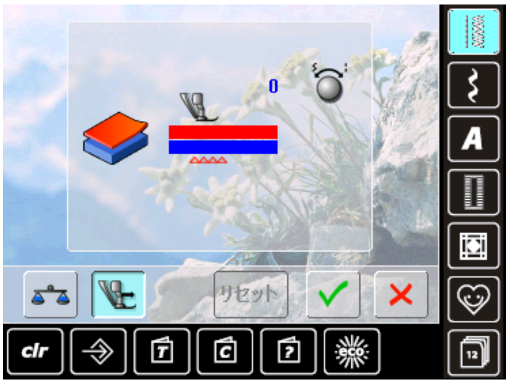
実用縫いおよび飾り縫い

- 正常なステッチのパターンが右側画面に表示されています。
- 右側には、変更後のステッチが表示されます。
- 画面を開いたままの状態で、縫いながら修正を加えることが可能です。



補正

- 今現在縫っているステッチ（例・ネットステッチ）を開きます。実際に縫っているステッチと同じ形ではないはずです。
  - 送り長さ調節ダイヤルを回して、画面右側に表示されているステッチが、実際に今縫っているステッチと同じ形になるように調整します。



ベルニナデュアルフィード(上送り機構)

- ► 標準設定では、布はデュアルフィードおよび送り歯の両方に均一に送られるようになっています。

上の布のみが遅れて送られてしまう場合

- ► 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを時計回りに回し、上の布を送るスピードを速めて、上下の布が均等に送られるよう調整します。

上の布のみが早く送られてしまう場合

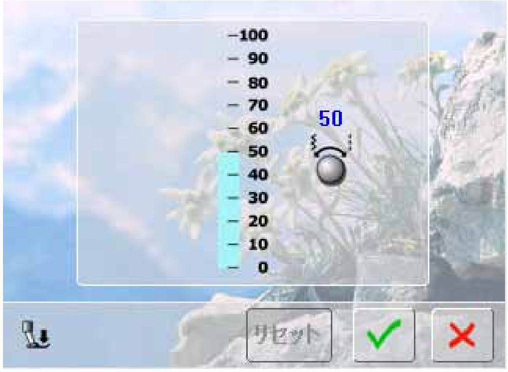
- ► 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを時計と反対回りに回し、上の布を送るスピードを緩めて調整します。

- ► リセットで、選択したパターンに加えた変更、またはデュアルフィードを削除することができます。
- ► ✔を選択すると、変更を保存して画面を閉じることができます。
- ► ✖を選択すると、画面を閉じることができます。この場合、基本設定に戻ります

押え圧調節

押え圧を調節する

- ► «押え圧調節»アイコンをタッチすると押え圧の調節画面が表示されます。
- ► 押え圧を調節するには振り幅、または送り調節ダイヤルを回して強く、又は弱くします



- ► 厚地を縫う時やキルティングをする時は、いずれかの調節ダイヤルを反時計方向に回して圧力を下げます。
- ► 押え圧力が緩められて生地を動かし易くなります。
- ► ✔ マークをタッチして変更を確定させます。
- ► «リセット»アイコンをタッチすると標準の設定に戻せます。

エコ機能について

作業の中断が長く続く場合、ミシンを節電モードにすることができます。

- ボタンを押します。
- 画面が暗くなります。
- 電力の消費量が少なくなり、ソーイングライトもオフになります。
- このモードは、チャイルドセーフティ機能としても使えます。
- この状態では、ボタンはすべてロックされ、画面上で何も選択できません。ミシンをスタートすることもできません。
- ボタンをもう一度押すと、元に戻ります。

メインステッチカテゴリー

ステッチパターン 56

ステッチの選択 56
画面上で選択 56
ステッチ番号による選択 56
押え金を選ぶ 56

ステッチパターンのカスタマイズ 57
振り幅および送り長さの変更 57
針基線の変更 57
手元返し縫いボタンによる留め縫い 57
ステッチメモリーへの一時的な変更 57
すべてのステッチタイプおよび素材に初期設定に戻す 57

実用縫い 58

実用縫いについて 58

飾り縫い 60

飾り縫いについて 60

テーパリング 61
設定 61

各種機能と組み合わせる 62
飾り縫いの反転 62
ロングステッチ機能 62
パターンの拡大 62
ロングステッチを使ってパターンを拡大 63
2本針、3本針またはウィング針 63

コンビモード 64
実用縫いと飾り縫いを組み合わせる 64

アルファベット 65

アルファベットについて 65

レタリング 65

完璧な文字を縫うために 65

文字の組み合わせ 66
アルファベット 66
コンビネーションの修正 66

各種機能を組み合わせる 67
小文字を選択 67
サイズの変更 67

ボタンホール 68

ボタンホールについて 68

各種機能と組み合わせる 69
手動による5段階または7段階ボタンホール 69

バランス 70

長さを直接入力する 71
ボタンサイズの測定 71

自動ボタンホールをプログラムする 72
標準およびストレッチボタンホール 72
ラウンドエンドおよびキーホールボタンホール 72
手縫い風ボタンホール 73
ステッチカウンターボタンホール 73
すべてのボタンホールに 73

長期メモリー 74

ボタン縫い付けプログラム 74

アイレットプログラム 75
アイレットを縫う 75
アイレットの穴を開ける 75

キルトステッチ 76

キルトステッチについて 76

パーソナルプログラム 77

ステッチメニューをカスタマイズする 77

ステッチパターンの準備 77
パーソナル画面 77

ステッチパターンを変更する 78

ステッチパターンの削除 79
特殊画面 79

履歴 80

履歴について 80

メモリー 81

長期メモリーについて 81

ステッチコンビネーションの作成 81
プログラミングおよび保存 81

ステッチパターンの削除 82
パターンの削除 82
コンビネーションの削除 82
空のファイルドロワーを開く 82

ドロワーの内容を一目で見る 83

保存したステッチコンビネーションを開く 83

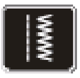
ステッチコンビネーションの修正 84
ステッチパターンの挿入 84
ステッチコンビネーションの変更 84
コンビネーション全体の反転 84
コンビネーションの分割1 85
コンビネーションの分割2 85

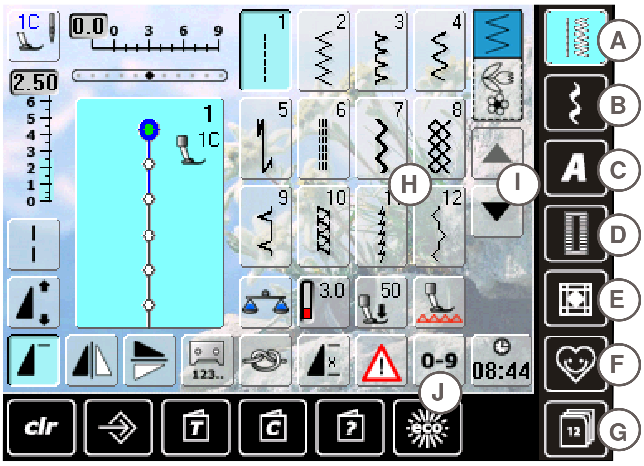
ステッチコンビネーションの削除 85
上書き 85
削除 85

032298.53.10_1204_B820_JP

ステッチの選択

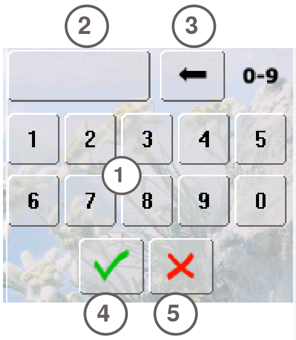
画面上で選択





- メインカテゴリーの**A**から**G**の中から選択します。
  - **A**　実用縫い
  - **B**　飾り縫い
  - **C**　アルファベット
  - **D**　ボタンホール
  - **E**　キルトステッチ
  - **F**　パーソナルプログラム
  - **G**　履歴
- 選択したカテゴリーに含まれるステッチは、**H**の部分に表示されます。
- お好みのパターンを選択します。
- **I**のアイコンでスクロールして、カテゴリーに含まれるその他のステッチパターンを見ることができます。

ステッチ番号による選択

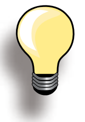


番号の入力

- **J**のアイコンをタッチした後、ステッチパターンの番号を入力してステッチを指定します。
- ①のナンバーキーが、**H**の部分に表示されます。
- 指定したステッチ番号が、②に表示されます。
- 入力済みの番号を削除するには、③を使います。
- ②をタッチすると、入力した番号のすべてを削除できます。
- ④で入力した内容を確定します。

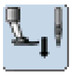
キャンセル

- ⑤をタッチすれば、ステッチパターンを選択することなく、前の画面に戻ります。

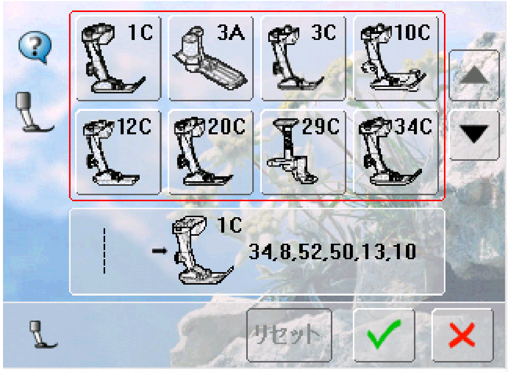


存在しないステッチ番号を指定すると、'???'が付いた数字が②の場所に表示されます。

押え金を選ぶ



- ステッチを選ぶとステッチ表示エリアにステッチに最適な押え金が表示されます。
- この押え金をミシンに取り付けます。
- 画面左上コーナーに表示された«押え金の表示»アイコンをタッチします。



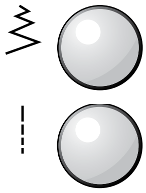
- 押え金のリストが表示されます。ミシンに取り付けた押え金をタッチして選びます。チェックアイコンをタッチして確定します。
- «押え金の表示»アイコンに取り付けた押え金が表示されます。
- 実際に取り付けた押え金によっては、異なる押え金のリストが表示されます。

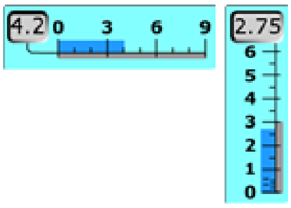
ミシンが正確な情報に基づいて機能し、また安全機能を実行するためには、取り付けた押え金を正確に選ぶ事が重要です。

ステッチパターンのカスタマイズ

ステッチパターンは、布の種類や用途により、個々に変更を加えることができます。
ここでご説明する調節方法は、すべての実用縫いおよび飾り縫いに使える方法です。

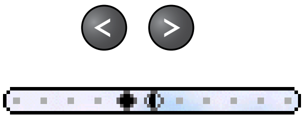
振り幅および送り長さの変更





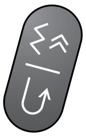
- 振り幅および送り長さは、調整ダイヤルで変更します。
- 振り幅および送り長さは、縫いながら変更できます。

針基線の変更



- ボタンを押して、針基線を移動します。早く移動させたい場合には、ボタンを押し続けます。
- 全部で11ヶ所の針基線があります（左右にそれぞれ5ヶ所および中央）。
- 縫いながら変更できます

手元返し縫いボタンによる留め縫い



- 縫い始めおよび縫い終わりを留め縫いします。
- 手元返し縫いボタンを押すと、ミシンは反対方向に返し縫いをします。（バックステップ）
- 手元返し縫いボタンを放すと、元に戻ります。

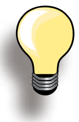
ステッチメモリーへの一時的な変更

すべてのステッチタイプおよび素材に

- 送り長さ、振り幅および針基線に加えた変更は、反転等の機能同様、自動的に保存されます。
- 変更したステッチを縫います。（例・ジグザグ縫い）
- その他のステッチを選択して、縫います。（例・直線縫い）
- 次に変更を加えたジグザグを呼び出すと、変更がそのまま保存された状態で縫うことができます。
- 一時的な変更は、ステッチメモリーに無制限に保存できます。

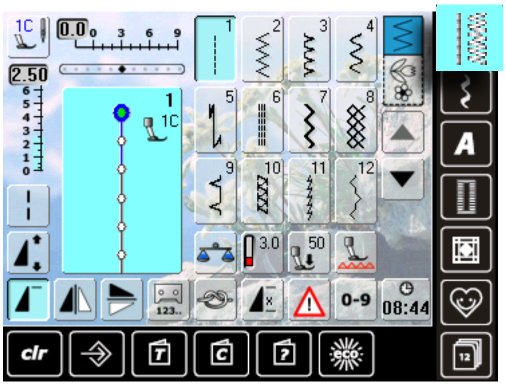
初期設定に戻す

- オプション1:«clr»クリアーボタンを押します。
- オプション2:振り幅および送り長さのバーにタッチして、初期の値に戻す、または手動で調節ダイヤルを使って戻すことができます。その他の機能に関しては、手動でリセットして下さい。
- オプション3:ミシンの電源をオフにすればリセットできます。



ステッチメモリーには、変更をいくつでも保存できます。
- 送り長さ
- 振り幅
- 針基線
- パターンの拡大
- 反転
- ロングステッチ機能
- 糸調子
- バランス
- パターンリピート1回から9回

実用縫いについて



- 「実用縫い」のアイコンにタッチします。
- 12種類の実用縫いが画面に表示されます。
- その他の実用縫いは、画面をスクロールしてご覧下さい。

1 直線縫い
伸縮性のない布地に適しています。シーム、トップステッチ、ファスナー付け等に使います。

2 ジグザグ縫い
ジグザグは布端の処理や、ゴム、レースの縫い付けに使います。

3 バリオーバーロック
薄手のジャージー地に適しています。伸縮性のあるオーバーロック縫い、ヘム仕上げ、伸縮性のあるシームが可能です。

4 ランニングステッチ
ほとんどの布地に使えます。補修、継ぎ当て、縫い目の補強、飾り糸の縫い付け等に使います。

5 留め縫いプログラム
すべての布地に使えます。直線縫いの縫い始めおよび縫い終わりを固定します。

6 トリプル直線縫い
固い布地を縫う際に、縫い目を補強したり、縫い目やヘム仕上げを太く目立たせたりしたい場合に使います。

7 トリプルジグザグ縫い
固い布地を縫う際に、縫い目を補強したり、縫い目やヘム仕上げを太く目立たせたりしたい場合に使います。またカウチングや飾り縫いにも使えます。

8 ネットステッチ
インターロックおよびなめらかな布地のほとんどに適しています。
飾り縫い、ヘム仕上げ、リネン類のほか、補修にも使えます。

9 まつり縫い
ほとんどの布地に使えます。ヘムのまつり縫いや柔らかいジャージー地や薄手の布地の端のシェル仕上げ、飾り縫いにも使います。

10 ダブルオーバーロック
ニット地に適しています。オーバーロック仕上げ、端の処理等に使います。

11 スーパーストレッチステッチ
非常に伸縮性の強い布地に適しています。衣類の伸縮性のあるオープンな縫い目等に使います。

12 ギャザリングステッチ
ほとんどの布地に適しています。ゴムを入れて、シャーリングが可能です。布端同士を突き合わせて縫う場合や、飾り縫いに使います。

13 ストレッチオーバーロック
中くらいの厚みの布、タオルおよび固い織地に適しています。
オーバーロック縫いやフラットジョイニングに使います。

14 ジャージーステッチ
ジャージー地用です。ランジェリーやセーターの縫い目や、ジャージー地の補修に使います。

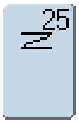
17 ライクラステッチ
ライクラ地用です。下着類の突き合せ縫い、ヘム仕上げ、縫い目の補強に使います。

21 しつけ縫い
しつけがけをすることができます。

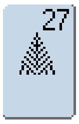
22 ダーニングプログラム
薄手および中くらいの厚みの布を自動で縫うことができます。

24 バータックプログラム
ポケットの開き口やベルト通しを補強します。

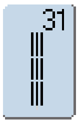
032298.53.10_1204_B820_JP



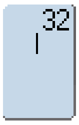
自動かんぬき留め縫い
ポケットの開き口やベルト通し、ファスナーの端やシームの縫い終わりを留め縫いして補強します。



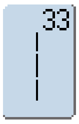
小さなフライステッチ
薄手から中くらいの布地に適しています。ポケット、ファスナーおよびスリットの開き口を補強します。



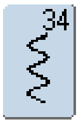
ロングステッチ機能を使ったトリプル直線縫い
厚手の布地の縫い目を補強したり、縫い目やトップステッチを太く目立たせたりします。



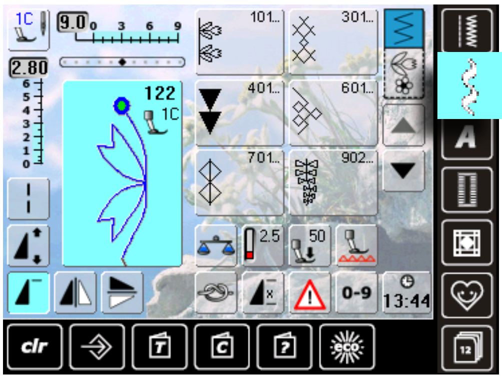
シングルストレートステッチ
2つの飾りステッチパターン間のつなぎステッチとして使います。コンビモードでよく使われます。



3シングルストレートステッチ
コンビネーションに含まれる2つの飾りステッチパターンのつなぎに使われます。



ダーニングステッチ
返し縫い機能と併用して、繕い縫いができます。



- «飾り縫い»アイコンをタッチします。
- カテゴリーの一覧表が表示されます。
- アイコンをタッチして、希望のカテゴリーを開きます。
- ステッチパターンを選択します。

使い方

布のタイプに合わせて、シンプルなものから複雑なものまで選ぶことができます。

- 直線縫いを使ったシンプルな飾り縫い（飾り縫い101番等）は、薄手の布地に適しています。
- トリプル直線縫いまたは一部にサテンステッチが含まれる程度の飾り縫い（飾り縫い135番等）は、中くらいの厚みの布に使います。
- サテンステッチが主となるような複雑な飾り縫い（401番等）は、厚手の布地に使いましょう。

Cat. 100 = フローラル
Cat. 300 = クロスステッチ
Cat. 400 = サテンステッチ
Cat. 600 = オーナメントステッチ
Cat. 700 = エアルームステッチ
Cat. 900 = ノベルティ
Cat. 1100 = タッセルステッチ
Cat. 1400 = テーパリングステッチ

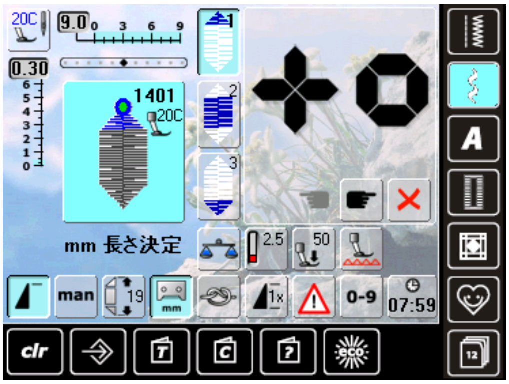
完璧なステッチのために

- 上下に同じ太さの糸を使いましょう。
- 布の裏に安定紙を当てて、土台をしっかりさせましょう。
- パイル地等の毛足の長い布（ウール、ベルベット等も）の場合は、更に上から水溶性安定紙をかぶせます。完成後、簡単に取り外すことができます。

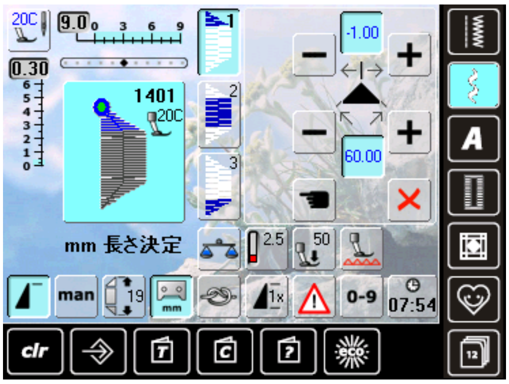
テーパリング

設定

- テーパリングとは、ステッチパターンを点から縫い始めて次第に太くし、また縫い終わりをだんだん細く点に戻すテクニックのことです。
- 4種類の角度が、あらかじめプログラムされています。お好みの設定をしたい場合は、画面の5ページ目で作成できます。
- ステッチ1401を選択します。



- テーパリングの画面が開きます。
- 1の部分がオンになっています。
- 1と3の部分の長さは、すでにプログラムされています。2の部分の長さは、お好みで設定できます。



- 上の«+»および«-»のアイコンを使って、パターンの先端を-1.00 (一番左) から1.00 まで移動できます。
- 標準設定は、-1.00です。
- 中央のオンになっているフィールドをタッチして、パターンの中央 (0.00) に先端を配置します。
- 下の«+»および«-»アイコンを使って、先端の角度を0.00度から90.00度の間で設定します。
- 標準設定は、60.00度です。
- 中央のオンになっているフィールドをタッチして、角度を45.00度に設定します。

セクション2の長さをプログラムする

- テーパリング用のパターンを選択すると、フィールドはオンになり、青色に表示されます。
- 最初の部分を縫います。
- 手元返し縫いボタンを使って、セクション2の長さをプログラムします。
- 長さのプログラムが完了すると、フィールドはオフになり、灰色に変わります。
- セクション2がプログラムされると、3番目の部分を自動的に縫って、ミシンは停止します。
- 新しい長さをプログラムする場合には、再度フィールドを選択して下さい。

ミリ単位で長さを入力してセクション2の長さをプログラムする

- アイコンをタッチします。
- 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使って、長さのプログラムを行います。
- ステッチパターンを縫います。
- 3つのセクションを自動的に縫って、ミシンが停止します。
- 新しい長さをプログラムする場合には、再度フィールドを選択して下さい。

セクション2の長さを手動でセットする

- アイコンをタッチします。
- 最初の部分を縫います。
- 手元返し縫いボタンを使って、セクション2の長さをセットします。
- 3番目の部分を自動的に縫って、ミシンが停止します。
- 長さはプログラムされていないので、次のテーパリングパターンを縫い始める前にリセットされます。

テーパリングの角度を選択する

- シンボルをタッチして、角度を決めてください。

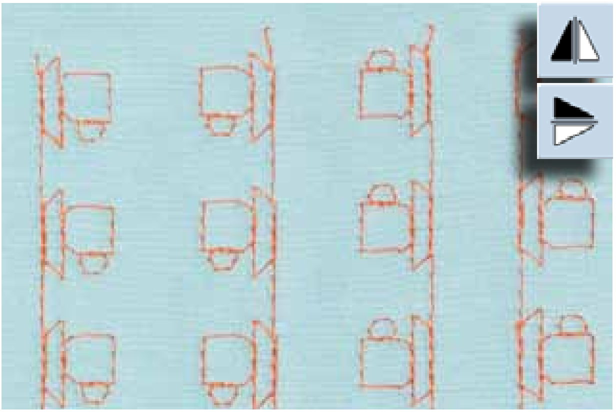
テーパリング画面を閉じる

- アイコンをタッチします。
- テーパリングの画面が閉じて、テーパリングのパターンが表示されます。

各種機能と組み合わせる

飾り縫いと各種機能を組み合わせると、素晴らしいデザインができます。

飾り縫いの反転

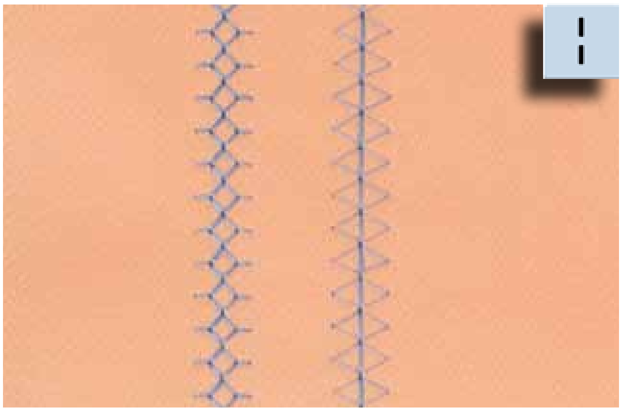


- «左右反転»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンが、左右に反転して表示されます。

- «上下反転»アイコンをタッチします。
- ステッチパターンが、上下に反転して表示されます。

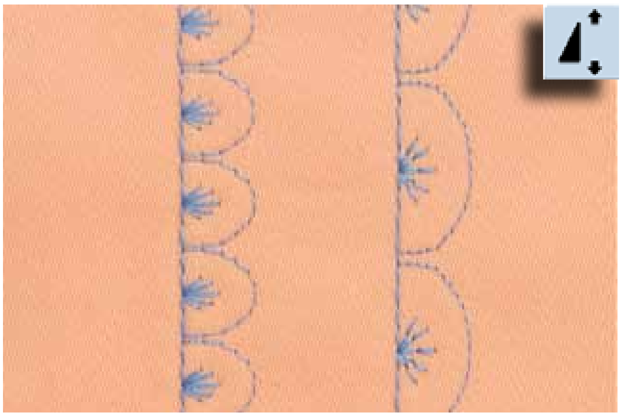
- 上下左右両方の反転アイコンを同時にタッチします。
- ステッチパターンは上下左右に同時に反転した形で表示されます。

ロングステッチ機能



- «ロングステッチ»アイコンをタッチします。
- パターンを一針置きにステッチすることができます。

パターンの拡大

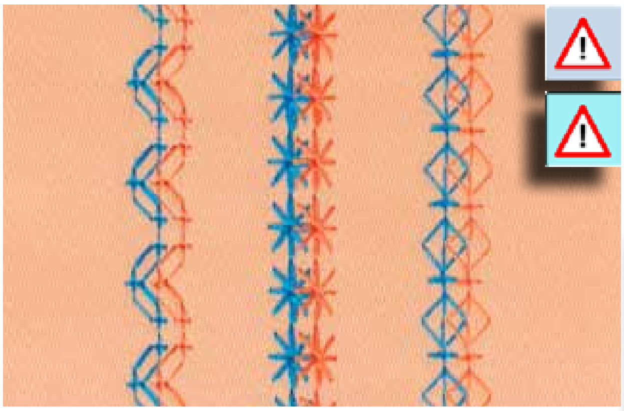


- «パターン拡大»アイコンを1回または複数回タッチします。
- 選択したステッチパターンが、タッチした回数分（2倍から5倍）拡大されます。ステッチの形状は変化しません。
- ステッチパターンの中には、その形状から3倍以上には拡大できないものもありますのでご注意下さい。

ロングステッチを使ってパターンを拡大

- «パターン拡大»アイコンを1回または複数回タッチします。
- その上で、«ロングステッチ»アイコンをタッチします。

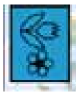
2本針、3本針またはウィング針



- 特殊針をセットした後、セキュリティプログラムで針の制限をオンにします。
- ステッチパターンを選択すると、針の種類に合わせて、振り幅が自動的に制限されるようになります。
- 特殊針を使う場合は、シンプルなパターンを選んだ方が効果的です。

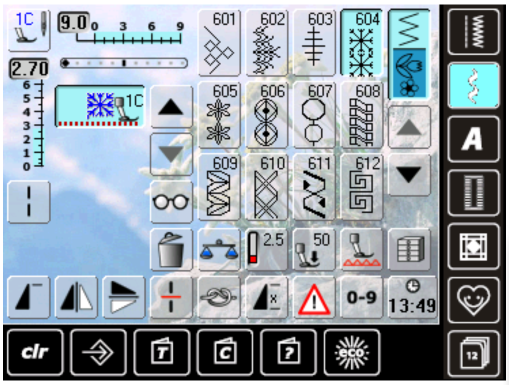
セキュリティプログラム
- オフにするには、アイコンを手動でリセットする必要があります。
- セキュリティは、ミシンの電源をオフにした後も有効です。

コンビモード



- コンビモードを選択します。
- コンビモードでは、パターンコンビネーションを作成することができます。

実用縫いと飾り縫いを組み合わせる



- 好みのステッチを選択します。
- 選択したステッチは、ステッチ表示エリアに表示されます。
- 次のステッチを選択します。
- 同様の作業を続けて、ステッチコンビネーションを完成させて下さい。
- コンビネーションの修正方法は、**84**ページをご覧下さい。
- 保存については、**81**ページをご覧下さい。

ほとんどの実用縫い、飾り縫いは組み合わせることができますが、以下の特殊縫いは使えません。

留め縫いプログラム
- 5番および1324番

しつけ縫い
- 21番

ダーニングプログラム
- No. 22

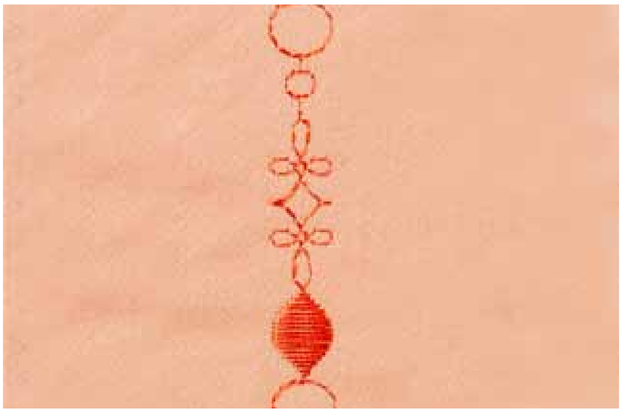
バータック
- 24番、25番

フライステッチ
- No. 27

ボタンホールカテゴリーに含まれるステッチプログラム
- 51番から63番まで。

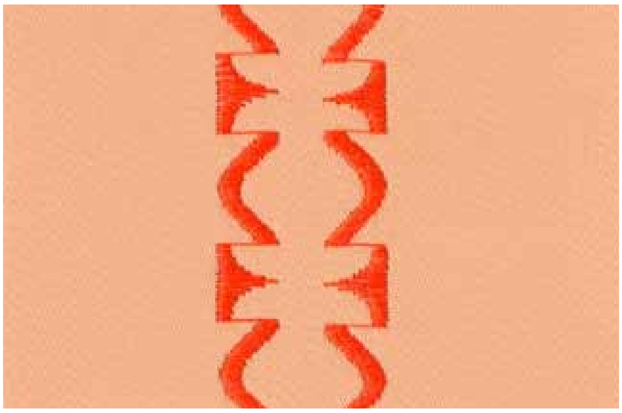
コンビネーションを左右に反転するには
- «多機能アイコン»をタッチします。
- «左右反転機能»アイコンをタッチすると、ステッチコンビネーション全体が左右に反転されます。

留め縫い機能を追加する
自動留め縫い機能には、いろいろなオプションがあります。
- 縫い始める前に、«留め縫い»アイコンをタッチすると、パターンコンビネーションの縫い始めを留め縫いできます。
- パターンコンビネーションの途中に留め縫い機能をプログラムすると、ステッチパターン一つ一つを留め縫いできます。



ステッチパターンコンビネーションの例

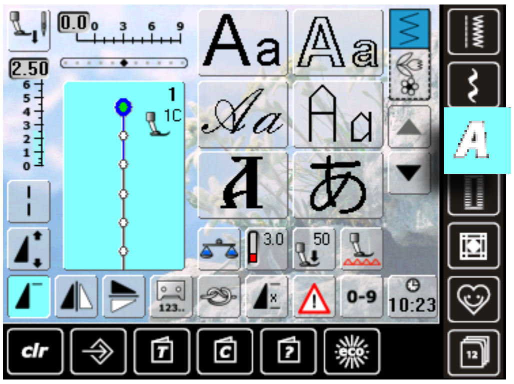
- ステッチパターン407番を1回タッチします。
- 607番を1回タッチします。
- 750番を1回タッチします。
- タッチしたパターンを、順番通りに繰り返し縫うことができます。



ステッチパターンと各種機能の組み合わせの例

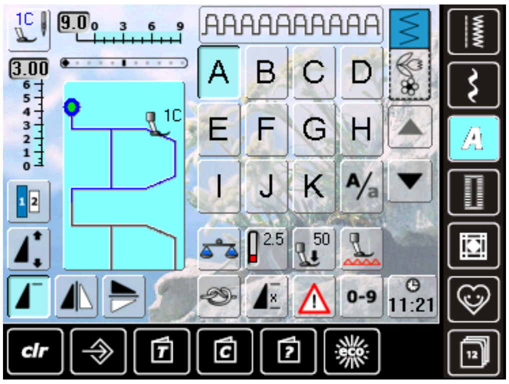
- ステッチパターン427番を1回タッチします。
- 402番を1回タッチしてから、左右反転機能をオンにします。
- これで、オリジナルの形と反転した形を縫うことができます。

アルファベットについて



- アルファベットの書体は、8種類から選べます。
  - ブロック体
  - ダブルブロック体
  - イタリック体
  - キルトアルファベット
  - ギリシャ書体
  - ひらがな
  - カタカナ
  - 漢字
- モノグラム以外のアルファベットはすべて2種類のサイズで縫うことができます。また、小文字も可能です。(ギリシャ文字、ひらがな、カタカナ、漢字以外)

レタリング



- 矢印のアイコンを使って、すべての大文字、数字、句読点等の記号および特殊文字を見ることができます。

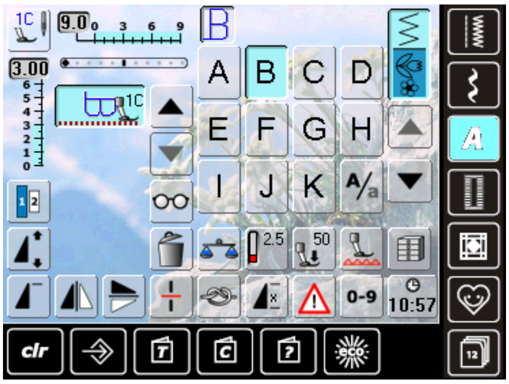
完璧な文字を縫うために

- 上下同色の糸を使いましょう。
- 布の裏に安定紙を当てて、土台をしっかりさせましょう。
- パイル地等の毛足の長い布(ウール、ベルベット等も)の場合は、更に上から水溶性安定紙をかぶせます。
- 薄手の布には、ダブルブロック等の直線縫いで構成された、できるだけシンプルな文字スタイルを使いましょう。厚手の布ならば、モノグラム等のサテンステッチで構成された文字も可能です。

文字の組み合わせ

アルファベット

- ► 個々の文字および同じ文字の連続は、シングルモードで縫います。
- ► 住所氏名や言葉などは、文字を組み合わせてコンビモードで縫います。



文字の組み合わせ

- ► コンビモードを開きます。
- ► 必要な文字を選択します。
- ► ステッチ表示エリアおよびアルファベットメニュー上のバー部分に、選択した文字が表示されます。
- ► カーソルが文字の下に表示されます。

- ► 次の文字アイコンにタッチして、選択します。
- ► 2番目の文字が、ステッチ表示エリアとバー部分に表示されます。

コンビネーションの修正

文字を挿入するには

- ► カーソル上に文字を挿入します。
- ► 文字列の一番初めに文字を挿入するには、カーソルを矢印でスクロールアップして下さい。
- ► ステッチ表示エリア内で文字挿入したい部分を選択するか、スクロールして指定します。
- ► 新しい文字を選択します。
- ► カーソル上に文字が挿入されます。

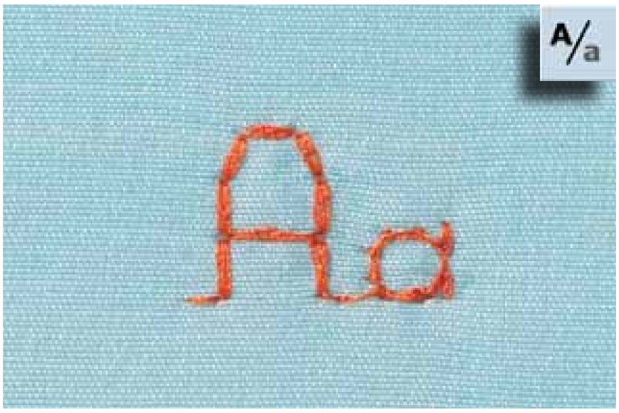
文字を削除するには

- ► カーソル上の文字を削除できます。
- ► ステッチ表示エリア上の削除したい部分を選択するか、スクロールして指定します。
- ► «削除»アイコンをタッチします。
- ► これで文字を削除できました。

- ► コンビネーションの保存および削除の方法は、**81**ページから**85**ページをご覧下さい。

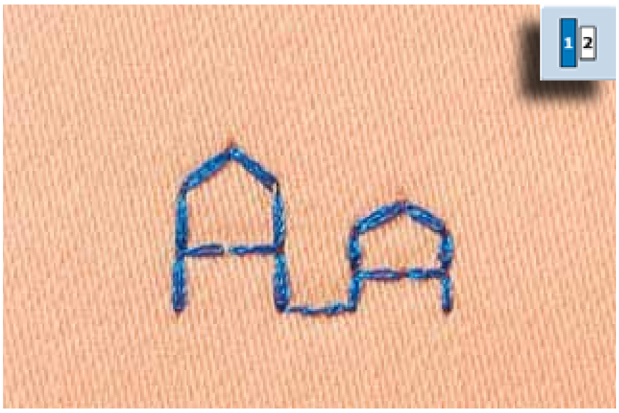
各種機能を組み合わせる

小文字を選択

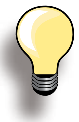


- «大文字/小文字»アイコンをタッチします。
- 小文字の«a»が黒くハイライト表示され、小文字がオンになります。
- «大文字/小文字»アイコンをもう一度タッチすると、今度は大文字の«A»が黒く表示されます。
- これで大文字がオンになりました。

サイズの変更



- «アルファベットサイズ»のアイコンにタッチします。番号の2番が青くハイライト表示されます。
- 文字サイズは6mmに縮小されました。
- «アルファベットサイズ»のアイコンに再度タッチすると、大きなサイズが再びオンになります。(番号の1番がハイライト表示されます。)

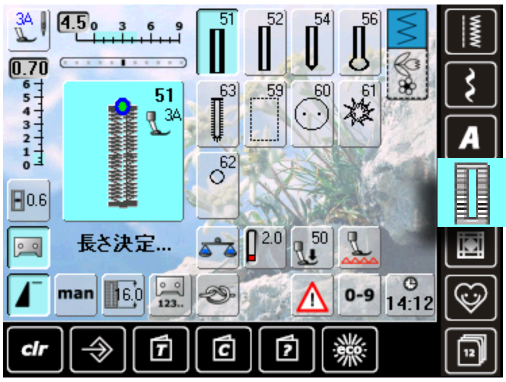


62ページから**63**ページの«飾り縫いと各種機能の組み合わせ»にも、いろいろな機能の説明がございます。

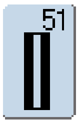
コンビネーションの作成については、**81**ページをご覧下さい。

ボタンホールについて

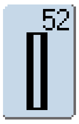
ボタンホールは実用的なステッチですが、飾りに使うこともできます。
すべてのボタンホールを個々にプログラムして縫うことも可能です。



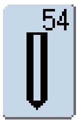
- «ボタンホール»のアイコンにタッチします。
- ボタンホールおよびアイレットの一覧表が表示されます。
- お好みのものを選択します。



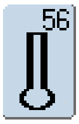
標準ボタンホール
薄手から中くらいの厚みの布に。ブラウス、ドレス、ベッドリネン等。



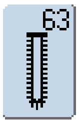
標準ボタンホール（幅狭）
薄手から中くらいの厚みの布に。ブラウス、ドレス、乳幼児服、クラフトに。



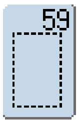
ラウンドエンドボタンホール（標準バータック）
中厚手の布地に。ドレス、ジャケット、コート、レインコート。



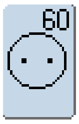
キーホールボタンホール（標準バータック）
伸縮性のない、厚手の布地に。ジャケット、コート、レジャーウェアに。



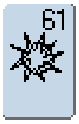
エアルームボタンホール
薄手から中くらいの厚みの織地に。ブラウス、ドレス、レジャーウェア、ベッドリネンに。



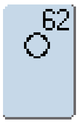
直線縫いボタンホール
ボタンホールを押さえる、補強する、またはポケットの開き口に使うステッチ。特に本皮、合成皮革の素材に使います。



ボタン付け
2つ穴、または4つ穴ボタンを縫い付けることができます。



ジグザグアイレット
コードやリボンの通し穴や、飾りに使います。



直線縫いアイレット
コードやリボンの通し穴や、飾りに使います。

各種機能と組み合わせる

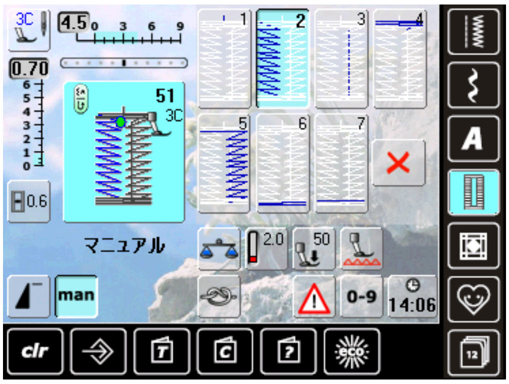
手動による5段階または7段階ボタンホール

- お好みのボタンホールを選択します。
- «手動»のアイコンをタッチします。

- 押え金は3C番を取り付けます。

5段階でボタンホールを縫う

- ボタンホールの長さを、縫いながら手動で指定します。
- バータックの鳩目部分および留め縫いは、プログラム済みです。
- 手元返し縫いボタンを使って、個々のステップを指定することができます。
- 縫い始めには、ステップ«1»がオンになっています。
- 縫い始めると同時に、ステップ«2»がオンになります。
- そのままボタンホールの最初の一列を縫います。
- お好みの長さまで到達したら、縫い終わります。
- «3»をタッチします。
- ミシンが鳩目部分またはキーホール部分を縫います。
- «4»をタッチします。
- ボタンホールの残りの一列を反対方向に縫います。
- 最初の一針と同じ箇所で縫い終わります。
- «5» をタッチします。
- ミシンは上のバータックを縫って、自動的に留め縫いします。

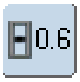


7段階でボタンホールを縫う

- 縫い始めには、ステップ«1»がオンになっています。
- 縫い始めると同時に、ステップ«2»がオンになります。
- そのままボタンホールの最初の一列を縫います。
- お好みの長さまで到達したら、縫い終わります。
- «3»をタッチします。
- ミシンが反対方向に直線縫いします。
- 最初の一針と同位置まで縫って、停止します。
- «4»をタッチします。
- ミシンが上のバータックを縫って、自動的に停止します。
- «5» をタッチします。
- ミシンがボタンホールの残りの一列を縫います。
- 縫い終わります。
- «6»をタッチします。
- ミシンが下のバータックを縫って、自動的に停止します。
- «7»をタッチします。
- ミシンが留め縫いをして、自動的に停止します。

プログラムを閉じる

- または ✕ をタッチします。
- 画面は、元のボタンホール画面に戻ります。

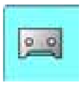


ボタンホールの切り込みの幅

- ボタンホールを選択します。
- «ボタンホールの切り込みの幅»アイコンをタッチします。
- 切り込みの幅を、振り幅または送り長さ調節ダイヤルでセットします。(0.1mmから2mmの間で)
- 切り込みの幅を広くすると、ボタンホールステッチの幅は狭くなります。

ボタンホールステッチカウンター

- ボタンホールを選択します。
- «ステッチカウンター»のアイコンをタッチします。
- 一列目で必要な長さに到達したら、手元返し縫いボタンを押します。
- 二列目の長さが確定すると、表示が«自動»に変わります。
- 選択したボタンホールのプログラムが完了しました。
- サイズの大きなボタンホールをたくさん縫いたい場合に役立ちます。



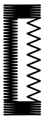
ボタンホールの長さをプログラムする

- ボタンホールを選択すると、アイコンは自動的に青くハイライト表示されます。
- ボタンホールの長さは、手元返し縫いスイッチでセットするか、アイコンをタッチして直接プログラムして下さい。
- ボタンホールのプログラムが完了すると、アイコンは灰色に変わります。
- 新しい長さをプログラムする場合には、再度アイコンをタッチして下さい。

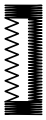
バランス

長さを直接入力した標準ボタンホールのバランス

- バランスを調整すると、ボタンホールの両側に同様の効果を及ぼします。



A



B

手動のキーホールまたはラウンドエンドボタンホールのバランス

バランスの調整は、ボタンホールの両側にそれぞれ違う効果を及ぼします。
左側が密になり過ぎた場合（Aの図）
- 送り長さ調節ダイヤルを時計と反対方向に回すと、左側の送りが長く、右側は短くなります。

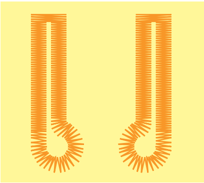
左側がまばらになってしまった場合（B）
- 送り長さ調節ダイヤルを時計回りに回すと、左側の送りが短く、右側は長くなります。
- キーホールまたは鳩目部分のバランスは、以下の手順で調整します。

キーホールが右側に歪んでしまった場合(C)
- 送り長さ調節ダイヤルを時計回りに回します。

キーホールが左側に歪んでしまった場合(D)
- 送り長さ調節ダイヤルを時計と反対方向に回します。

手動の標準ボタンホールのバランス

- バランスを調整すると、ボタンホールの両側に同様の効果を及ぼします。



C　D

長さを直接入力したキーホールまたはラウンドエンドボタンホールのバランス

- バランスを調整すると、ボタンホールの両側に同様の効果を及ぼします。
- キーホールまたは鳩目部分のバランスは、以下のように調整します。
- ミシンはキーホールまたは鳩目部分まで直線縫いして、停止します。
- «バランス»アイコンをタッチし、送り長さ調節ダイヤルを使って、バランス画面の右側に表示されている絵を調整、実際に縫われたボタンホールの形に合わせます。

キーホールが右側に歪んでしまった場合(C)
- 送り長さ調節ダイヤルを時計と反対方向に回します。

キーホールが左側に歪んでしまった場合(D)
- 送り長さ調節ダイヤルを時計回りに回します。
- ✔をタッチして、ボタンホールを完成させます。

ステッチカウンターボタンホールのバランス

- バランスの調整は、ボタンホールの両側にそれぞれ違う効果を及ぼします。（手動ボタンホールの絵をご覧下さい。）
- バランスの調整をした後、ボタンホールを再度プログラムして下さい。

バランスのクリアー

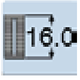
- バランス画面の«リセット»アイコンをタッチするか、«クリアー»ボタンを押します。«クリアー»ボタンは、ボタンホールのプログラム自体をキャンセルしてしまうので、ご注意下さい。

お薦め

- 使用する布に試し縫いをするとよいでしょう。

長さ直接入力および手動のボタンホールでは、ボタンホール作成の各段階でバランス調整ができます。
ステッチカウンターボタンホールでは、バランス調整をすると、左右のステッチそれぞれに違う効果を及ぼします。ボタンホールの左右のステッチを調整すると、自動的にキーホールまたは鳩目部分も調整されます。

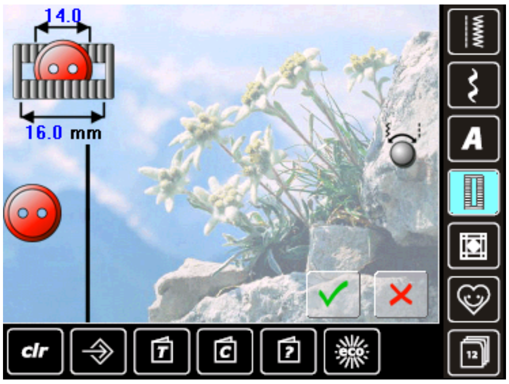
長さを直接入力する



ボタンホールの長さの入力またはボタンサイズの計測

布ガイド付自動ボタンホール押え3A番を使うと、ボタンホールを指定の長さに縫うことができます。ボタンホールの長さとは、カットする切り込みの長さです。（ミリ単位）

- ボタンホールの種類を選択します。
- «長さ直接入力»アイコンをタッチします。



ボタンホールの長さを決める

- 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使って、ボタンホールの長さを入力します。
- 入力した数値は、ボタンホールの下に表示されます。
- ボタンの上の数字は、ボタンの正確なサイズです。
- 長さを✓で確定すると、画面が自動的に変わります。
- «自動»をタッチすると、プログラムした長さがミリ単位で画面に表示されます。

ボタンホールメニューに戻る

- ✕をタッチして、ボタンホールメニューに戻ります。標準設定が残っています。

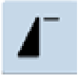
ボタンサイズの測定

ボタンのサイズを決める

- ボタンの直径から、ボタンホールの長さを計算することができます。
- ボタンの厚みとして、自動的に2mmが加算されます。
- ボタンの実物を画面左側に合わせて持って下さい。
- 振り幅または送り長さ調節ダイヤルを使って、黒い縦のラインをボタンの右側に合わせます。
- ボタンの上に、矢印に挟まれた形で、直径がミリ単位で表示されます。（例は14mm）
- ボタンを画面から離します。
- ✓アイコンで正しいサイズを確定すると、画面が自動的に変わります。

厚みのあるボタンの場合

- 高く盛り上がった形のボタン等の場合は、ボタンホールの長さに、ボタンの厚みを合わせます。ボタンの厚みが1cmの場合、ボタンホールの長さ＋1cm（自動的に加算される2mmはこの中に含まれます）となります。
- ボタンがボタンホールにスムーズに入るようにしましょう。



エラー発生の場合

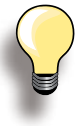
- «模様の頭出し»アイコンをタッチします。
- プログラムはボタンホールの縫い始めに戻ります。

保存したボタンホールを削除する

- «クリアー»ボタンを押すか、«レコーディング»をタッチします。
- «自動»が消えて、«レコーディング»が表示されます。
- これで新しいボタンホールの長さをプログラムできます。

自動ボタンホールをプログラムする

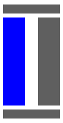
- ボタンホールの長さは、布ガイド付自動ボタンホール押え3A番で自動的に計測されます。必要な長さを縫った後、ミシンは速やかに次の段階に切り替わります。
- ボタンホールの種類に応じて、4mmから31mmまでのボタンホールに使うことができます。



ボタンホールの左右両側とも、同じ方向に縫われます。

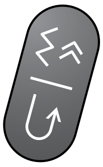
標準およびストレッチボタンホール

51番、52番、



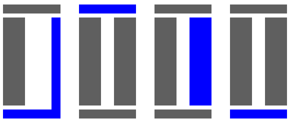
最初の一列を縫う

- ステッチの順序は、ステッチ表示エリアに表示されます。
- 最初の一列を手前に向って、決めた長さまで縫います。



ボタンホールのプログラム

- 手元返し縫いボタンを押して、縫い続けます。
- «自動»をタッチすると、プログラムされた長さがミリ単位で表示されます。これでボタンホールの長さがプログラムできました。



自動ボタンホール

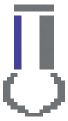
ミシンが自動的に縫い進めます。

- 直線の返し縫い
- 最初のバータック
- 2列目を手前に向って縫う
- 2番目のバータック
- 留め縫いをしてから自動的に停止して、縫い始めの位置に戻ります。

これ以降に縫うボタンホールは、すべてワンステップで同じサイズに仕上がります。

ラウンドエンドおよびキーホールボタンホール

54番から, 56番



直線縫いをする

- 指定の長さを直線縫いします。

ボタンホールのプログラム

- ボタンホールのプログラミングが完了しました。

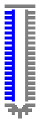
自動ボタンホール

ミシンが自動的に縫います。

- ボタンホールの鳩目部分
- 返し縫いで最初の一列
- 直線縫いで前進
- 返し縫いで2番目の列
- バータック
- 留め縫いをしてから、自動的に停止して、縫い始めの位置に戻ります。

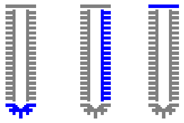
手縫い風ボタンホール

63番



最初の一列を縫う
- 最初の一列を、手前に向かって指定の長さまで縫います。

ボタンホールのプログラム
- ボタンホールのプログラミングが完了しました。



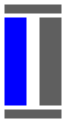
自動ボタンホール
ミシンが自動的に縫います。
- 丸い部分
- 返し縫いで2列目
- バータック部分の後、留め縫いをしてから自動的に停止、縫い始めの位置に戻ります。

キーホールボタンホールを二重に縫う
- 分厚い布地を使う場合、キーホールボタンホールを二重に縫うこともできます。その場合、最初に縫う方は送り長さを長めにしておきます。
- 最初のボタンホールを縫ってから、絶対に布地を動かないで下さい。そのままの状態でフットコントローラーを軽く踏み、2回目のボタンホールを縫い始めます。

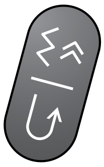
ステッチカウンターボタンホール

- 押え金3C番を取り付けます。

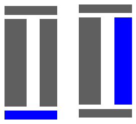
すべてのボタンホールに



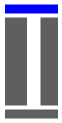
最初の一列を縫う
- 最初の一列を、手前に向かって指定の長さまで縫います。



- 手元返し縫いボタンを押します。



バータックと2列目を返し縫いで縫う
- 下のバータックおよび2列目を、返し縫いで縫います。
- 最初の一針と同位置まで縫うと停止します。
- 手元返し縫いボタンを押します。



バータックおよび留め縫い
- ミシンは自動的に上のバータックを縫い、留め縫いしてから停止します。
- «自動123»が表示されます。
- ボタンホールが保存されました。

これ以降に縫うボタンホールは、同じ形に仕上がります。

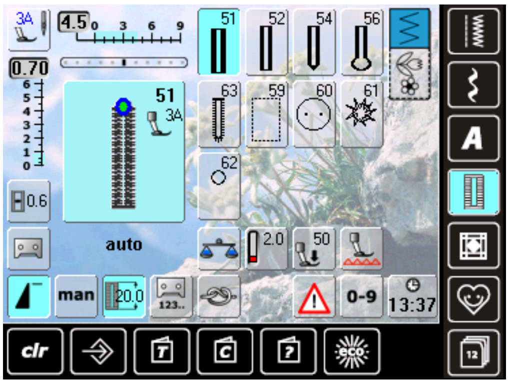
- 左側の一列は前進で、右側は返し縫いの形で縫われます。
- ステッチカウンターボタンホールは、長期メモリーには保存できません。

長期メモリー

長期メモリーに保存できるボタンホールプログラムは、«自動»で長さを指定したもののみです。

ボタンホールを保存する

- ► ステッチ表示エリアに表示されたボタンホールをタッチします。
- ► «保存»アイコンをタッチして、ボタンホールを長期メモリーに保存します。



保存したボタンホールを呼び出す

- ► お好みのボタンホールタイプを選択します。
- ► «長さの直接入力»アイコンに、ボタンホールの長さが表示されます。
- ► «自動»アイコンをタッチすると、長さがミリ単位で画面に表示されます。

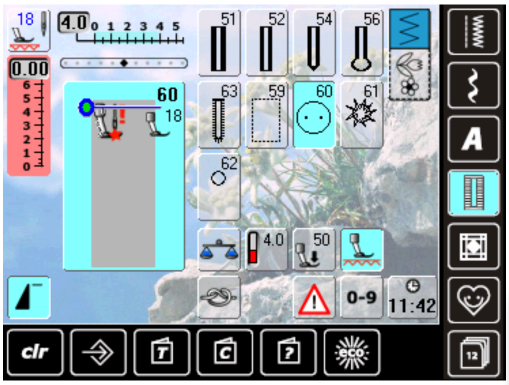
保存したボタンホールに変更を加える

- ► お好みのボタンホールタイプを選択します。
- ► «長さの直接入力»アイコンをタッチします。
- ► 保存したボタンホールの長さを変更して、✔で確定します。
- ► 上記の方法でボタンホールを保存します。
- ► これで新しく設定した長さが、上書きされました。

保存したボタンホールを削除する

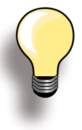
- ► お好みのボタンホールタイプを選択します。
- ► «長さの直接入力»アイコンをタッチして、新しい長さをプログラムするか、ステッチ表示エリアに表示されたボタンホールをタッチします。
- ► «リセット»をタッチして、保存したボタンホールを削除します。
- ► これで新しいボタンホールの長さをプログラムできます。

ボタン縫い付けプログラム

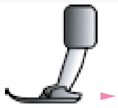


2つ穴ボタンを縫い付ける

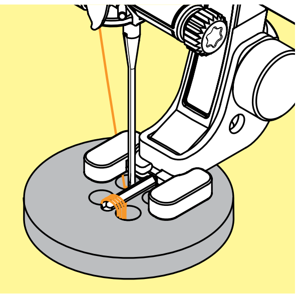
- ► 弾み車を回転させて、穴の間の距離をチェックし、必要ならば振り幅を調節します。
- ► 上下の糸を手で持ちながら、縫い始めます。
- ► ボタンを縫い付けます。
- ► プログラムが完了すると、ミシンは自動的に停止します。停止後、すぐに他のボタンを縫い付けることができます。



振り幅が狭くなり過ぎる（灰色の部分）と、ミシンをスタートできません。アニメーションが表示されます。



► 押え金18番を取り付けて下さい。



4つ穴ボタンを縫い付ける

- 手前側の穴をまず縫います。
- ボタンを注意しながら移動します。
- 同じプログラムを使って、後ろ側の穴を縫います。

縫い始めおよび縫い終わりの糸端

- 糸は留め縫いされているので、カットできます。

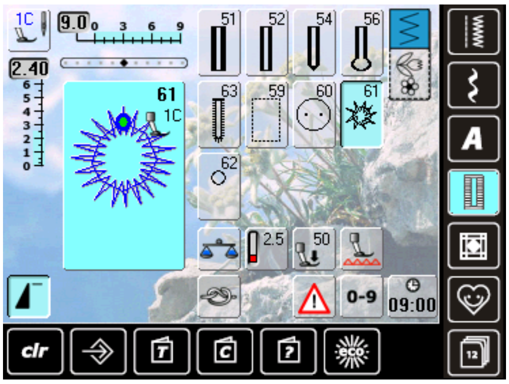
しっかり縫い付けるために

- 縫い始めおよび縫い終わり両方の下糸端を引っ張って、上糸の端を布の裏側に引き出し、必要ならば結びます。
- 糸端をカットします。

> ボタンの縫い付け
> ブラウスやベッドリネンのように同じ種類のボタンを複数縫い付けなくてはならない場合に、大変役立ちます。よく着るもの、よく洗濯するものに縫い付ける場合は、プログラムを2回繰り返すとよいでしょう。

> 2つ穴および4つ穴のボタンを縫い付けることができます。押え金18番では、実用目的でボタンと布の間の距離をお好みの長さにセットすることができます。飾り目的のボタンは、そのまま縫い付けましょう。

アイレットプログラム



- お好みのアイレットを選択します。
- 61番は、ジグザグアイレットです。
- 62番は、直線縫いのアイレットです。

アイレットを縫う

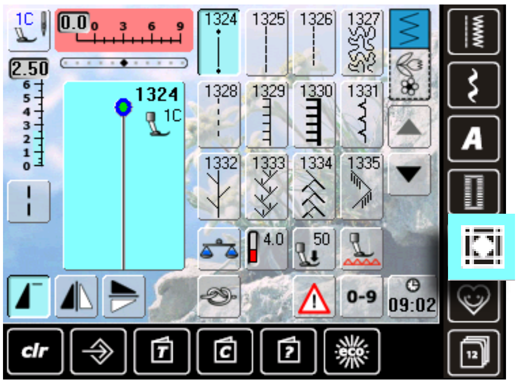
- 押え金の下に布をセットして、縫います。
- 縫い終わるとミシンは自動的に停止します。停止後は、すぐに次のアイレットを縫うことができます。

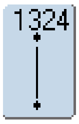
アイレットの穴を開ける

- パンチ等を使って、アイレットの穴を開けます。

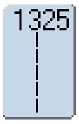
キルトステッチについて

キルティングやパッチワーク、アップリケに使えるさまざまなステッチをご用意しました。

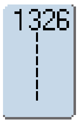




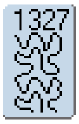
キルター用留め縫い



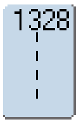
キルティング用直線縫い



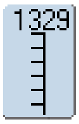
ピーシングステッチ、直線縫い



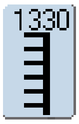
スティップリングステッチ



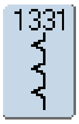
手縫い風キルトステッチ



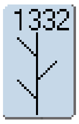
ブランケットステッチ



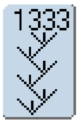
ダブルブランケットステッチ



まつり縫い

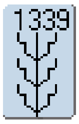


フェザーステッチ



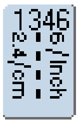
フェザーステッチのバリエーション

1333 - 1338



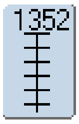
飾りキルトステッチ

（1339から1345、1351）

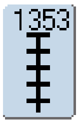


キルトステッチおよび手縫い風キルトステッチのバリエーション

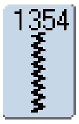
1346 - 1350



ブランケットステッチ（上送り）



ダブルブランケットステッチ（上送り）



サテンステッチ

ステッチメニューをカスタマイズする

パーソナルプログラムを使って、個人的によく使うステッチを入れたファイルを作成できます。

パーソナル画面

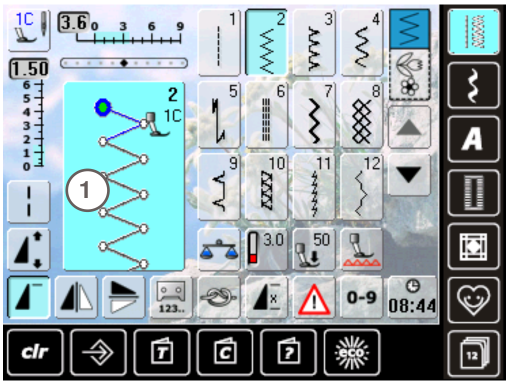
- プログラムしたステッチパターンは、パターン番号と共に表示されます。
- 12個以上のステッチがプログラムされている場合は、矢印を使ってスクロールして全体をご覧下さい。
- この画面上にプログラムしたステッチパターンは、通常の方法で変更できます。

以下の変更を保存することができます。

- 振り幅
- 送り長さ
- 針基線
- 糸調子
- イメージ反転
- パターン拡大
- ロングステッチ
- バランス
- パターンリピート1回から9回

メモリーが刺しゅうモチーフやステッチパターンコンビネーションで一杯になっていると、パーソナルプログラムにそれ以上のデータを保存することはできません。その場合はメモリーの内容を削除し、十分な空きスペースがあることを確認してから保存して下さい。

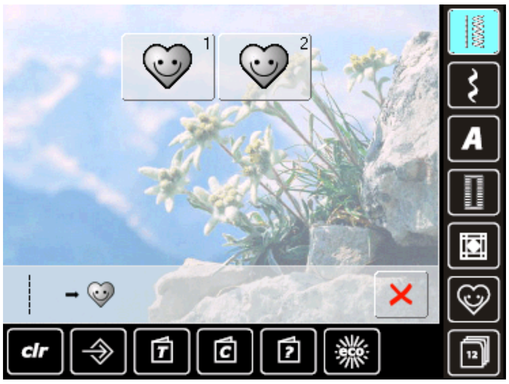
ステッチパターンの準備



最初のステッチパターンをプログラムする

- 実用縫いの画面で選択します。(例・ジグザグ縫い)
- 変更を加えます。
- ステッチ表示エリア①をタッチします。

- 次の画面が表示されます。
- «追加»アイコン②をタッチします。

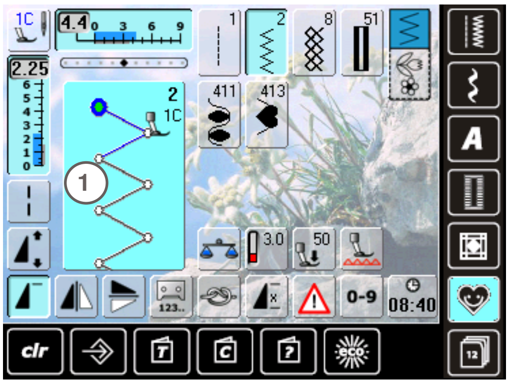


- 2個のファイルのある画面が開きます。
- ステッチパターンを保存したいファイルを選択します。(例・1)
- 各ファイルは最大100ステッチまでコンビネーションできます。

- 点滅している«保存»アイコン③をタッチします。
- 変更を加えたジグザグ縫いが保存され、画面が閉じます。

- ファイルには、名前をつけることができます。大きな灰色のアイコン④をタッチして、表示されるキーボードを使って名前をタイプします。
- ファイルの内容を閲覧するには«戻る»アイコンをタッチします。

ステッチパターンを変更する

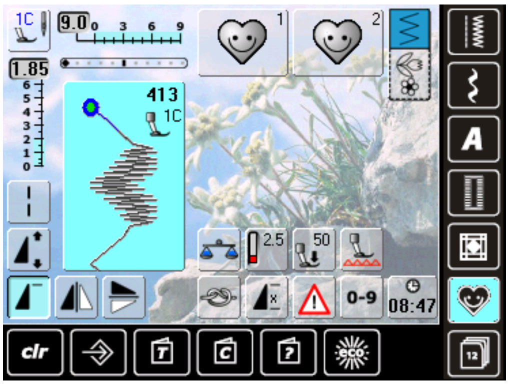


ステッチパターンを選択する

- 振り幅および送り長さを、調節ダイヤルで変更します。
- 変更および基本設定を見ることができます。
- ステッチ表示エリア①をタッチします。

- «設定の保存»バー②をタッチします。
- すべての変更が保存され、画面は閉じます。

ステッチパターンの削除



ステッチパターンを選択する

- «パーソナルプログラム»のアイコンをタッチします。
- 2個のファイルの表示された画面が開きます。
- 削除したいステッチパターンが保存されたファイルを選択します。ここでは、1です。
- 青く表示されたステッチ表示エリアをタッチします。
- 新しいステッチを加えるには<<追加>>アイコンをタッチします。

- 選択したファイルの内容が表示されます。
- 削除したいステッチパターンを選択します。
- ステッチパターンが削除されます。残りのパターンは、前に詰めるように移動します。
- ✕ で画面を閉じます。

特殊画面

1 ステッチパターンに加えた送り長さ、振り幅等のすべての変更を保存します。
2 選択したステッチパターンに加えたすべての変更をリセットして、元の設定に戻します。
3 選択したステッチパターンをパーソナルプログラムに追加します。(変更もそのまま保存されます。)
4 返し縫いをします。
5 前に縫ったステッチを一針ずつたどりながら、返し縫いを続けます。
6 画面を閉じます。

履歴について

- 履歴アイコンをタッチします。
- 最近使ったステッチが、12個までさかのぼって表示されます。
- 履歴の内容は、新しく縫うたびに上書きされます。

長期メモリーについて

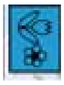
ミシンには、ソーイングに関する情報を保存するメモリーがあります。

メモリーには、ステッチパターン、文字および数字の組み合わせなどを保存できます。

メモリーは、空き容量が十分にあれば、«ドロワー»一つに70個のステッチパターンを保存することができます。

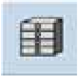
メモリーは長期保存されます（データは削除するまで保存されます）。電源を切っても、メモリーの内容が消えることはありません。

ステッチコンビネーションの作成



プログラミングおよび保存

- ► コンビモードを選択します。ステッチ表示エリアおよび関連する機能の画面が表示されます。
- ► 必要なステッチパターンを選択するか、番号を入力します。
- ► 送り長さ、振り幅、針基線等を変更したり、反転等の機能を追加したりします。
- ► 次のステッチパターンを選択します。



- ► 点滅している«ファイルドロワー»のアイコンをタッチします。
- ► «保存»アイコンがオンになります。
- ► システムメモリーの空き容量は、右上のバーに%で表示されます。

- ► ステッチコンビネーションを保存したいドロワーを選択します。

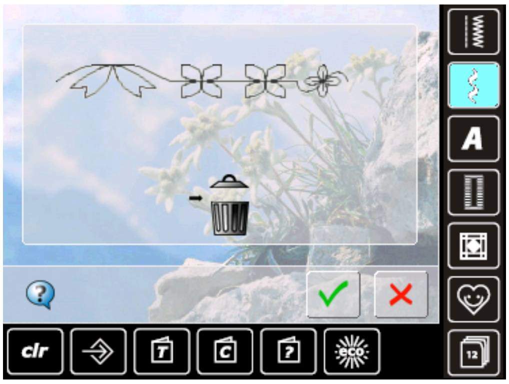
ステッチパターンの削除

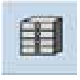
パターンの削除

- カーソルで選択されているパターンを削除します。
- «削除»アイコンをタッチします。ステッチ表示エリアが空になるまで繰り返して下さい。

コンビネーションの削除

- «マルチ機能»アイコンをタッチします。
- «削除»アイコンをタッチします。
- ✓ で確定します。

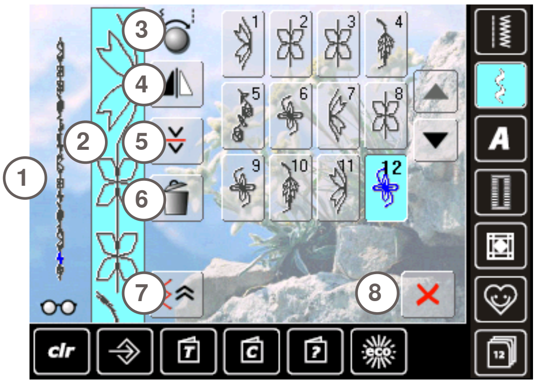




空のファイルドロワーを開く

- «ファイルドロワー»アイコンをタッチします。
- ドロワー画面が開きます。
- 一番上にある«開く»アイコンをタッチします。
- 空のドロワーを開きます。

ドロワーの内容を一目で見る

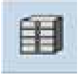


- «多機能»アイコンをタッチします。
- 画面には、以下の情報が表示されます。

1 ステッチコンビネーションの全体図
2 実物大表示
3 多機能ダイヤルを回す
4 コンビネーションの反転
5 コンビネーションの分割
6 コンビネーションの削除
7 バックステップ機能
8 ✕ アイコン

- コンビネーションの全体を矢印でスクロールできます。
- ステッチパターンを個々に選択し、変更等を加えることができます。
- ステッチパターンを選択し、ステッチ表示エリアにて直接変更ができます。
- ✕ で画面を閉じることができます。

保存したステッチコンビネーションを開く



- «ファイルドロワー»アイコンをタッチします。
- 保存したコンビネーションの全体が表示されます。
- 必要ならば、スクロールします。
- ドロワーをタッチします。
- 保存したコンビネーションが、ステッチ表示エリアに表示されます。

ステッチコンビネーションの修正

ステッチパターンの挿入

- コンビネーションの追加したい箇所を選択します。
- 追加したいパターンを選択します。
- 指定箇所に新しいステッチパターンが挿入されます。

- コンビネーションの先頭に追加したい場合には、カーソルを最初のパターンの上に置くようにします。

ステッチコンビネーションの変更

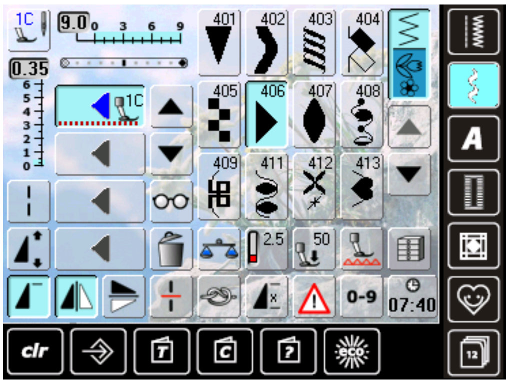
- コンビネーションの中から、ステッチを一つ選択します。
- 反転等、使いたい機能を選択します。

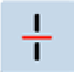
変更は、カーソルが当てられて青く表示されているステッチに対して有効です。

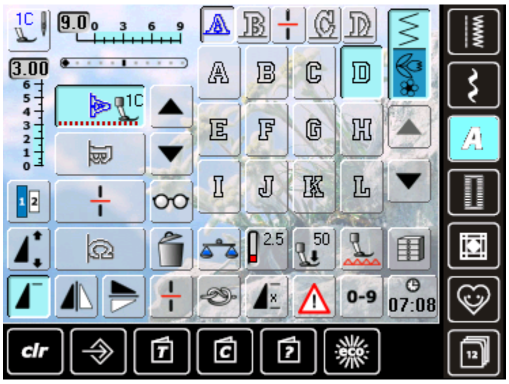
保存されているステッチコンビネーションは、同様の方法で変更または修正できます。変更や修正を加えた後に再度保存の操作をして下さい。

コンビネーション全体の反転

- «多機能»アイコンをタッチします。
- 画面が変わります。
- «反転»アイコンをタッチします。







コンビネーションの分割1

- «分割1»の機能を使うと、コンビネーションをいくつかに分割することができます。
- カーソルを当てている箇所のみを縫うことができます。
- 次のセクションを縫うには、カーソルを移動して指定します。

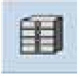
コンビネーションの分割2

- «多機能»アイコンをタッチします。
- «分割2»の機能を使って、コンビネーションをいくつかに分割することができます。
- 最初の部分を縫うと、ミシンは自動的に止まります。
- 布を置き換えて、フットコントローラーを踏み込めば、次の部分を縫い始めます。

ステッチコンビネーションの削除

上書き

- 新しいステッチコンビネーションをプログラムします。
- «ファイルドロワー»のアイコンをタッチします。
- 上書きしたいドロワーを指定します。
- ✓ で確定します。



削除

- «ファイルドロワー»のアイコンをタッチします。
- 保存されたコンビネーションの全体が表示されます。
- «削除»のアイコンをタッチします。
- 削除したいドロワーを選択します。
- ✓で確定します。削除を取り消したい場合には、✕をタッチします。
- ✕をタッチすると、ファイルドロワーの表示が閉じます。

ベルニナソーイングワールド

実用編 88

実用縫い 88
- 直線縫い1番 88
- しつけ縫い21番 88
- トリプル直線縫い6番 89
- 留め縫い5番 89

パッチワーク、アップリケ、キルティング 90
- お薦めのステッチパターン 91

布端の仕上げ 92
- 幅の狭いエッジステッチ 92
- 幅の広いエッジステッチ 92
- オーバーキャスティング 93

ダーニング 94
- 手動で直線縫い1番を使う 94
- 自動シンプルダーニングプログラム22番 95
- 補強ダーニングプログラム34番 95

ニットをきれいに仕上げる 96
- ダブルオーバーロック10番 96

ヘム仕上げ 96
- 見せるヘム 96
- ジャージーステッチ14番 96
- まつり縫い 97

フラットジョイニングシーム 97
- ストレッチオーバーロック13番 97

ファスナー 98
- ファスナー付け 98
- 直線縫い1番 98

ボタンホール 99

ボタンホールに関する重要事項 99

準備 99
- 糸調子 99
- 試し縫い 99
- 修正方法 99
- 手動のボタンホール 99
- 自動ボタンホール 99

安定紙および芯地 100

芯糸入りボタンホール 100
- キーホールボタンホール 100
- 自動ボタンホール 100
- 押え金３C番を使った芯入りボタンホール（オプション） 101
- 押え金3A番を使った芯糸入りボタンホール 101
- ボタンホールの穴を開ける 102
- 芯糸を固定する 102

飾り編 103

クロスステッチ 103

ボビンマジック 104
- フリーモーションソーイング 104
- 飾り縫い 104

テーパリング 105

ピンタックを縫う 106

キルトテクニック 107
- キルトラベル 107
- フリーモーションキルティング 107

BSR 108

BSRについて 108
- 準備 109

BSRモードでの各種機能 110
- 針上下位置停止（下位置が標準です） 110
- 針の上下 110
- 手元スタートストップボタンによる留め縫い（モード1のみ） 110
- 留め縫い機能（モード2のみ） 110
- フリーモーションキルティング（モード2のみ） 110
- BSRを使わないフリーモーションキルティング 110

ブザー音（電子シグナル）のオンとオフ 111
- BSRソーイング機能をオンにする 112
- 手元スタートストップボタンを使ってBSR機能をオフにする方法 112
- 作品の持ち方 112
- BSR機能をオフにする 112

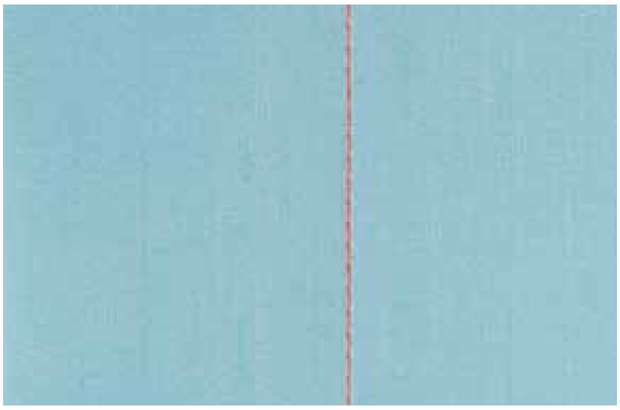
ベルニナデュアルフィード 113

ベルニナデュアルフィード（上送り機構）について 113
- 布 114
- 使い方 114

032298.53.10_1204_B820_JP

実用縫い

直線縫い1番



直線縫い
- ミシンの電源をオンにすると、直線縫いの実用縫い画面が表示されます。
- 特殊な作業をする場合には、ステッチカウンター機能を使って縫う長さをプログラムします。（32ページをご覧下さい。）

使い方
- 用途に応じて押え金を選択します。（手動でダーニングをする、等）
- すべての布に使えます。

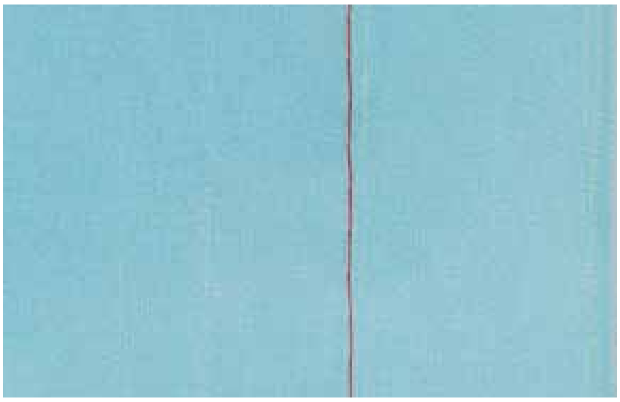
- 標準押え1Cまたは1D番

布に合わせて送り長さを調整する
デニムには、送り長さを長め（3mmから4mm）にします。バティストには、短め（2mmから2.5mm）にします。

糸に合わせて送り長さを調整する
トップステッチ用のコードネットには、送り長さを長め（3mmから5mm）にします。

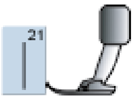
針下位置停止機能をオンにする
ミシンを停止したときに布がずれないようにします。

しつけ縫い21番



しつけ縫い
- 直線縫いを4針ごとに縫います。最長24mmまでの送り長さが可能です（指定できる送り長さの最長は6mmです）。お薦めの送り長さは3.5mmから6mmです。
- 非常に長い針目が必要な箇所に使います。
- ヘムやキルト、ソーイングのしつけ縫いが、素早く簡単にできます。
- 糸はすぐに取り外せます。

準備
- 縫い目に対して水平になるように待ち針を打って、布がずれないようにしておきましょう。

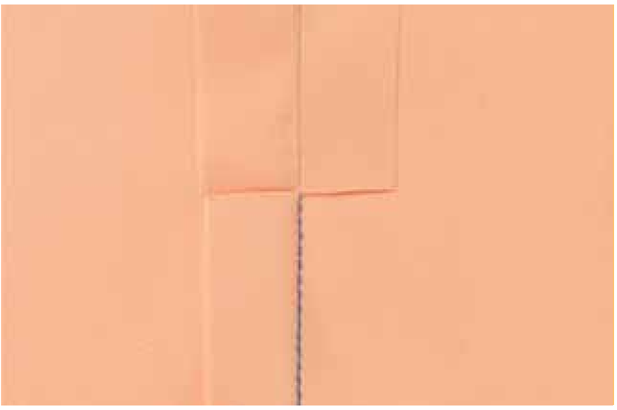


- 標準押え1Cまたは1D番

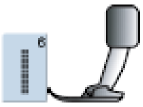
糸を固定する
- 縫い始めおよび縫い終わりに、数針留め縫いをします。

しつけ縫い
- 後で取り外しやすいように、細いダーニング用の糸を使いましょう。

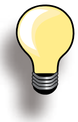
トリプル直線縫い6番



オープンシーム
- デニムやコーデュロイ等の固く目の詰まった布地に適した、丈夫な縫い目です。
- 普段着用に使える丈夫な縫い目です。
- 子供の激しい動きにも耐える丈夫な縫い目です。



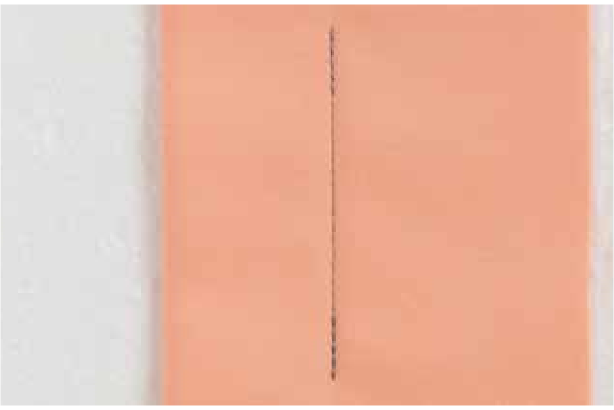
- 標準押え1C番
- ジーンズ押え8番



重ね縫い、または非常に目の詰んだ布を縫う場合ジーンズ針およびジーンズ押え8番を使えば、デニムやキャンバス地のような固い布でも簡単に縫えます。

飾りトップステッチ
デニム地に、送り長さを長めにして、飾り用のトップステッチがほどこせます。

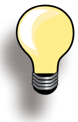
留め縫い5番



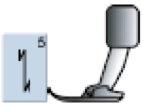
直線縫いに留め縫いをする
- すべての布地に使えます。
- 縫い始めおよび縫い終わりを留め縫いします。

縫い始め
- ミシンが自動的に前後に5針ずつ留め縫いします。
- その後、直線縫いを続けます。

縫い終わり
- 縫い終わりまで来たら、手元返し縫いボタンを押して、放します。ミシンが自動的に前後に5針ずつ留め縫いします。
- 留め縫いが完了すると、ミシンは自動的に停止します。



長い部分を縫う場合
- 縫い始めおよび縫い終わりを簡単に留め縫いできます。
- ステッチの数が決まっているので、均等に留め縫いできます。



- 標準押え 1 C番

パッチワークには正確さが必要です。パッチワーク押えの幅は、針基線の中央から正確にちょうど6mmです。また押え金の両端についている３つの印のうち中央のものは、針が刺す位置を正確に指しています。前後の印は、それぞれ中央の針が刺す位置から6mmのところにあります。押え金の幅に従って縫っていけば、縫い代は常に正確に6mmとなります。また、印を目安にすれば、コーナー部分でも正確な6mmの縫い代を保ったまま、布の向きを変えることができます。

- パッチワーク押え37番、37D番（オプション）
- パッチワーク押え57番、57D番（オプション）
- 標準押え1C番

お薦めのステッチパターン

パッチワーク37D番および57D番

- 直線縫い1番（送り長さ1.5mmから2mm）
- 直線縫い1326番

このような短い送り長さのステッチは、基本的に留め縫いをする必要はありません。作業を正確かつ効率よく進めるため、スライドオンテーブルを取り付けましょう。

アップリケ1C番および20C番

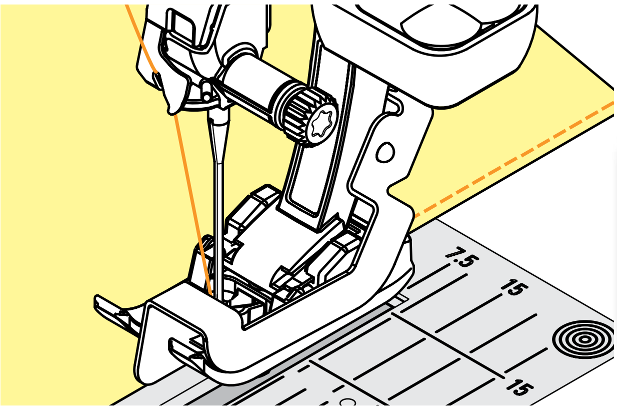
- サテンステッチ1354番
- ブランケットステッチ1329番、1330番、1352番、1353番
- まつり縫い1331番

キルティング1C番

- キルター用留め縫いプログラム1324番
- キルティングまたは直線縫い1325番
- キルトステッチおよび手縫い風キルトステッチ1328番、1346番～1350番
- 飾りキルトステッチ1327番、1331番～1345番、1351番
- フリーモーションキルティング　BSRあり、または無し

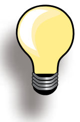
布端の仕上げ

幅の狭いエッジステッチ

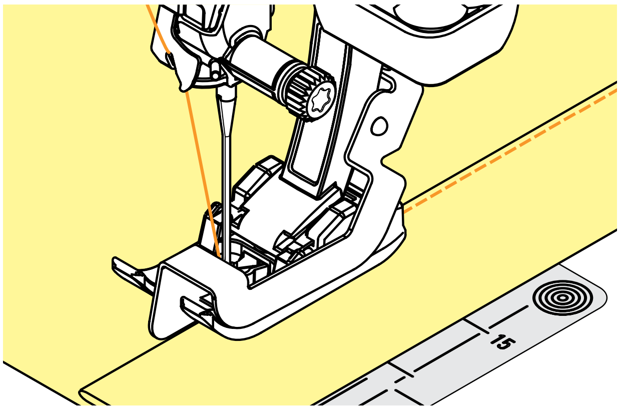


外側の布端

- ► 折り目の端をまつり縫い押えのガイドに合わせます。
- ► 針基線をお好みの位置にセットします。



- ► 押え金は5番です。針基線は左側のいずれか、または一番右側を使います。
- ► 押え金1C番、10番、10C番または10D番では、針基線はどこでも使えます。

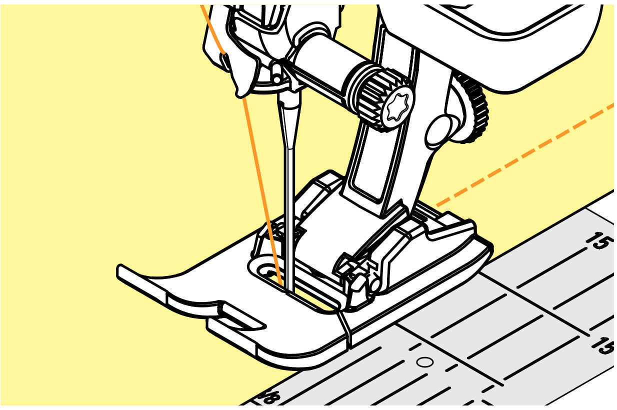


ヘムの端

- ► 折り目の端をまつり縫い押えのガイドに合わせます。(ヘムの内側の上部分)
- ► 針基線を右にして、上端に沿って縫います。

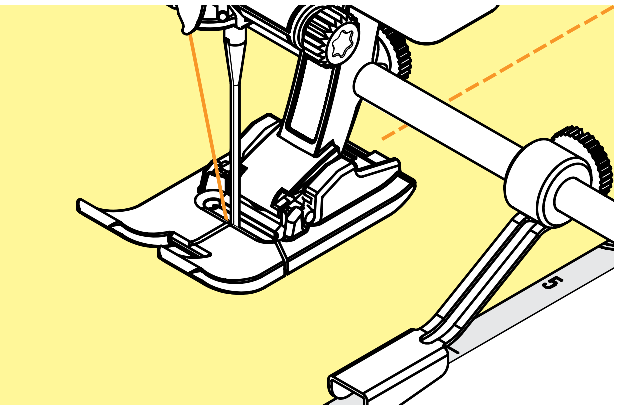
- ► 標準押え1C番
- ► まつり縫い押え5番
- ► 端縫い押え10番、10C番、10D番(オプション)

幅の広いエッジステッチ



幅の広いエッジステッチには、3つの方法があります。

- ► 布の折り山を、押え金の端に合わせる。
- ► 布の折り山を、針板の印に合わせて縫う。(1㎝から2.5㎝)

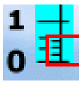


- ► 押え金のシャフト部分にシームガイドを取り付けて、お好みの幅に調整します。
- ► ネジを締めます。
- ► 布の折り山をシームガイドに合わせて縫います。
- ► 前の縫い目をシームガイドに合わせて、平行に縫うことができます。

オーバーキャスティング

ジグザグ縫い2番を使う

- 布端を押え金の中央に合わせます。
- 布端を平らに、丸まらないように仕上げるため、振り幅および送り長さは、あまり大きな値にしないで下さい。
- ジグザグの片側は布を刺し、反対側は布端すれすれの外側を刺すようにします。
- 薄手の布地には、細いダーニング用の糸を使います。



サテンステッチ

- アップリケや刺しゅうに使う、密なステッチです。
- 送り長さを短くします。サテンステッチの設定は、送り長さのバーに細かい横線で表示されます。

- 標準押え1C番

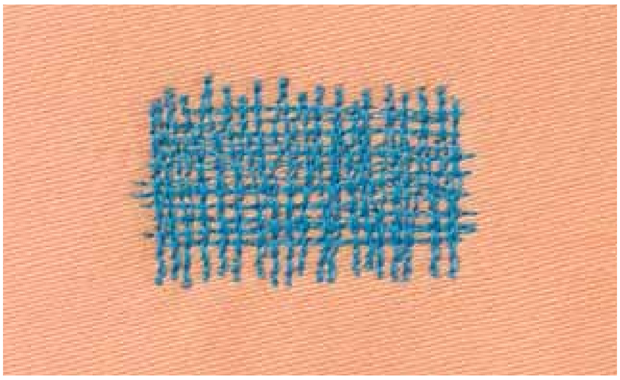
布端が丸まってしまう場合には

- ステッチをバリオーバーロック縫いに変え、押え金は2A番を使います。

> ミシンには、サテンステッチのプログラムがあります。（1354番）

ダーニング

手動で直線縫い1番を使う



穴やほつれを繕い縫い（ダーニング）する

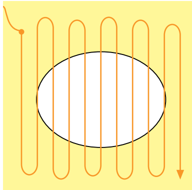
準備

- 送り歯を下げます。
- スライドオンテーブルを取り付けます。
- 布をダーニング用フープ（オプション）にセットします。フープにセットすると布がぴんと張られ、歪みが防げます。

ソーイング

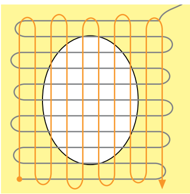
- 圧力をかけず、左から右にかけて縫っていきます。
- 上下で方向転換をする際には、カーブを描きながら進むようにします。鋭角なラインは新たな穴やほつれの原因になりますので、必ずゆるやかにカーブするようにして下さい。
- わざとバラバラの長さに縫って、糸が布に溶け込むようにしましょう。

- ダーニング押え9番

1 

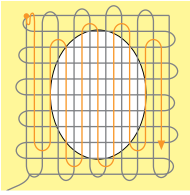
穴の上にステッチします。

- 最初は、穴を覆うようにステッチしていきます。あまり細かくしないよう、穴よりも広い範囲をカバーしながら縫って下さい。
- 縫う長さは、均一にしないようにしましょう。
- 縫い終わったら、布を90度回転させます。

2 

最初に縫った縫い目をカバーしていきます。

- 最初に縫った縫い目に直角に交わるようにして、ステッチします。柔らかく仕上げるため、あまり密にしないようにして下さい。
- 縫い終わったら、布を180度回転させます。

3 

仕上げです。

- 2番目に縫った縫い目と同じ方向に、粗く縫って仕上げます。

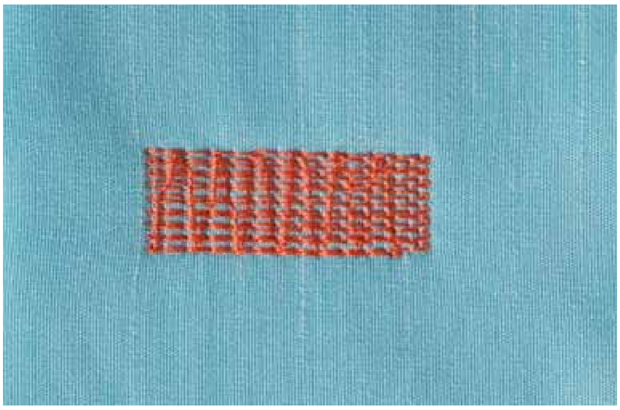
針目が揃わない

- フープの動かし方が速すぎると、糸が布の表側に出てしまうことがあります。
- フープの動きが鈍いと、布の裏側に結び目ができてしまうことがあります。

糸が切れる

フープをなめらかに動かさないと、糸切れを起こします。

自動シンプルダーニングプログラム22番



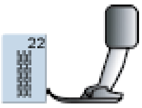
布の縦目の糸を足して繕います。

準備

- 縫う前に、ほつれた箇所の下に薄手の安定紙を当てておきます。

ソーイング

- 最初の列を縫います。
- 手元返し縫いボタンを、お好みの長さに達したところで押して、放します。これで長さのプログラムができました。
- 縫い続けます。ミシンは自動的に停止します。

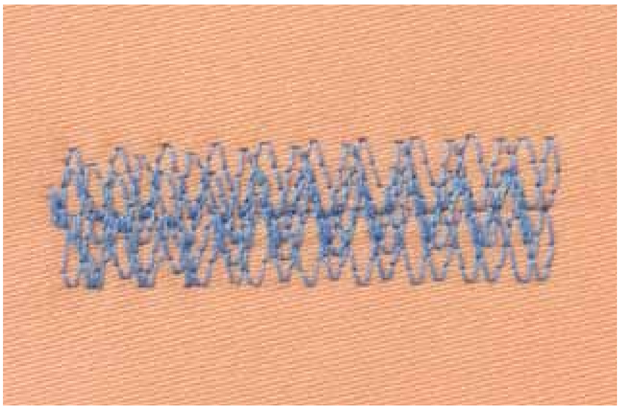


- 標準押え1C番
- 布ガイド付自動ボタンホール押え3A番

> ダーニングが歪んでしまう場合は
> バランス機能（**51**ページ）で修正して下さい。

> 破れた箇所全体をダーニングでカバーできない場合
> 布を置き直して、縫い続けます。ダーニングプログラムは、セットした長さで何回でも繰り返し縫うことができます。

補強ダーニングプログラム34番



ダーニングプログラム34番は、特にジーンズやオーバーオールのような厚手で耐用性が必要な布地を補修するのに役立ちます。

- 標準押え1C番

ニットをきれいに仕上げる

ダブルオーバーロック10番

クローズドシーム
- 目の粗いニット地にはオーバーロック縫いを、その他のニットやジャージー地にはクロス縫いがお薦めです。

ソーイング
- 布端に沿って、オーバーロック縫いをします。

- 標準押え1C番
- オーバーロック押え2A 番（オプション）

ニットとジャージー地
- 生地を傷めないように、先がボールポイント状の新しい針を使いましょう。

伸縮性のある布地を縫う
- ストレッチ針（130/705H-S）を使うこともできます。この針は、針先が繊維を傷めることなく、滑るように布を刺してゆきます。

ヘム仕上げ

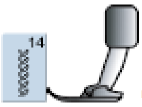
見せるヘム

ジャージーステッチ14番

ストレッチヘム
- コットン、ウール、合成繊維および混紡等、すべてのジャージー地に。

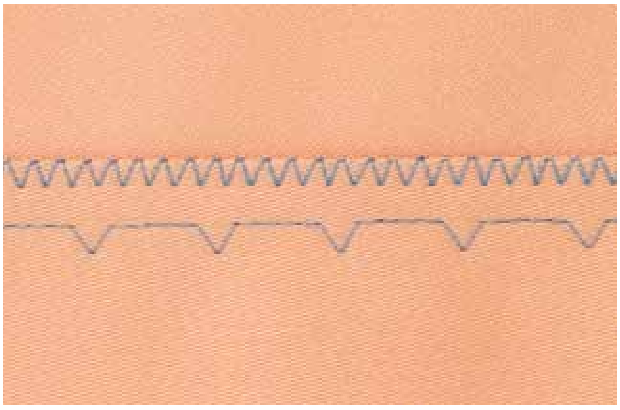
準備
- ヘムを折り返し、必要ならば待ち針を打っておきます。

ソーイング
- 布の表面に、お好みの幅でヘムを縫います。
- 裏側の余分をカットします。



- 標準押え1Cまたは1D番

まつり縫い



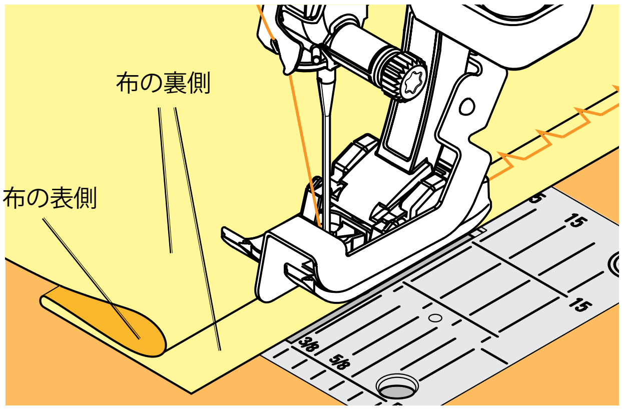
幅が広い

幅の広いまつり縫い9番

- 中厚手の布地に使います。

準備

- 布端の処理をします。
- ヘムを折って、しつけをかけるか、待ち針で留めます。
- 布の裏側が表に出るように折り返して、布端を出します。(図をご覧下さい。)
- 押え金のガイドに折り目を合わせるようにして、布をセットします。

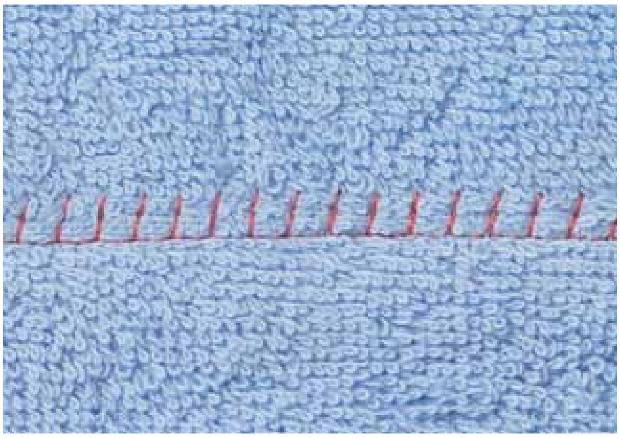


押え金

- 針が布の折り目すれすれの部分を刺すようにして下さい。
- 10cmほど縫ったら、布の裏表をチェックして、必要ならば振り幅の調整をします。

- まつり縫い押え5番

フラットジョイニングシーム



ストレッチオーバーロック13番

- タオル地のような毛足の長い厚手の布地や、フェルト、レザー等に適しています。

ソーイング

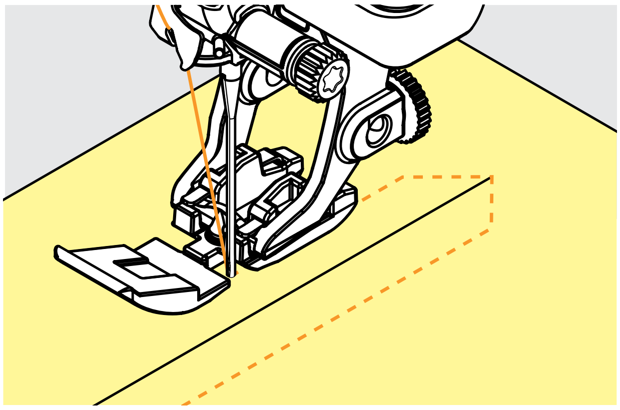
- 布端を重ねて、縫い代の上からステッチしていきます。非常に平らな、丈夫な縫い目です。
- 布端に沿って、ストレッチオーバーロックで縫います。
- 針が右側にジグザグしたときに、上側の布の端をきちんと捉えるように縫います。

- 標準押え1C番

032298.53.10_1204_B820_JP

ファスナー

ファスナー付け



準備
- 押え金のリストで実施に使っている押え金のアイコンをタッチします。(56ページ参照)
- しつけをかけて、縫い代をきれいに始末しておきます。
- ファスナーをしつけ縫いするか、待ち針で留めて、布の折り返した端同士がファスナー中央部分で突き合うようにします。

直線縫い1番
- ファスナーを少しだけ開きます。
- 左側の上から縫い始めます。
- ファスナーのコイル部分に沿って縫える位置に押え金を置くようにして下さい。
- ファスナーの引き手の手前まで来たら、針を刺したまま、一旦停止します。押え金を上げて、ファスナーを閉めます。
- 再び縫い続けます。(針下位置停止機能を使って下さい。)
- 針を刺したまま布を回して、下部分を縫います。
- また針を刺したまま布を回し、右側を下から上に向かって縫っていきます。

- ファスナー押え4D番
- ガイド付ファスナー押え14番(オプション)

バリエーション

ファスナーの両側とも下から上に向かって縫う
- ベルベット等の毛足の向きのある布地に最適です。
- 上記のようにファスナー付けの準備をします。
- 片側を下から上に向かって縫い付けます。
- 次に、もう片方も同様に下から上に向かって縫います。

ファスナーを飾りに使う
- ファスナーを見えるように縫い付けて、飾りにすることができます

ファスナーの引き手の周囲を縫うには
- ファスナーを閉じて、引き手から5cm程度のところまで縫います。
- 針を刺したままで停止し、押え金を上げます。ファスナーを開いて、引き手を針を過ぎるところまで下げたら、再び押え金を下げて縫い続けます。

縫い始め
- 縫い始めは糸をしっかり押えて、数針縫う間、布を張りの後ろに引き加減にします。

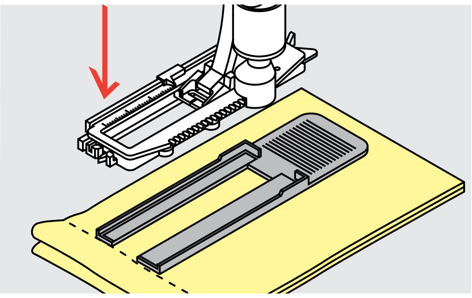
ファスナーのテープ部分または固い布地の場合
- 針目を揃えるためには、90番から100番の針を使いましょう。

ボタンホールに関する重要事項

縫い代に直角にボタンホールを縫うときは、ボタンホール高さ調節板（オプション）を使うことをお薦めします。
ボタンホール布ガイド（オプション）は送り難い布地などで使うと便利です。布ガイド付自動ボタンホール押え３Ａ番、または３Ｂを使います。

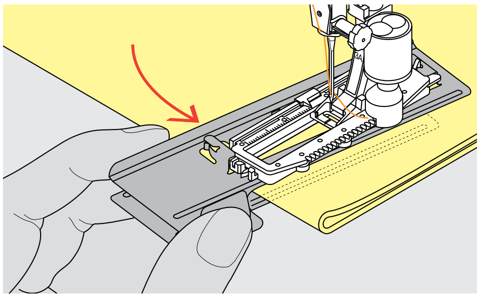
糸調子

- ボタンホールを選択すると、糸調子は自動的にセットされます。
- 上糸調子は、通常よりも若干緩めです。
- これによって、縫い目が少し上に丸まって盛り上がった感じになり、きれいに仕上がります。
- 芯糸を入れると、ボタンホールの補強になる上、よりきれいに仕上げることができます。
- ボタンホールの両側は、同じスピードで縫うようにしましょう。



試し縫い

- 実際に使う予定の布と安定紙で、必ず試し縫いを行って下さい。
- お好みのボタンホールを選択します。
- 実際に縫うのと同じ布目で、試し縫いします。
- ボタンホールを切り開きます。
- ボタンを通してみます。
- もし長さ等に問題があれば、調整します。



修正方法

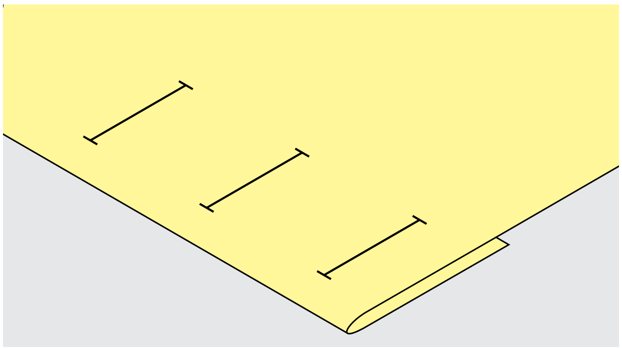
ボタンホールの幅を調整する

- 振り幅を調整して下さい。

送り長さを調整する

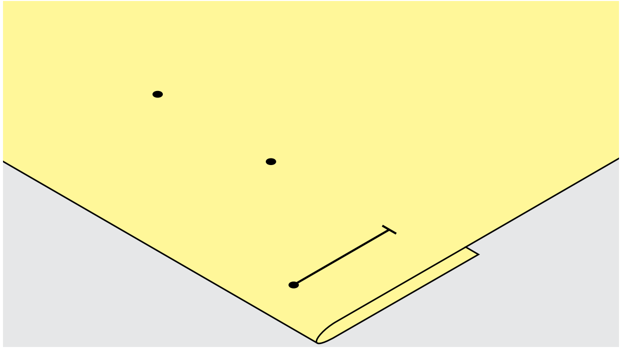
- 送り長さを調整すると、ボタンホールの左右両方に影響します。
- 送り長さを調整した場合は、必ずボタンホールのプログラムをやり直して下さい。

準備



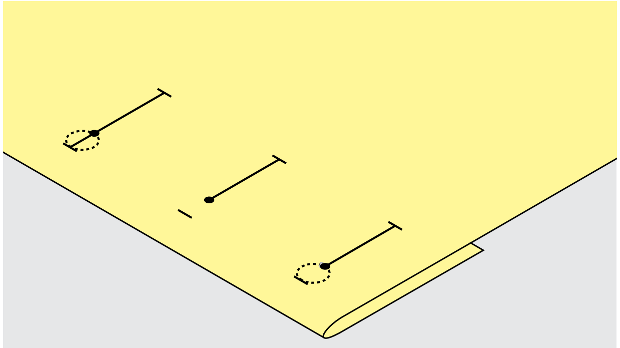
手動のボタンホール

- お好みの場所に、必要な数のボタンホールの長さの印を付けます。
- ボタンホール押え3C番を使います。



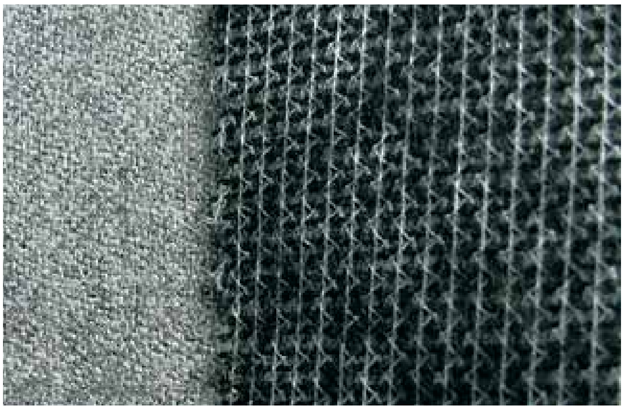
自動ボタンホール

- ボタンホール一つ分の印を付けます。
- この最初のボタンホールを縫うことで、残りのボタンホールのプログラムができます。
- 2番目以降のボタンホールは、縫い始めのみに印を付けます。
- 布ガイド付自動ボタンホール押え3A番を使います。

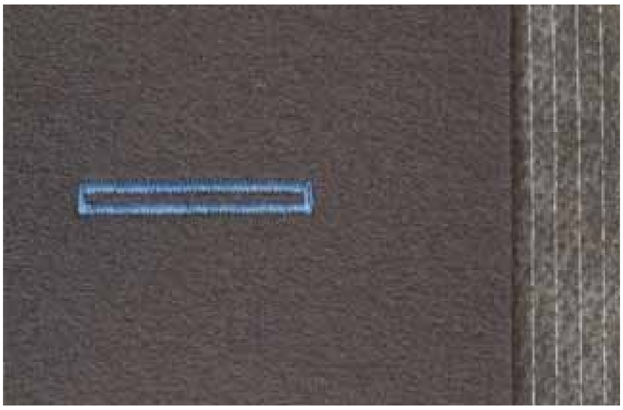


キーホールボタンホール
- ► 長さのみを印付けします。
- ► ボタンホールを縫う際に、キーホール部分の長さが自動的に追加されます。

安定紙および芯地

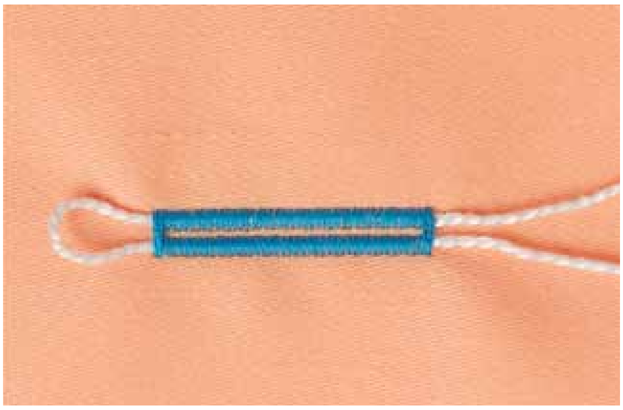


自動ボタンホール
- ► 芯地を入れると土台が安定するので、ボタンホールも補強されます。
- ► 芯地は布に合わせてお選び下さい。



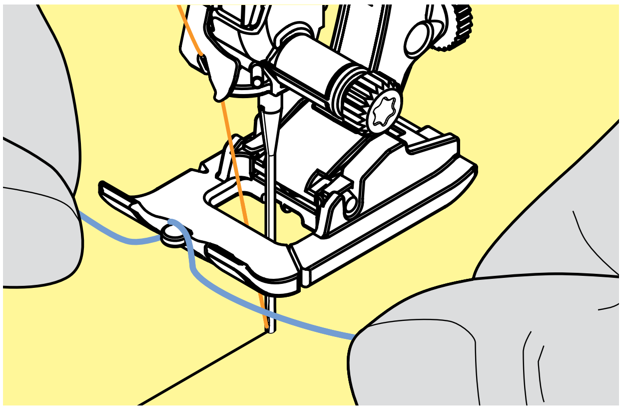
- ► 厚手の毛足の長い布地ならば、刺しゅう用の安定紙がよいでしょう。布の送りがよくなります。

芯糸入りボタンホール



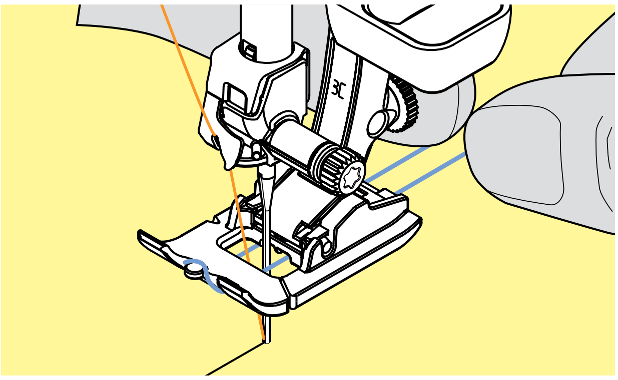
始めに
- ► 芯糸を入れることでボタンホールが補強され、また糸の形によって見栄えもよくなります。
- ► 芯糸のループ部分が、最も傷みやすい部分であるボタンホールの端（ボタンによって引っ張られる部分）に来るようにします。
- ► 以上に注意して、セットして下さい。

芯糸に適したもの
- ► パールコットン8番
- ► 手縫い用の丈夫な糸
- ► 細めのレース編み用の糸



押え金３C番を使った芯入りボタンホール（オプション）

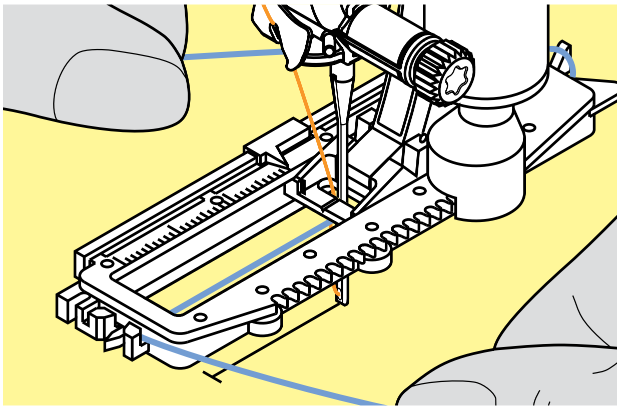
- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- 押え金を上げます。
- 芯糸を押え金の前中央にあるピンに引っ掛けます。



- 芯糸2本を押え金の底の溝に合わせて、後ろ側に引き出します。
- 押え金を下げます。

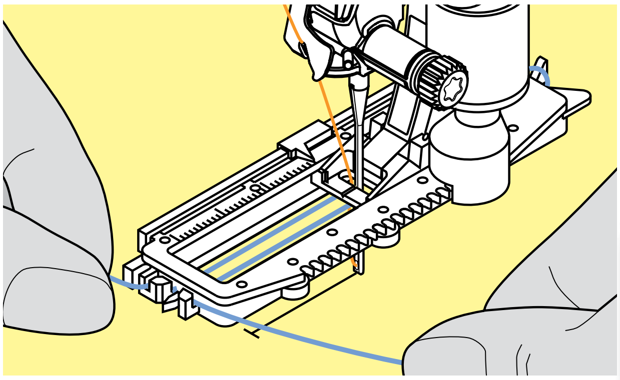
ソーイング

- そのまま、ふつうにボタンホールを縫います。芯糸を強く押えたりしないようにして下さい。
- 芯糸を包むように、ボタンホールが完成します。



押え金3A番を使った芯糸入りボタンホール

- ボタンホールの縫い始めの位置に針を刺します。
- 押え金を上げます。
- 芯糸を押え金の下を通して、右側に出します。
- 芯糸を押え金後ろのピンに引っ掛けます。

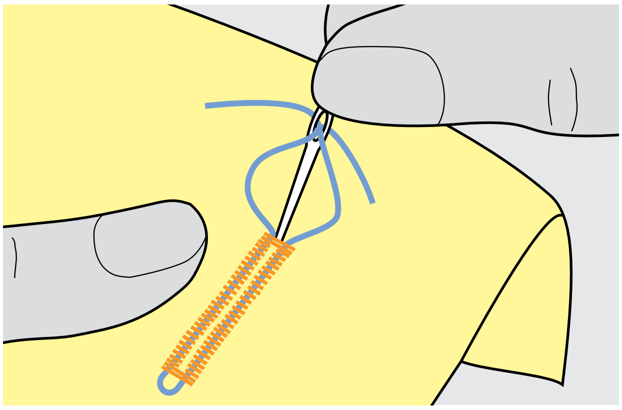


- 芯糸2本を押え金の前に持ってきます。
- 2本まとめて、切り込みの中に入れます

ソーイング

- そのまま、ふつうにボタンホールを縫います。芯糸を強く押えたりしないようにして下さい。
- 芯糸を包むように、ボタンホールが完成します。

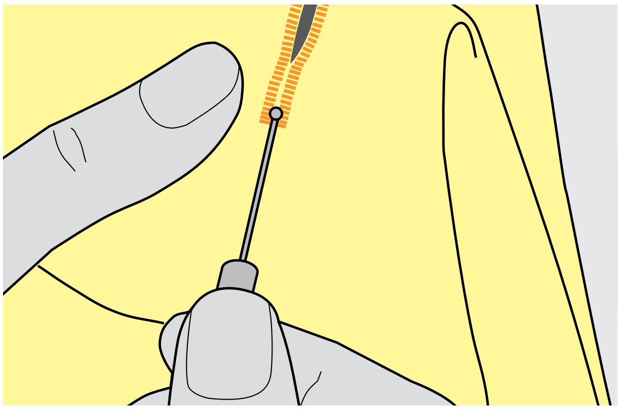
ボタンホールの両側の幅をあまり狭くすると、芯糸をうまくカバーできなくなることがありますので、ご注意下さい。



芯糸を固定する

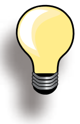
- 芯糸を引っ張って、ループ部分がボタンホールの縫い目の端に隠れるようにします。
- 芯糸の端を布の裏側に持っていきます。
- そこで結ぶか、縫い留めます。

ボタンホールの穴を開ける

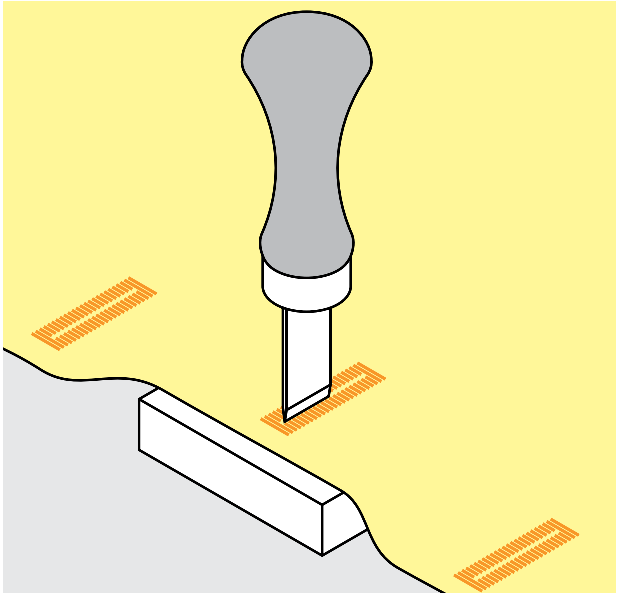


シームリッパー

- シームリッパーを使って、中央から端にかけて穴を開けます。



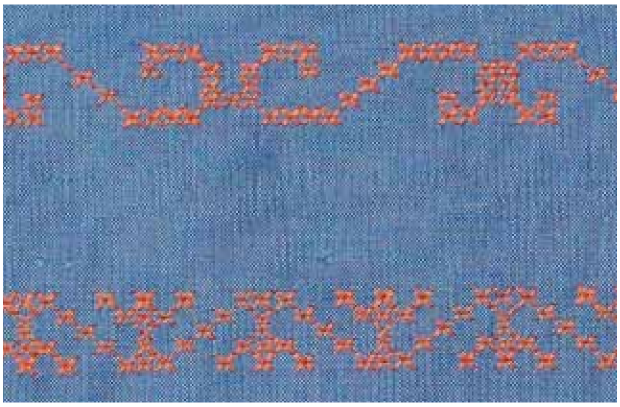
短いボタンホールの場合、間違って端を切ってしまわないよう、両端に待ち針を打っておきましょう。



ボタンホールカッターおよびブロック(特殊アクセサリー)

- 布をブロックの上に置きます。
- カッターをボタンホールの中心に当てます。
- 手で、またはハンマーを使ってカッターを押し込み、カットします。

クロスステッチ



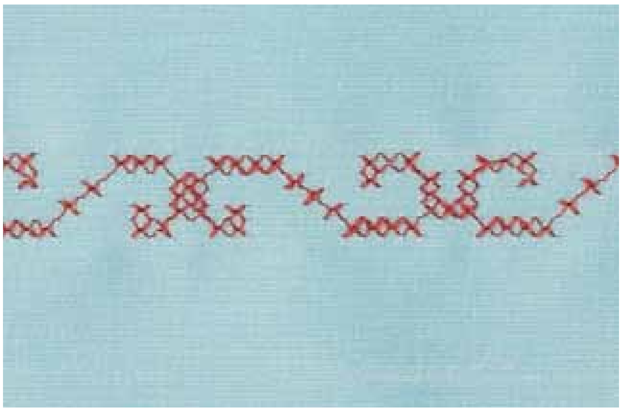
- クロスステッチは、いろいろな飾りに使える伝統的なテクニックです。
- 麻地にクロスステッチをすると、手刺しゅうのように見えます。

使い方

- ホームデコレーションに。
- 衣類のふち飾りに。
- さまざまな飾り縫いに。

ソーイング

- カテゴリー300のクロスステッチは、他の飾り縫いと組み合わせて縫うことができます。



ふち飾りを縫う

- クロスステッチを選択します。
- シームガイド、またはスライドオンテーブルのガイドを使って、一列縫います。
- この最初の一列は、2列目以降のガイドとして使いますので、特にまっすぐ縫うようにして下さい。
- 新しいステッチを選択します。
- 2列目のステッチを、一列目から押え金の幅一つ分開けるようにして縫います。
- 3列目以降も同様にして縫っていきます。

クロスステッチにはコットン糸を使いましょう。ステッチがしっかりと太く、きれいに仕上がります。

- 標準押え1Cまたは1D番、
- またはオープン刺しゅう押え20Cまたは20D番

032298.53.10_1204_B820_JP

ボビンマジック

フリーモーションソーイング

ボビンにパールヤーン、メタリック糸、幅の狭いサテンリボン、ゴムおよびウール毛糸等を巻いて、フリーモーションソーイングをしてみましょう。通常のフリーモーションとは違い、裏側から縫うのが特徴です。

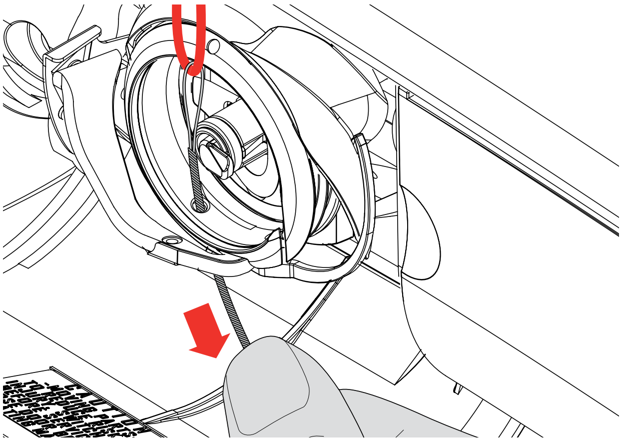
糸の太さによっては、下糸の調子を緩める必要があります。（アクセサリーに含まれる道具をお使い下さい。詳しくは**25**ページをご覧下さい。）非常に太い糸の場合は、手でボビンに巻きつけ、その後、回転釜の穴に、糸通し（アクセサリーに含まれます）を使って通すようにします。

縫う部分は、刺しゅう用の安定紙で補強しておきましょう。布の裏側にデザインを描きます。あるいは、布の表にデザインを描いて、コットン、ポリエステルまたはレーヨンの糸を使い、直線縫いでなぞっておいてもよいでしょう。裏側に出たステッチラインをガイドにして、ボビンマジックをしていきます。

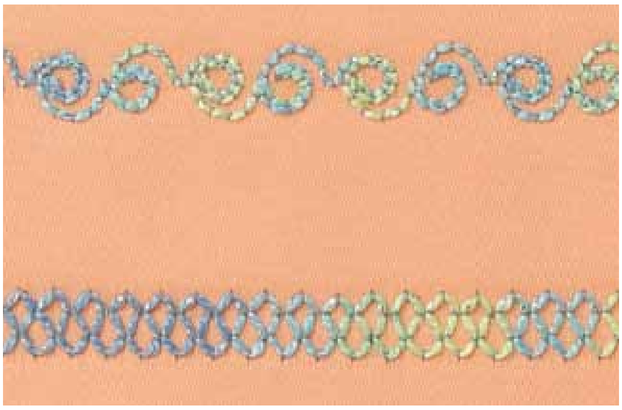
ボビンマジックにBSR機能を使うことができます。作品を均等なスピードで、描いたデザインまたはラインに沿って、縫っていきます。縫い終わったら安定紙を外します。

布の裏側にどんな効果が出るのか、まずは試し縫いをして下さい。その後、もし必要があれば、上糸または下糸の糸調子を調整します。

ボビンに飾り糸を巻く場合は、下糸巻き取りのスピードを遅くするとよいでしょう。



飾り縫い

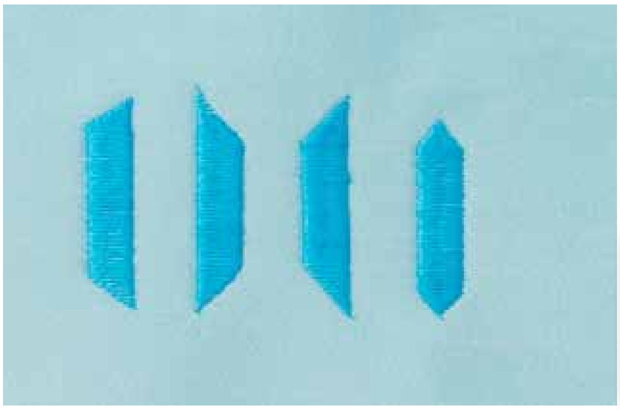


ボビンにパールヤーン、メタリック糸、幅の狭いサテンリボン、ゴムおよびウール毛糸等を巻いて、飾り縫いをしてみましょう。

飾り縫いの中には、このテクニックに適さないものもあります。サテンステッチや細かい模様縫いは避けて下さい。

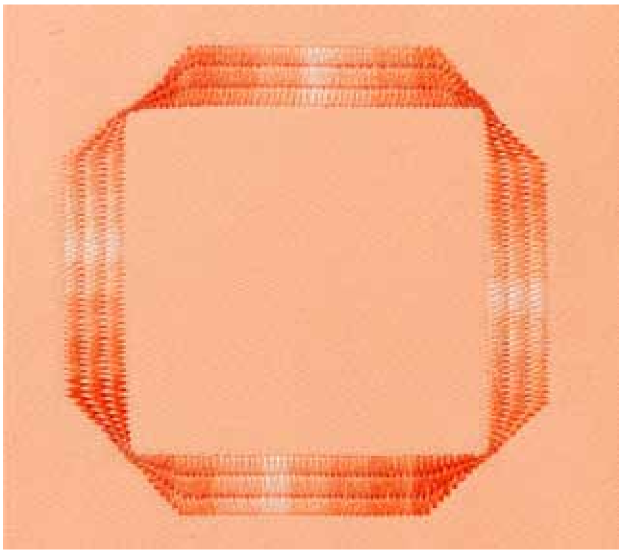
オープン刺しゅう押え20C番または20D番を使います。
- ► 送り長さを長く、振り幅は広めに調整します。太い糸を使って縫う場合、この方がきれいに仕上がります。
- ► ロングステッチ機能を使うと、また違った飾り縫いができます。

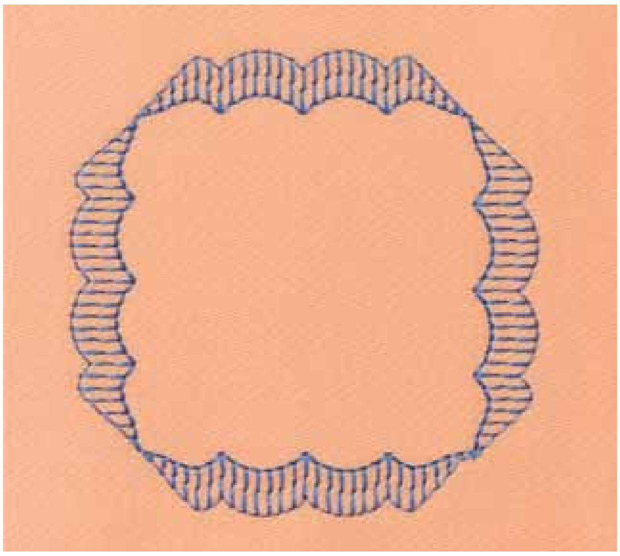
テーパリング

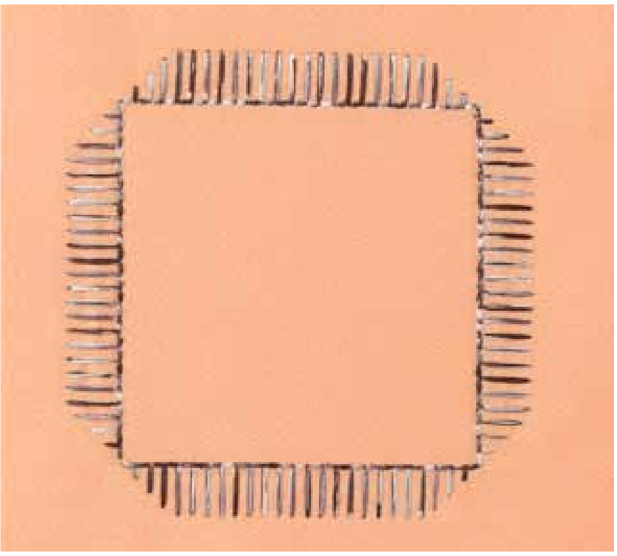


テーパリング機能を使うと、飾りフレームやボックスを作成することができます。ステッチの一つを選択してから、テーパリングの端の形を選択します。（左写真をご覧下さい。）最初の一列の縫い終わりでお好みの長さをプログラムし、作品を回転させて、次の列または横の部分を縫っていきます。

デザインのコーナーでピボットするには、針下停止機能と押え上げ機能を使います。





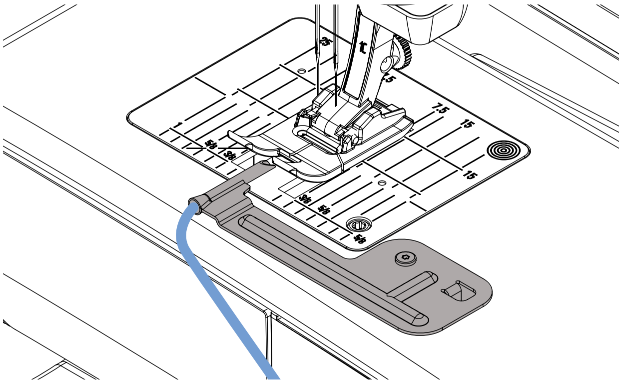


テーパリングステッチの中には、幾何学模様に使うとよいものもあります。事前に試し縫いされることをお薦めします。

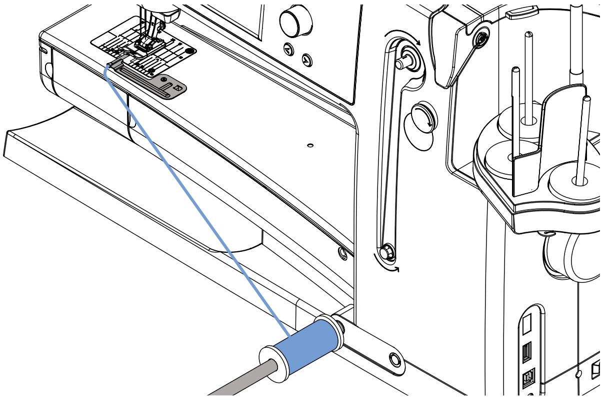
ピンタックを縫う

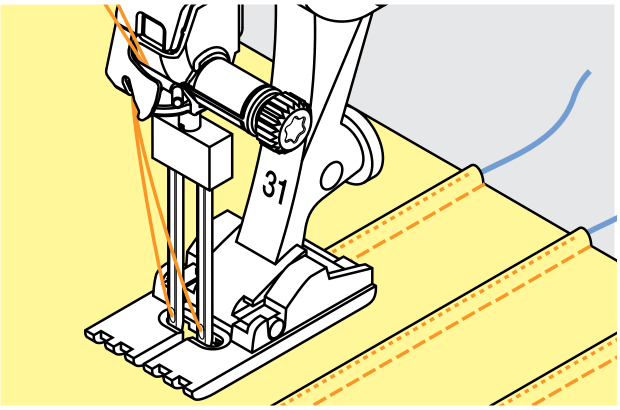
コーディングアタッチメントを使えば、
デリケートで美しいピンタックが簡単に縫えます。
アタッチメントのチューブ部分がコードを取り込んで、
ピンタックの土台を作ります。

アタッチメントは、付属のネジで針板に取り付けます。



コードをスムーズに送るため、コードの糸コマは膝押え上げレバーに取り付けます。縫っている間に落ちたり、絡んだりすることを防ぎます。





ソーイング

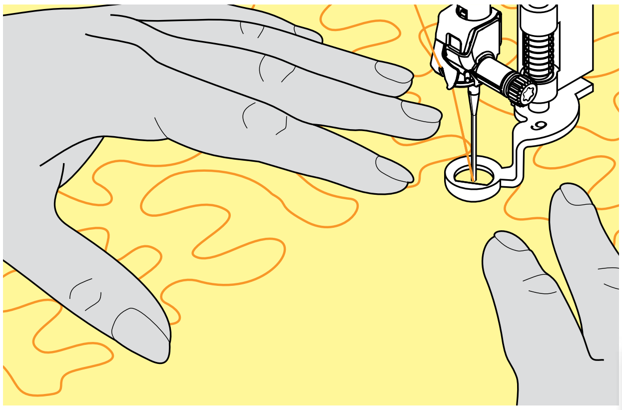
- 布を押え金の下にセットします。
- 縫い始めます。コードは自動的にピンタックの中に取り込まれていきます。
- ピンタック押えを使って、布端をスカラップ形に美しく仕上げることもできます。襟、カフスおよびタックに最適です。

キルトテクニック

キルトラベル

- 自分の作品用に、すてきなラベルを作ることができます。
- コンビモードでキルトアルファベットを使い、文字をプログラムします。名前、キルトのタイトル等の情報を入れるとよいでしょう。
- レタリングが完成したら、ステッチパターンで飾ります。

フリーモーションキルティング



- すべてのフリーハンドキルトの作品に使えます。

準備

- 土台布、キルト芯および裏地の3枚を重ねて、ピンで留めるか、しつけをかけます。
- スライドオンテーブルを取り付けます。

作品の持ち方

- 両手を刺しゅう枠のようにして、作品を押えます。
- 中央から縫い始めて、外側に向かって進めます。

デザインをキルティングする

- 作品をスムーズに丸く動かしながら、デザインを描いていきます。

スティップリング

- スティップリングは、作品全体にほどこすことができます。
- 描くラインはあくまで丸く、尖ったところができないようにします。また、ライン同士が重なったり、交差したりしないようにします。

- ダーニング押え9番

フリーモーションキルティングおよびダーニングどちらも基本的には同じフリーモーションの技法です。

針目が揃わない場合
- 作品を速く動かし過ぎると、布の表面で糸がループ状になってしまいます。
- 動きが鈍いと、裏側に結び目ができてしまいます。
- 作品をフープにセットすると、作業をしやすくなります。

透明糸が切れる場合
縫うスピードを遅くして、上糸調子を緩めます。

糸が切れる原因
布の送りを均等にしましょう。

BSR（ベルニナステッチレギュレーター）機能

BSR押えは、布の動きに反応して、ミシンのスピードをコントロールすることができます。布を速く動かせば、それに従ってミシンのスピードも速くなります。布地を速く動かしすぎると、ビープ音が鳴り、スタート・ストップボタンが赤く点滅します。このブザー音は、セットアッププログラム、または«BSR»画面で、直接オンオフの操作ができます。

BSR機能をオンにすると、ミシンはゆっくりしたスピードで連続して縫い進みます（モード1、標準）。モード2では、布を動かし始めると同時に縫い始めます。BSR押えが赤く点灯している間は、糸かけや針交換といった作業は決して行わないで下さい。間違って布が動いてしまった場合、針も一緒に動くので大変危険です。
布をおよそ7秒間動かさずにいると、BSRモードはオフになり、赤いライトは消えます。
詳しくは「安全に関するご注意」をご覧下さい。

直線縫い1番

この機能では、BSR押えを使って、送り長さ4mmまでの直線縫いでフリーモーションキルティングまたはソーイングができます。布の動きに関係なく、設定した送り長さを保ったまま縫うことができます。

ジグザグ縫い2番

ジグザグ縫いは、スレッドペインティングまたは布の飾りに使うことができます。ジグザグ縫いの場合は、送り長さは特に意味がありませんが、BSR機能によって作業が楽になります。

BSR機能の操作には、2種類のモードがあります

- BSRモード1が標準です。
- フットコントローラーまたは手元スタートストップボタンを押すと、ミシンはゆっくりとしたスピードですぐに動き出します。
- 布の動かし方によって加速します。
- 針がずっと動いているので、他のボタンを押す必要はなく、同じ場所で留め縫いをすることができます。

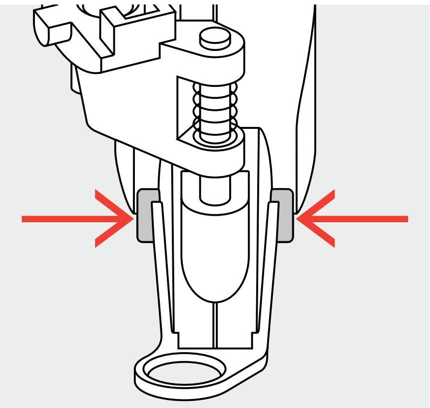
- «BSR2»ボタンを押すと、BSRモード2がオンになります。
- フットコントローラーまたは手元スタートストップボタンを押すと同時に布を動かさない限り、ミシンは動きません。
- 布を動かすスピードによって、縫うスピードが決まります。
- 留め縫いには、<<留め縫い機能>>ボタンを押さなくてはなりません。
- BSRモード1に戻るには、«BSR1»ボタンをタッチします。

布を動かすスピードが速すぎると、針目が揃わない場合があります。

BSR押えの下にあるレンズが、指紋等で汚れないようにご注意下さい。レンズのクリーニングは、固く絞った柔らかい布を使って定期的に行って下さい。

縫い始めの針目を均一にするためには、フットコントローラーを踏み込むと同時に布を動かす必要があります。
とがったポイント部分や、丸い形を直線縫いで縫うときにも、同様にして下さい。

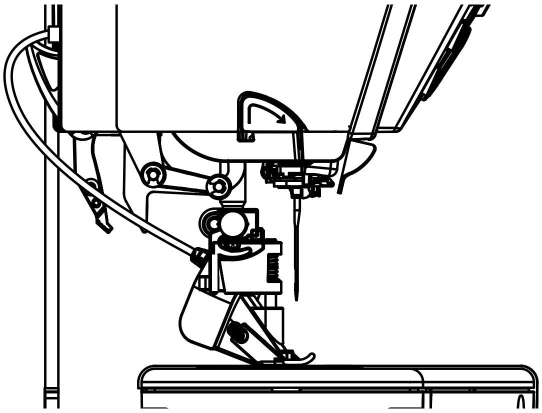
BSR機能がオンのままでミシンの電源をオフにした後、再度ミシンをオンにした場合は、最後に使っていたBSRモードがオンになっています。



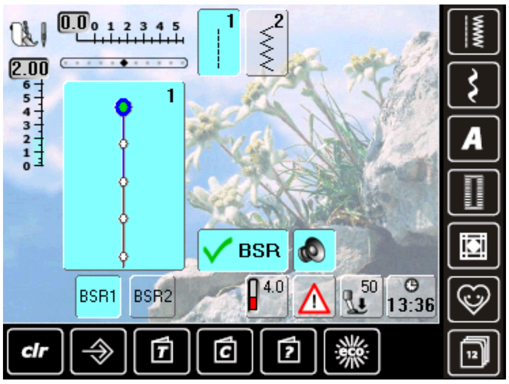
準備

- ► スライドオンテーブルを使います。
- ► BSR押えに、お好みの底を取り付けます。
  - ‣ 底の取り外し：押え金の両脇にあるボタン（図をご覧下さい）を同時に押します。
  - ‣ 溝に沿って、底を斜めにスライドさせます。
  - ‣ 底の取り付け：溝に沿って斜めにスライドさせて、かちりと音がするまではめ込みます。

> 押え圧は、布のタイプおよび厚みに応じて調節して下さい。



- ► BSR押えをミシンに取り付け、コードを指定のソケットにつなぎます。



- ► «BSR»画面が自動的に表示されます。
- ► BSRモード1が起動します。（BSR1が標準モードです。）
- ► 基本的な送り長さの設定は2mmです。
- ► お好みの送り長さを設定して下さい。
- ► 小さな形およびスティップリングを縫う場合には、送り長さは1mmから1.5mmくらいがよいでしょう。

針上下位置停止（下位置が標準です）

- 画面上で矢印が下を向いている場合、フットコントローラーから足を放すか、手元スタートストップボタンを押すと、針は下位置で停止します。
- 矢印が上を向くまで針上下位置停止ボタンを押すと、針は上位置で停止します。

針の上下

- 針上下位置停止ボタンを押すか、フットコントローラーのかかと部分を押します。針を上下に操作できます。

手元スタートストップボタンによる留め縫い（モード1のみ）

- フットコントローラーを取り外します。
- 布をセットして、押え金を下げます。
- 上下の糸端を持ちながら、手元スタートストップボタンでBSRモードをスタートさせます。
- 5針から6針縫います。
- 手元スタートストップボタンで、BSRモードを停止します。
- 糸を切ります。
- ステッチを続けるには、手元スタートストップボタンを押します。BSRモードで、作業を再開できます。

留め縫い機能（モード2のみ）

- «留め縫い»ボタンを押します。
- フットコントローラーまたは手元スタートストップボタンを押します。
- 布を動かすと同時に、ミシンは短い針目で留め縫いを行います。その後、セットした送り長さに戻り、留め縫いプログラムは自動的に終了します。

フリーモーションキルティング（モード2のみ）

- BSRモードをオンにします。
- フリーモーションキルティングができます。
- フリーモーションキルティングの最中に«留め縫い»ボタンを押すと、ミシンは留め縫いをした後、停止します。
- BSRモードはオフになります。

BSRを使わないフリーモーションキルティング

- 画面左側にある«BSR»アイコンにタッチします
- BSRモードはオフになり、画面左側にある«BSR1»および«BSR2»の表示が消えます。
- BSR押えを使って、通常のキルティングができます。この場合、送り長さが自動的に調整されることはありません。

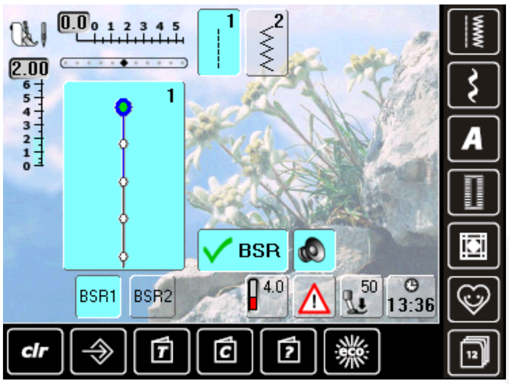
ブザー音（電子シグナル）のオンとオフ

セットアッププログラムを開きます。

- ► セットアップボタンを押します。
- ► 選択メニューが表示されます。
- ► ⑤をタッチします。
- ► «自動設定»の画面が開きます。

セットアッププログラムでBSRの音を選択する

- ► 一つの音が標準設定されています。
- ► BSRスピーカーのアイコンについているバーを1回、タッチします。
- ► バーが灰色に、スピーカーが赤く表示されている場合は、ブザー音はオフです。
- ► バーが青く表示されていれば、ブザー音はオンになっています。
- ► セットアッププログラムでブザー音が常にオフの状態の場合、つまり画面左側が灰色でスピーカーが赤で表示されている場合は、BSRスピーカーのバーは表示されません。



«BSR»画面で音を選択する

- ► BSRスピーカーのアイコンバーを1回、タッチします。
- ► バーが灰色に、スピーカーが赤く表示されている場合は、ブザー音はオフです。
- ► バーが青く表示されていれば、ブザー音はオンになっています。

> 通常は、セットアッププログラムでブザー音がオンになっている場合のみ、音選択アイコンが表示されます。

BSRソーイング機能をオンにする

1. フットコントローラーを使う方法

- ► フットコントローラーを接続します。
- ► 押え金を下げます。
- ► フットコントローラーを踏み込んで、BSRモードをスタートします。
- ► 押え金に赤いライトが点灯します。
- ► 縫っている間はずっとフットコントローラーを踏み続けるようにして下さい。
- ► 縫うスピードは、布の動きに合わせて針目が均一になるよう調整されます。
- ► フットコントローラーを放せば、BSRモードは停止します。

2. 手元スタートストップボタンを使う方法

- ► 押え金を下げます。
- ► 手元スタートストップボタンを押して、BSRモードをスタートします。
- ► 押え金に赤いライトが点灯します。
- ► ミシンのスピードは、布の動きに合わせて均等に調整されます。
- ► 手元スタートストップボタンを再度押すと、BSRモードは停止します。

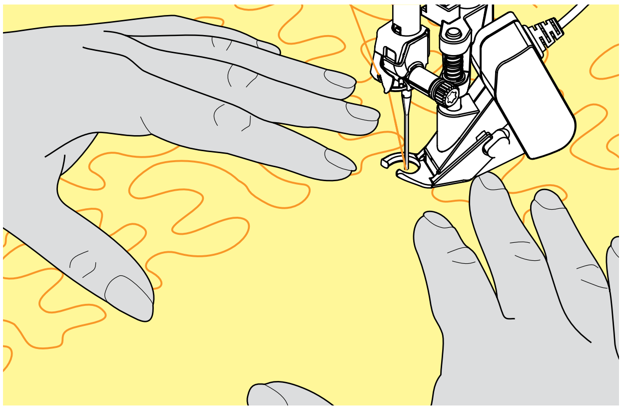
手元スタートストップボタンを使ってBSR機能をオフにする方法

モード1

- ► 布を7秒以上動かさないでいると、BSRモードはオフになります。押え金の赤いライトは消えます。

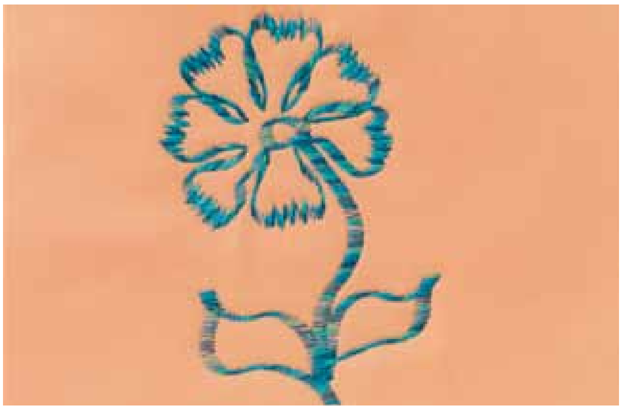
モード2

- ► ステッチが完了して布を動かさない状態が続くと、ミシンは針のあるところから一針だけ進んで止まります。その場合、ミシンは、針下位置停止の表示が出ているときでも、必ず針を上位置にして停止します。



作品の持ち方

- ► ぴんと張った布を、両手で支えながら動かします。
- ► 布の動かし方が均等でないと、送り長さに多少の違いができることもあります。
- ► 均等に連続して布を動かすことが一番です。
- ► 布を動かす方向を一定にすると、きれいに仕上がります。



使い方の一例

BSRとジグザグ縫い2番を合わせる

- ► ジグザグ縫いは、スレッドペインティングや飾りに使えます。
- ► 布の一部を埋め縫いして、図形や絵柄を描くことができます。

BSR機能をオフにする

- ► BSR押えのケーブルを抜きます。これで直線縫い1番のステッチがオンになりました。
- ► BSR押えを取り外します。

ベルニナデュアルフィード(上送り機構)について

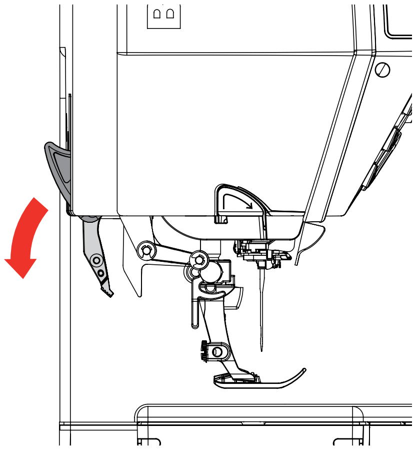
> 使用できるのは、«D»のついた、後ろ中央に切れ込みのある押え金のみです。それ以外の押え金を取り付けている場合、デュアルフィードをオンにした状態ではミシンは動かず、エラーメッセージが表示されます。

ベルニナデュアルフィードでは、2枚重ねにした布をずれることなく送ることができます。均等に送ることで、チェックやストライプの柄合わせが完璧にできます。

お薦めの押え金

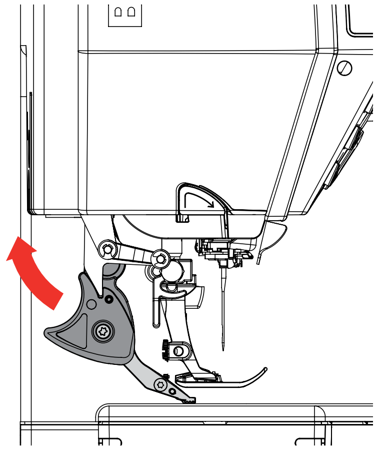
- 標準押え1D番
- ファスナー押え4D番

«D»のつく押え金のリストは、同封のアクセサリーカタログに掲載されています。



ベルニナデュアルフィードをオンにする

- 押え金を上げます。
- デュアルフィードを押し下げて、固定します。



ベルニナデュアルフィードをオフにする

- 押え金を上げます。
- デュアルフィードの黒いホルダーを2本の指で持ち、一旦下げてから、また後ろに戻します。あとは、ゆっくりと自然に上にスライドさせて下さい。

> デュアルフィード(上送り)機能をオン又はオフにした後は必ず、先ず押え金を下げてください。さもなければ、ミシンの機能が全て正常に作動しない場合があります。

布

扱いにくい布（毛足が長い、滑りやすい、滑りの悪い布等）
- ベルベットは、毛足の目に配慮しながら縫います。
- タオル
- ジャージー地（特に横目に沿って縫う場合）
- 人工毛皮（コーティングされたものを含む）
- フリース
- 芯地入りの布地
- ストライプおよびチェック
- 連続模様のカーテン地

「滑り難い」布地

- 合皮、コーティングされた布地（テフロン加工されたデュアルフィード押えを使います。）

使い方

ソーイング

- すべてのソーイングテクニックに使うことができます。（ヘム仕上げ、ファスナー等）

パッチワーク

- ストライプの柄合わせやブロックピーシングが、正確にできます。
- 飾り縫いの振り幅は9mmまで可能です。

アップリケ

- オープン刺しゅう押え20D番
- リボンおよびバイアスバインディングを縫い付けることができます。

押え圧を布に合わせます。布が厚くなるほど、押え圧を低くします。

修正にはバランス機能を使います。詳しくは**52**ページをご覧下さい。.

メンテナンスとトラブルシューティング

メンテナンス 116

クリーニング 116
- 針板および回転釜のクリーニング 116
- 自動糸カッターのクリーニング 116
- 注油 116
- 画面およびミシン本体のクリーニング 116

デジタル時計の電池交換 117

環境保護について 117

トラブルシューティング 118

トラブルシューティング 118

メッセージ 122

クリーニング

針板および回転釜のクリーニング

針板の下に溜まった糸くずやゴミを取り除きます。

- ► 押え金と針を取り外します。
- ► 針板の右後ろの角を押し込んで、針板を取り外します。
- ► 釜カバーの扉を開きます。
- ► ボビンを取り外します。
- ► 針板と下糸センサーをブラシ、または掃除機で掃除します。

- ► 回転釜と釜レースをブラシで掃除します。この部分には、尖ったものは使わないで下さい。
- ► ボビンを入れます。
- ► カバーを閉じます。
- ► 針板を戻します。

自動糸カッターのクリーニング

- ► **46**ページをご覧下さい

注油

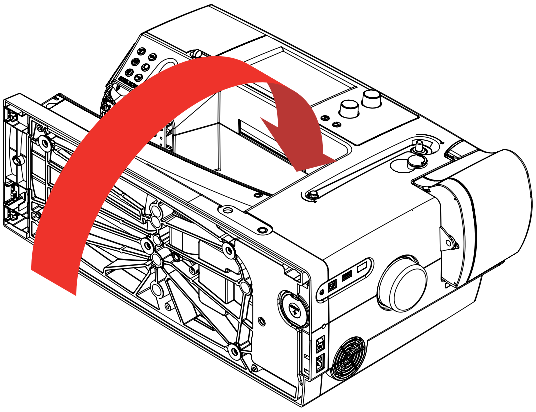
- ► 釜カバーを開きます。
- ► 左手でボビンケースを支えながら、右手で弾み車を時計回りに回して、釜レースを表に出します。
- ► 釜レースに、ミシンオイルをほんの一滴、落とします。
- ► 釜カバーを閉じます。
- ► 糸をかけない状態で、ミシンを短く動かします。これで作品にオイルのしみがつくのを防ぐことができます。

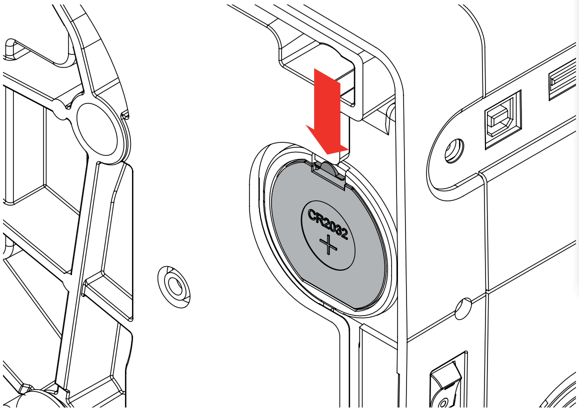
画面およびミシン本体のクリーニング

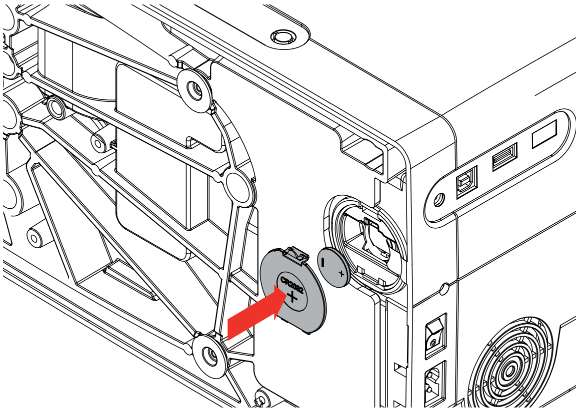
- ► 固く絞った柔らかい布で拭いて下さい。

> ⚠ クリーニングの際には、ミシンの電源を切り«0»、コンセントを抜いてから作業を行って下さい。アルコール、石油等の揮発性のある液体は、決して使わないようにして下さい。

デジタル時計の電池交換



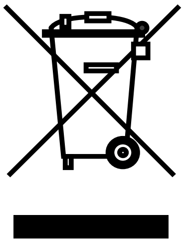




- 3VのボタンCR2032を使います。これ以外の電池を使うと、火事や爆発の恐れがあります。
- ミシンを、後ろ側が下になるように倒します。
- バッテリーケースのふたを外します。
- 小さなネジ回しでロックを解除し、電池を取り外します。
- 新しい電池を入れて、ロックがかちりとはまるまで押し込みます。
- ふたを閉めます。

ミシンに使用する電池は、取り扱いを間違えると、火事または化学的火傷を引き起こす恐れがあります。電池を充電、分解、100度を超える高温に晒す、または燃やす等の行為は絶対にしないで下さい。
電池はお子様の手の届かないところに保管して下さい。充電式の電池は使用できません。電池を火に近づけないで下さい。爆発の恐れがあります。電池を家庭用ゴミとして処分することはできません。処分方法については、お住まいの自治体の規定に従って下さい。

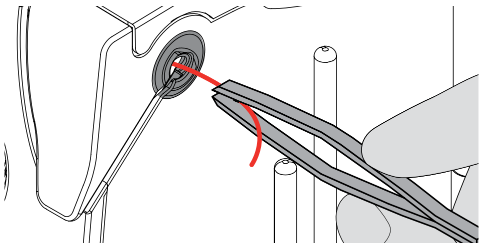
環境保護について



ベルニナ社は、環境保護を大切に考えています。素材および技術を絶え間なく向上させることにより、環境に与える被害を最低限に保つ努力をしています。

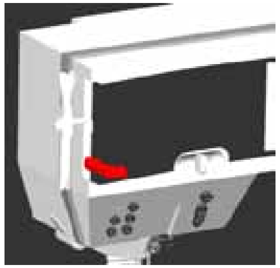
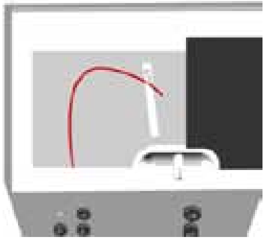
ミシンを廃棄する際には、法律に従って、できるだけ環境に悪影響を及ぼさない方法を取るようお願い致します。ミシンを家庭用ゴミとして処分しないで下さい。ご質問は、お買い上げ店にご相談下さい。

ヒント
ミシンの電源を一旦切ってから、10秒後にオンにするだけで、問題が解決する場合もあります。

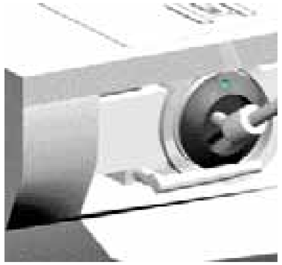
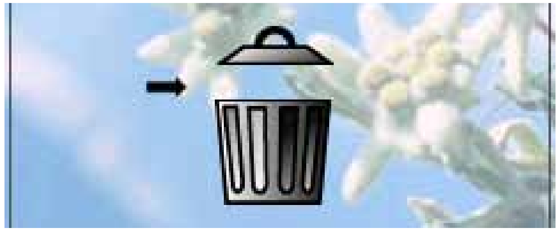
問題	原因	解決
針目が揃わない	上糸調子が強すぎるか弱すぎる 下糸調子が強すぎるか弱すぎる 針の品質が悪い 針のセット方法が間違っている 糸の品質が悪い 針と糸の組み合わせが間違っている 糸かけが間違っている	上糸調子を調整する 下糸調子を調整する 新しい高品質のBERNINA針を使う 針シャンクの平らな部分を後ろにして取り付ける 品質の高い糸（Isacord, Mettler, Gutermann）を使う 糸と針のサイズを合わせる 上糸と下糸のかけ方をチェックする
針目が飛ぶ	正しい針を使っていない 針先が鈍いか曲がっている 針の品質が悪い 針のセット方法が間違っている 針先の形状が間違っている	針システムは130/705Hを使う 新しい高品質のBERNINA針を使う 高品質の針を使う 針を一番上の位置まで押し込むようにしてセットする 布に合ったタイプの針を使う
上糸が切れる 	上糸調子が強すぎる 糸かけが間違っている 糸の品質が悪いか、古い 針板または回転釜のチップが壊れている	上糸調子を緩める 上糸かけをチェックする 高品質の糸を使う ピンセットで上糸かけ溝周囲の糸くずを取り除く（120ページをご覧ください） ミシンをお買い上げ店で点検する
下糸が切れる	下糸調子が強すぎる 針板の穴に傷がある 針先が鈍いか曲がっている	下糸調子を緩める ミシンをお買い上げ店で点検する 新しい針を使う

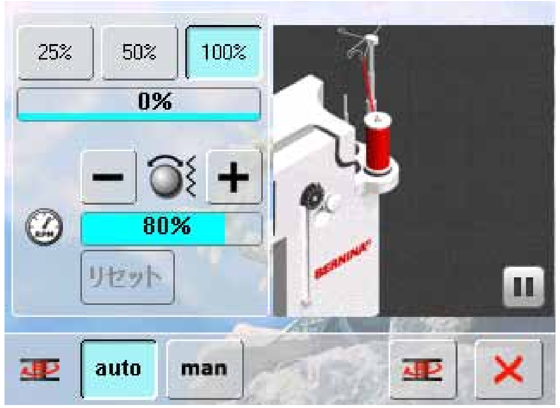
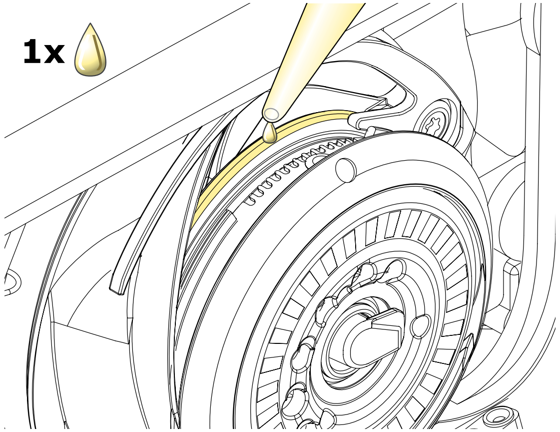
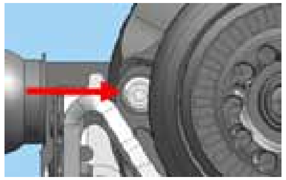
032298.53.10_1204_B820_JP

問題	原因	解決
針が折れる	針のセットが間違っている 布が引っ張られている 厚手の布地を使ったため、布が引っ張られていた 品質の悪い糸に結び目があった	針止めネジを締める ソーイング中、布を引っ張らない 厚手の布地専用の押え金(ジーンズ押え8番等)を使い、布の重なり部分には高さ調整板を使う 品質の高い糸を使う
ステッチが乱れる	糸くずが上糸テンションディスクにはさまっている	セットアッププログラムで画面の計測をやり直す エコ機能をオフにする
画面が反応しない	画面の計測が正常に設定されていない エコ機能がオンになっている	セットアッププログラムで画面を計測し直す エコ機能をオフにする
ミシンが動かない、またはゆっくりにしか動かない	コンセントの接続が適切でない 室温が低くてミシンが動かない ミシンの電源が入っていない	コンセントを正しく接続する 室温を上げてから使う ミシンの電源をオン<<1>>にする
キー上のLEDライトが点灯しない	LEDが故障している エコ機能がオンになっている	お買い上げ店にご連絡下さい エコ機能をオフにする
LEDソーイングライトおよびフリーアームライトが点灯しない	LEDが故障している エコ機能がオンになっている	お買い上げ店にご連絡下さい エコ機能をオフにする
取り付けた押え金が認識されない	押え金またはミシンのセンサーが汚れている	汚れを柔らかい湿った布で拭き取ります

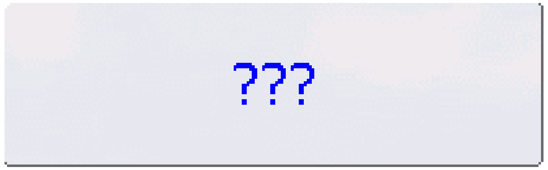
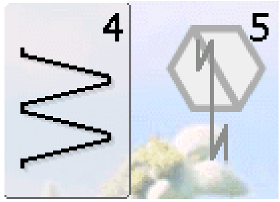
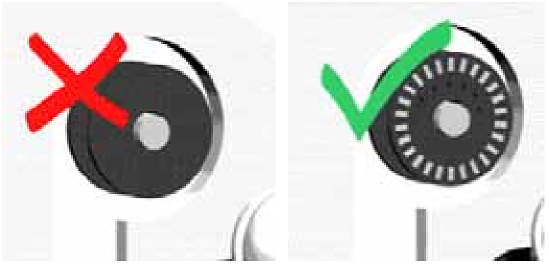
問題	原因	解決
下糸センサーが反応しない	ボビンに傷がある、または故障している モニター機能が働いていない センサーが故障している	ボビンをチェックして、必要ならば交換する セットアッププログラムでモニター機能をオンにする お買い上げ店にご連絡下さい
アップデートがエラーになってしまう	USBスティックが認識されていない アップデートの作業が完了していない（砂時計のシンボルが表示中である）	BERNINA USBスティックを使う スティックを外し、ミシンをオフにしてから、もう一度オンにします。メッセージに従ってアップデートします。
糸が天秤の周囲に引っかかった  	上糸が切れている 上糸が天秤に絡まっている	► 糸を上糸こまの近くでカットする 画面左側のカバーを以下の要領で外します。 ► 左手で、カバー左側の穴にマルチ機能ツールを強く押し込みロックを外して開けます。 ► 右手でカバーを外します。 ► ピンセットを使って天秤の周りに見える糸くずを取り除きます。 ► カバーを戻し、かちりとはまるまで、後ろ側に押し込みます。
自動糸カッターが使えない	糸キャッチャーに、糸くずがはさまっている	セットアッププログラムのクリーニングの項目で以下の作業をします。 ► フィールド1にタッチする ► 自動糸カッターの糸キャッチャー部分が右に動きます。 ► 糸くずをピンセットで取り除きます 。 ► フィールド3をタッチする。 ► 自動糸カッターが初期化されて、使用可能になります。

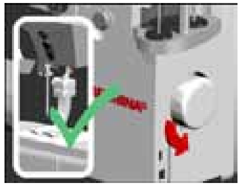
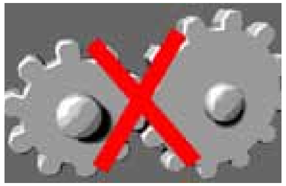
問題	原因	原因
自動糸かけができない	センサーの2本針機能がオンになっている センサーが故障している	セキュリティプログラムで2本針の制限をオフにする お買い上げ店にご連絡下さい

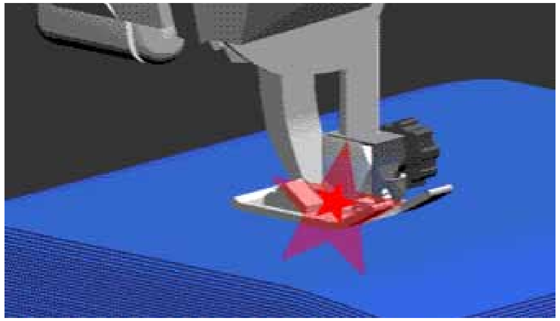
メッセージ	説明	作業方法
	ミシンをクリーニングして注油して下さい。	► ボビンカバーを開いてボビンを取り外します。 ► ミシンの電源を切ります。 ► 押え金、針および針板を取り外します。 ► 手順に従って、ミシンのクリーニングをします。
	データの削除または上書きをします。（ドロワー等）	✔ で確定するか、✖ でキャンセルします。
ソフトウエアーの自動更新に成功しました。新世代のベルニナをお楽しみください。	アップデートに成功しました。	ミシンのソフトウェアが最新バージョンになりました。

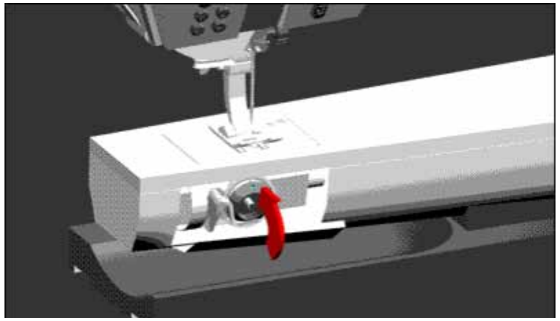
メッセージ	説明	原因
	下糸を巻き取ります。	アニメーションのとおりにボビンに下糸を巻きます。
 	ミシンのクリーニングと注油が必要です。	ミシンを今後ともに最高の状態で使えるよう、針板や送り歯周囲の糸くずやほこりを取り除く時期です。 このメッセージは、およそ500,000ステッチを縫うごとに表示されます。 クリーニングと注油が完了したら✓をタッチしてメッセージを閉じます。メッセージは✕をタッチすれば一時的に閉じることができますが、ミシンを次にスタートするとき、また表示されます✕をタッチしてキャンセルを3回繰り返すと、メッセージは次に500,000ステッチ縫うまで表示されません。 注油の後、下糸掛けを正確に出来る位置に戻すには、はずみ車を手で時計回りに回して釜を写真の位置に戻してください。

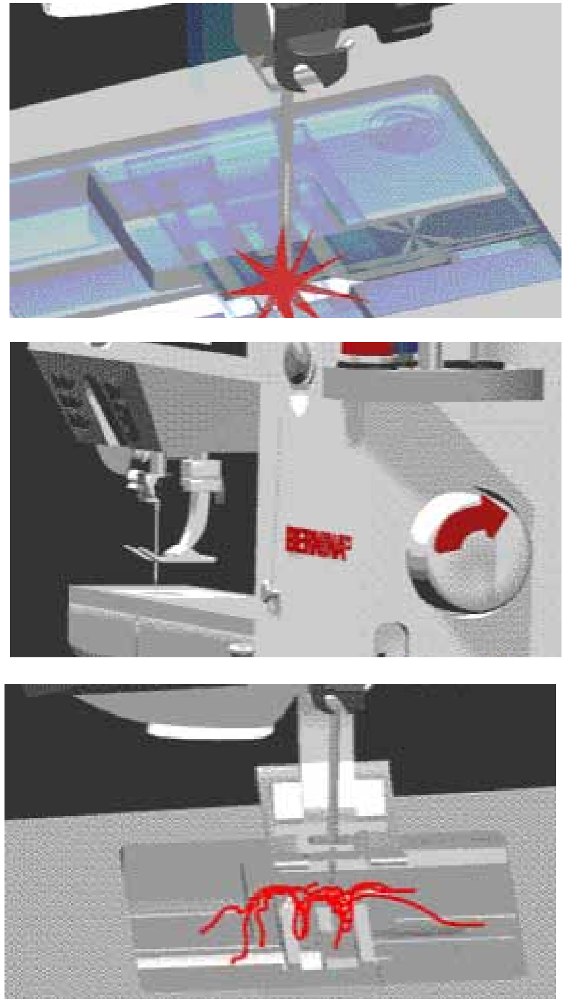
メッセージ	説明	作業方法
定期点検の時期になりました。お近くのベルニナ正規販売代理店にご相談下さい。	定期点検の時期になりました。お買い上げ店にご連絡下さい。	ミシンの点検は、ベルニナ専門店にお任せ下さい。メッセージは3,000,000ステッチ縫うごとにメッセージが表示されます。定期点検の後、ミシンのカウンターは✓にリセットされ、メッセージは消えます。定期点検せずに、✕をタッチすれば一時的に閉じることができますが、ミシンをスタートするとまた表示されます。 ✕Xを3回タッチしてキャンセルを繰り返すと、メッセージは次の3,000,000ステッチ（合計6,000,000ステッチ）を縫うまで表示されません。ただし9,000,000ステッチ縫った後は、絶対に点検が必要なため、メッセージを消すことはできません。電源をオンにするたびに表示されます。 ミシンのクリーニングおよび定期点検を行うことで、ミシンを長持ちさせ、ずっと快適に使用することができます。きちんと手入れしないと、ミシンの寿命を縮め、保証にも制限がかかってしまいますのでご注意下さい。定期点検には費用が掛かります。詳しくはお買い上げ店にお問い合わせ下さい。

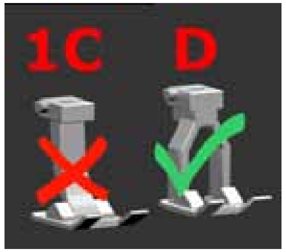
エラーメッセージ	説明	解決方法
	直接入力したステッチ番号が不明です。	入力内容をチェックして、正しい番号を入力し直して下さい。
	コンビネーションモードではステッチの選択ができません。	他の選択をしましょう。
	糸が切れました。	上下の糸を点検して下さい。
	ボビンのセット方法が間違っています。	ボビンの白い面が手前に来るように、入れ直して下さい。

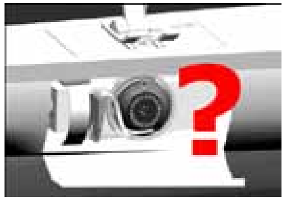
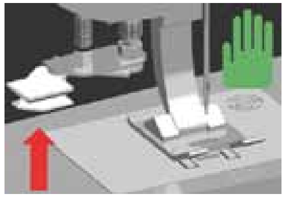
エラーメッセージ	説明	解決方法
	針板と合わない針をセットしています。	セキュリティプログラムにて設定を確認して下さい。
	針が一番高い位置にありません。	弾み車を回します。
	メインモーターが動いていません。	回転釜周囲から糸くずを取り除いて下さい。132-134ページの「釜がロックされた場合」もご覧下さい。
メモリーの容量が一杯です。既存のファイルを削除して保存をやり直して下さい。	選択した機能を実行する空き容量がありません。	ソーイングメモリーの保存量を減らします。 パーソナルプログラムの保存量を減らします。

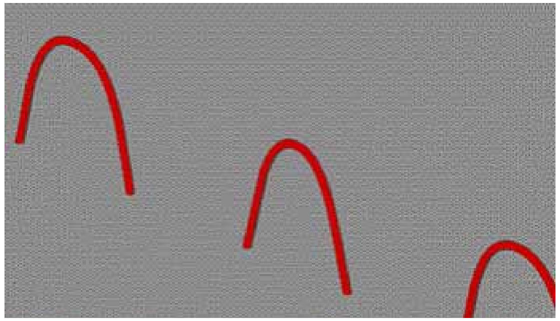
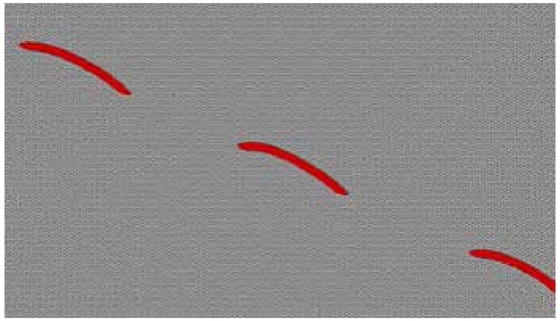
エラーメッセージ	説明	解決方法
ベルニナ・メモリースティックの容量が不足しています。常に10MBの空き容量があることを確認してください。	USBスティックの空き容量が10MB以下になっています。	USBスティックのデータを削除します。
	押え金の下の布が多すぎます。	布の量を減らします。
メモリースティックにはパーソナル・データは存在しません。	USBスティックにパーソナルデータが入っていません。	USBスティックのセットが正しいかどうか確認し、ミシンを再スタートして下さい。
パーソナルデータのリカバリーに失敗しました。	アップデートの過程で、USBスティックにパーソナルデータの保存ができませんでした。	ソフトウェアのアップデートは完了していますが、パーソナルデータの回復はできませんでした。

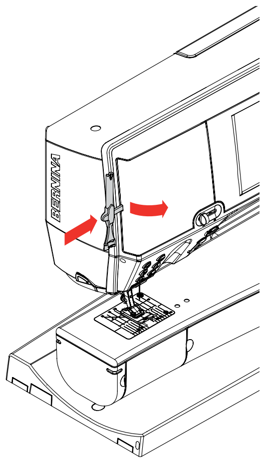
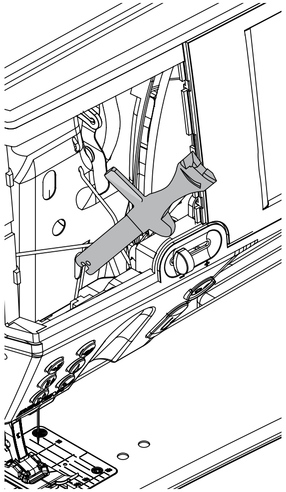
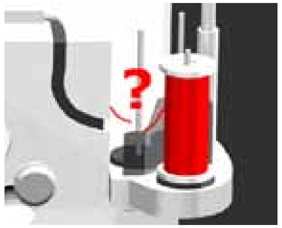
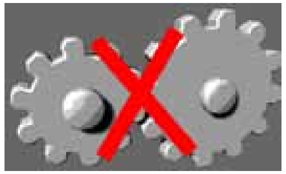
エラーメッセージ	説明	解決方法
ベルニナ・メモリースティックを挿入してください。ソフトウエアーの自動更新作業中は、必ず同じメモリースティックをご使用ください。	ベルニナUSBスティックがセットされていません。	ベルニナUSBスティックをセットして、アップデート中は取り外さないようにします。
ソフトウエアーの更新に失敗しました。	新しいソフトウェアバージョンがUSBスティックに入っていません。	新しいソフトウェアバージョンをUSBスティックに保存してから、アップデートの作業を開始して下さい。
	釜カバーが開いています。	釜カバーをゆっくり閉めて下さい。

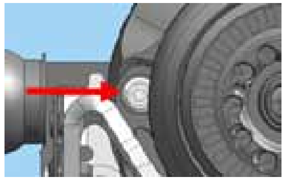
エラーメッセージ	説明	解決方法
	自動糸カッターボタンが押され、針が一番下の位置にブロックされてしまいました。	► ミシンの電源を切ります。 ► 弾み車を時計回りに回して、針を一番上に持ってきます。 ► 針板を取り外します。 ► 糸くずを取り除きます。 ► 針板を取り付け、それからミシンの電源をオンにします。

エラーメッセージ	説明	解決方法
	下糸センサーが反応しています。	ボビンをチェックして、必要ならば巻き直して下さい。
	上糸がなくなりました。	新しい糸コマを使って糸かけして下さい。
	ベルニナデュアルフィードに適さない押え金がついています。	Dのついた押え金に交換して下さい。

エラーメッセージ	説明	解決方法
	ボビンが入っていません。	ボビンをセットします。
	糸通しがスタート位置に移動しません。	糸通しを手で適切な位置に持ってきます。

エラーメッセージ	説明	解決方法
 	糸締りが緩いです。	糸調子画面で、糸調子を調整して下さい。

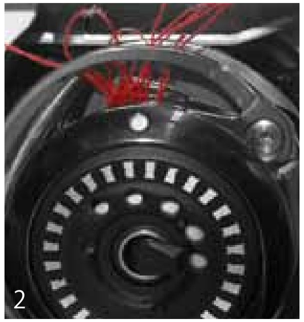
エラーメッセージ	説明	解決方法
針が下がった状態で、糸が回転釜に引っかかっています。  	糸が釜周辺に引っかかっています。	以下の手順で、カバーを画面左側に移動します。 ► 左手を使って、多機能ツールをカバー左側の溝に入れ、ロックを押します。 ► 同時に、右手でカバーを前方向に取り外します。 ► 多機能ツールで、針棒を取り外します。 ► 針を外します。 ► カバーを戻して、かちりとはまるまで後ろに押し込みます。 ► この続きは、「釜がロックしてしまいました」でご覧下さい。
釜がロックしてしまいました  	回転釜に糸が絡まってしまいました。	このエラーは、さまざまな原因で起こります。標準的な修理方法は以下のとおりです。まずはこの手順に従って下さい。 ステップ1　針が一番上で止まらない場合には、弾み車を手前に回して上げます。回らない場合には、上糸をカットし、多機能ツールで画面左側のカバーを外して、同じツールで針棒を解放し、上げます。ページの「針が下がった状態で、糸が回転釜に引っかかっています」もご参照下さい。 ステップ2　押え金を上げます。 ステップ3　ハサミを使って、針板の上で、上下の糸をカットします。 ステップ4　釜カバーが閉じている場合は、開けます。≪トラブルシューティング用マニュアルモード≫のメッセージが、説明書と共に表示されます。 ステップ5　フットコントローラーを取り外します。 ステップ6　針を取り外します。

エラーメッセージ	説明	解決方法
		ステップ7　弾み車を後ろ側に回しながら、釜を回転させて出します。 ステップ8　弾み車を手前に回して、ロック状態を解除できるか見ます。必要ならば、多少力を入れてもかまいません。これが無理な場合は、お買い上げ店にご相談下さい。 ステップ9　ボビンを取り外し、必要ならば糸をカットします。 ステップ10　ピンセットで、糸くずを慎重に取り除きます。糸が絡んでいる場合は、ゆっくりと弾み車を後ろ側に回し、糸が抜けるようになったら引き抜きます。 ステップ11　弾み車を後ろ側に回し、左の写真の位置に釜を持ってきて、正しく糸通しができるようにします。 ステップ12　ボビンを入れます。 ステップ13　左の写真を参考に、釜カバーの内側の絵と突起の位置を比較して、下糸調子を確認します。 ステップ14　弾み車を手前に回して、釜を完全にスイングさせ、釜カバーを閉じます。 ステップ15　針をチェックします。傷がないようならば、元に戻します。傷ついていれば、新しいものに交換して下さい。 ステップ16　フットコントローラーを再び接続します。 ステップ17　«トラブルシューティング用マニュアルモード»および«メインモーターが動いていません»、または«フックシステムを確認して下さい»のメッセージを確認します。

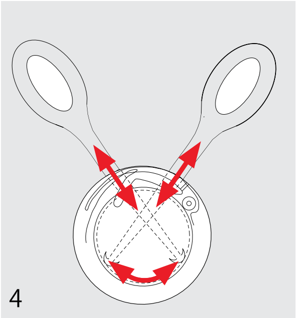
ここに記載されている使用目的以外の用途には使用しないで下さい!

エラーメッセージ	解決方法
釜がロックしてしまいました	► 針板まわりの糸をすべて切って、縫製中の作品をとりはずして下さい 。 ► 押え金、針、針板をはずします。 ► ボビンのふたをあけると、回転釜がでてきます。 ► ミシンの電源をきって下さい。 ► まず初めに、付属品のピンセットを使って釜周辺に見える糸くずを出来るだけ取り除きます。(図 1) ► 左手でボビンケースをしっかり持って(25ページ参照)、右手で弾み車を回して、釜止めネジが2時30分の位置にくるようにします。(図2) ► 注意してクリーンアップツールを図のように開口部から挿入し、ツールを左右、上下に動かしながら糸くずを取り除きます。(図3-4) ► 全ての糸くずを取り除いたら、注油し、電源をオンにして、釜カバーを閉じます。釜は所定の位置に自動的に復元します。

1


2

3

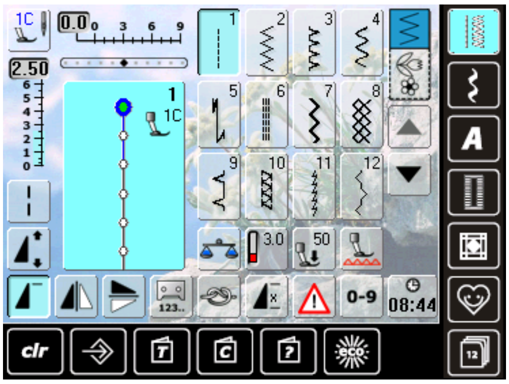

4

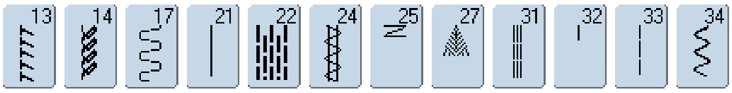
各種ステッチ

ソーイングステッチカテゴリー 136
実用縫い 136
ボタンホール 136
飾り縫い 136
フローラル 136
クロスステッチ 136
サテンステッチ 137
オーナメントステッチ 137
エアルームステッチ 137
ノベルティステッチ 138
タッセル 138
キルトステッチ 138
テーパリングステッチ 138
アルファベット 139
ブロック体 139
ダブルブロック体 139
スクリプト（筆記体） 140
キルトアルファベット 140
ギリシャ書体 141
ひらがな 141
カタカナ 142
漢字 142

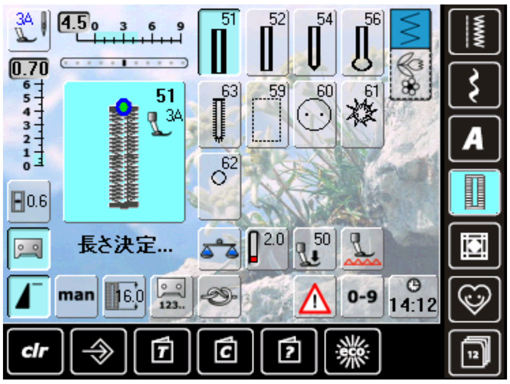
032298.53.10_1204_B820_JP

実用縫い



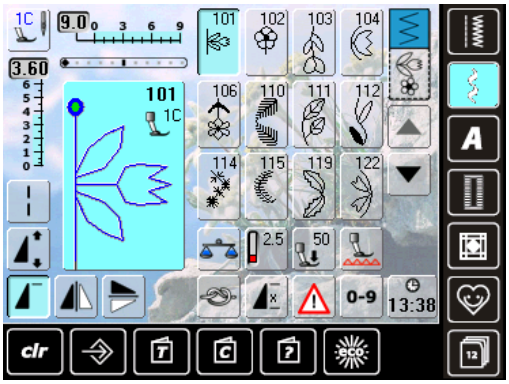


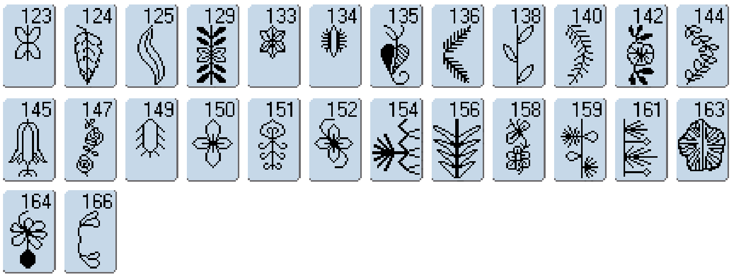
ボタンホール



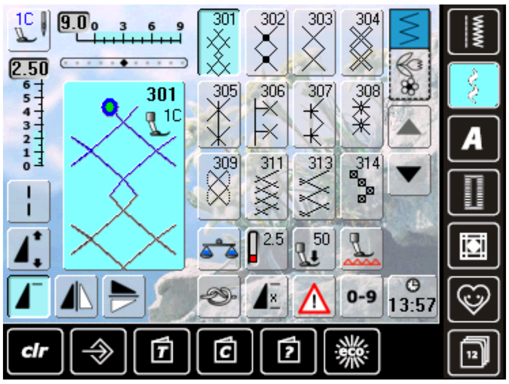
飾り縫い

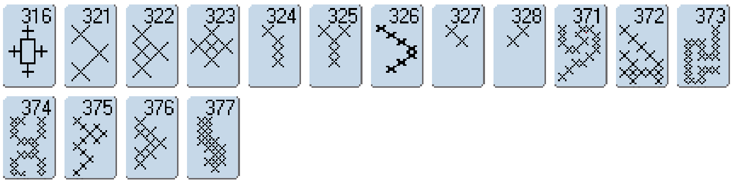
フローラル



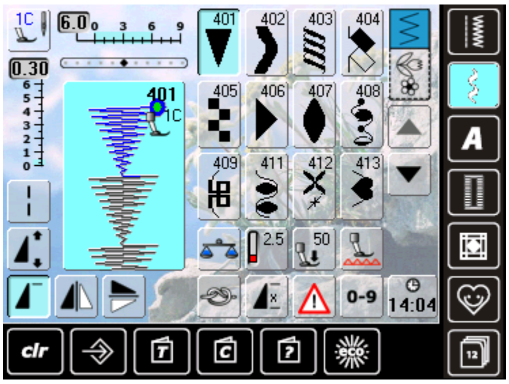


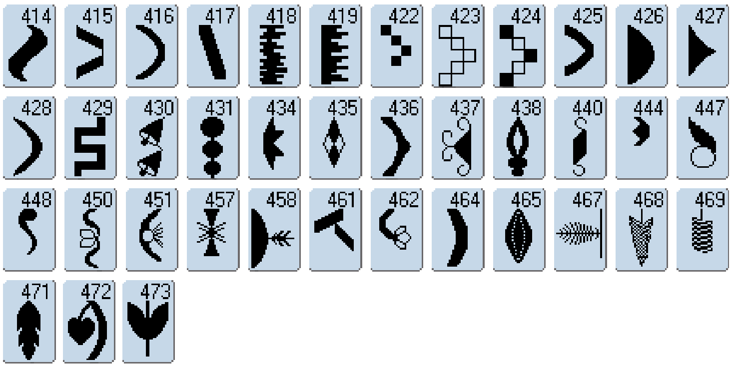
クロスステッチ



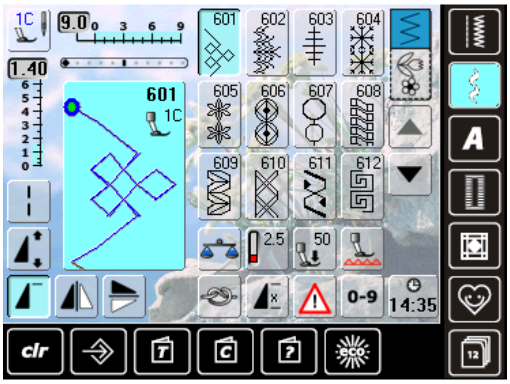


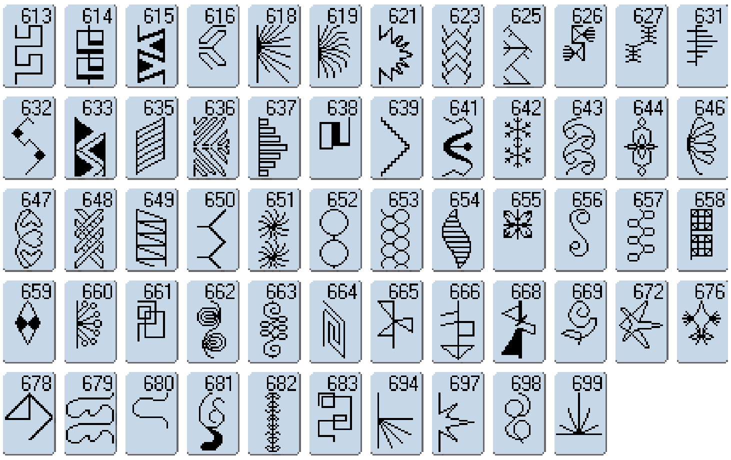
サテンステッチ



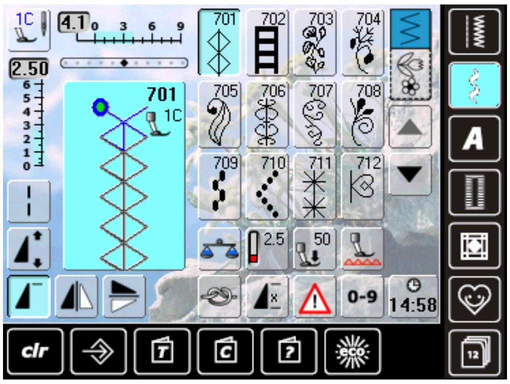


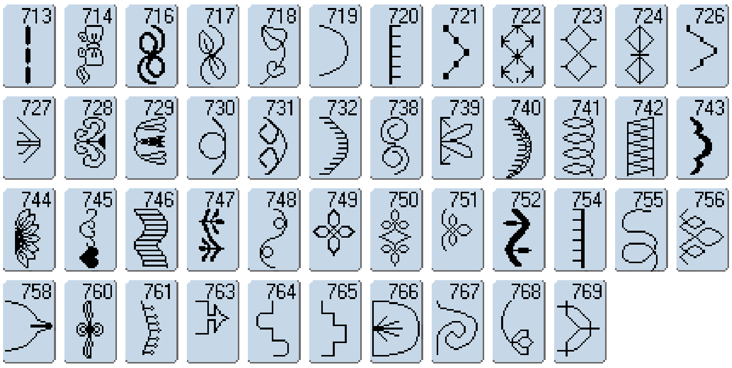
オーナメントステッチ



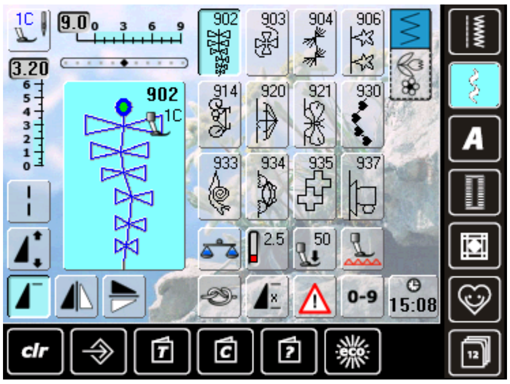


エアルームステッチ

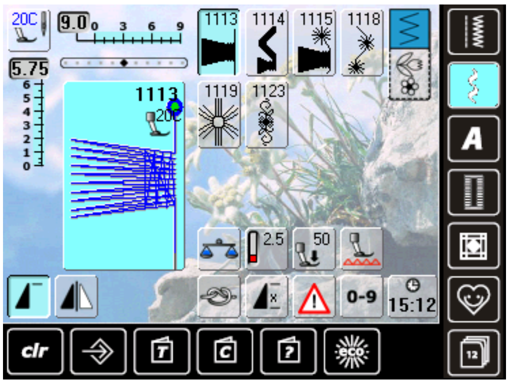




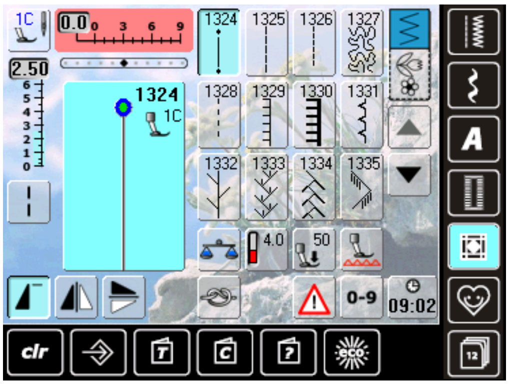
ノベルティステッチ

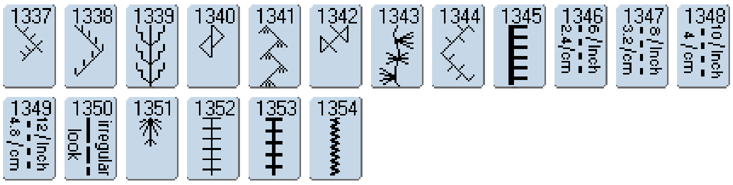


タッセル

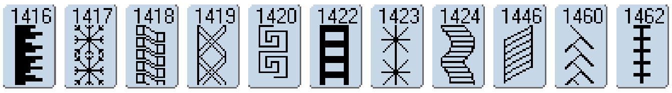


キルトステッチ



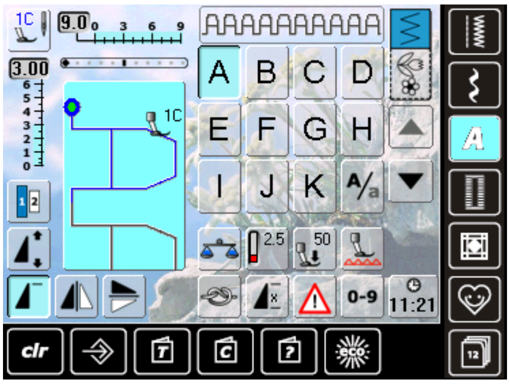


テーパリングステッチ

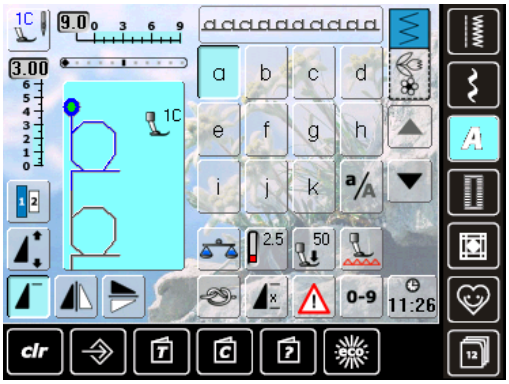


アルファベット

ブロック体

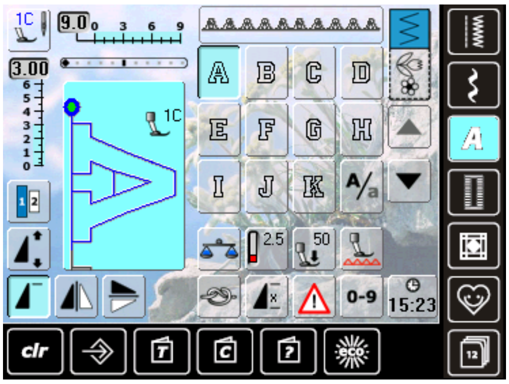


L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
X	Y	Z	Ä	À	Â	Å	Æ	Ç	È	É	Ê
Ñ	Ö	Œ	Ø	Ü	1	2	3	4	5	6	7
8	9	0	_	–	.	´	!	+	=	&	÷
?	%	@	(	)	[	]					

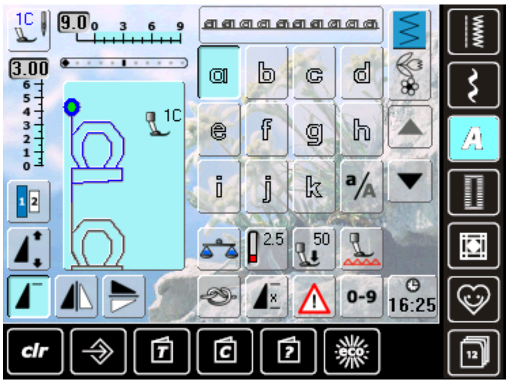


l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w
x	y	z	ä	à	â	å	œ	ç	è	é	ê
ñ	ö	œ	ø	ü							

ダブルブロック体

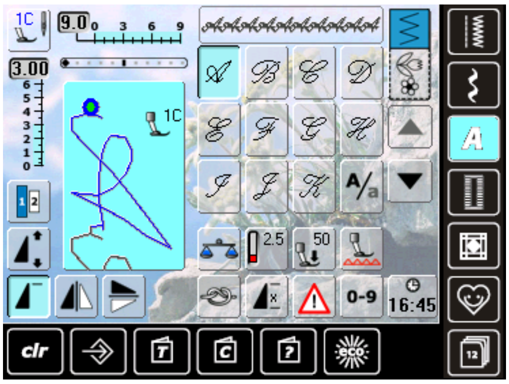


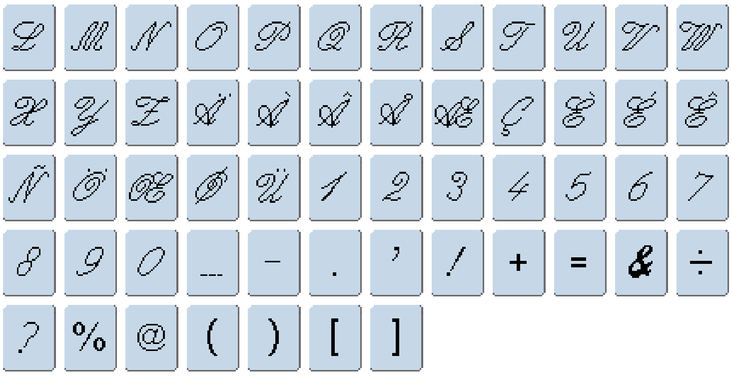
L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
X	Y	Z	Ä	À	Â	Å	Æ	Ç	È	É	Ê
Ñ	Ö	Œ	Ø	Ü	1	2	3	4	5	6	7
8	9	0	_	-	.	´	!	+	=	&	÷
?	%	@	(	)	[	]					

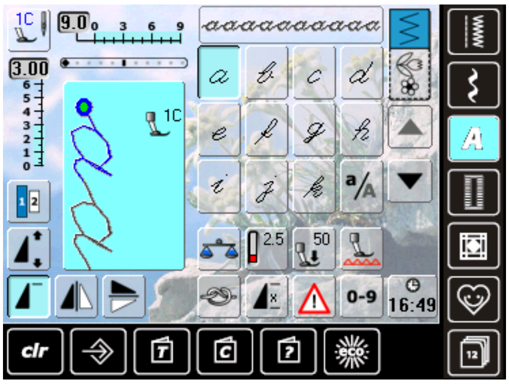


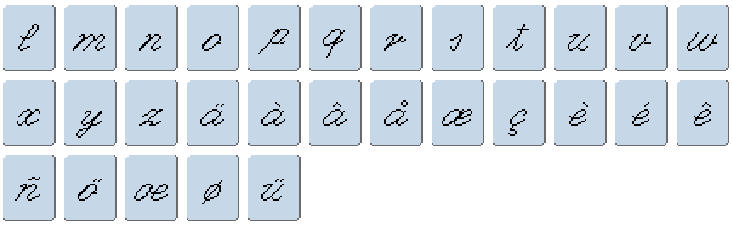
l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w
x	y	z	ä	à	â	å	œ	ç	è	é	ê
ñ	ö	œ	ø	ü							

スクリプト（筆記体）

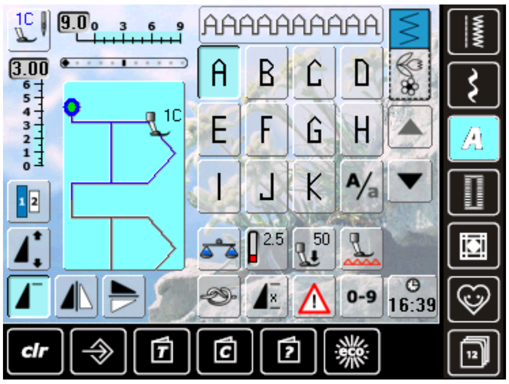


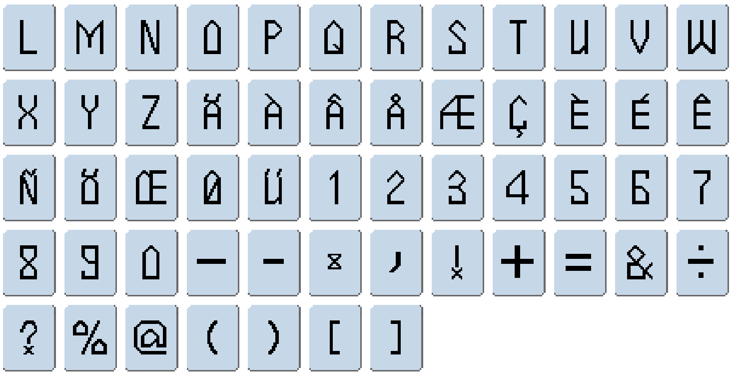


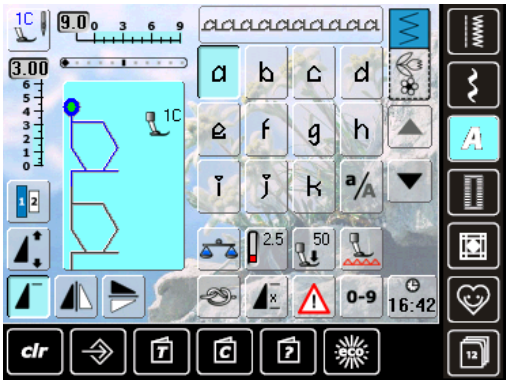


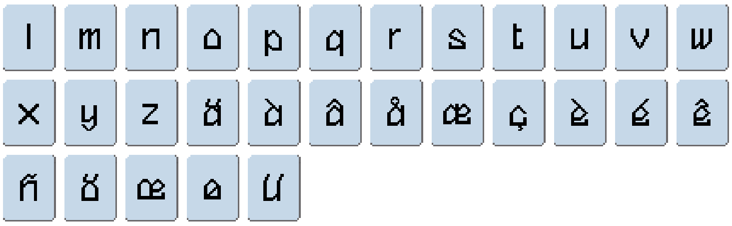


キルトアルファベット

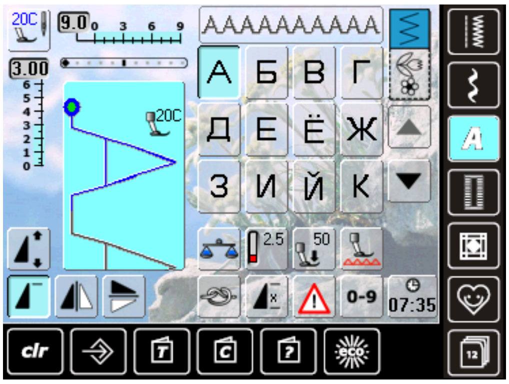


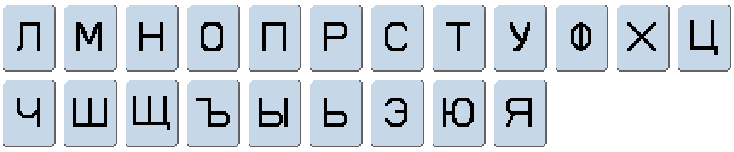






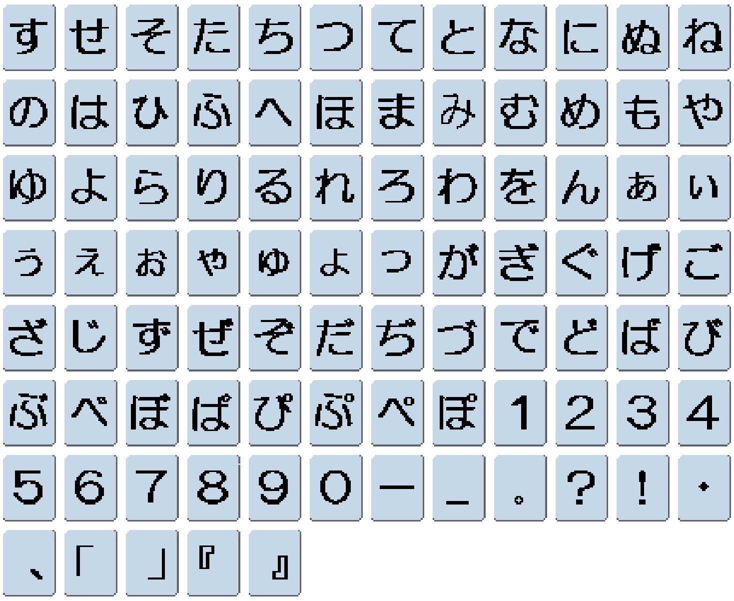
ギリシャ書体


А Б В Г
Д Е Ё Ж
З И Й К
0-9
07:35
clr


Л М Н О П Р С Т У Ф Х Ц
Ч Ш Щ Ъ Ы Ь Э Ю Я

ひらがな

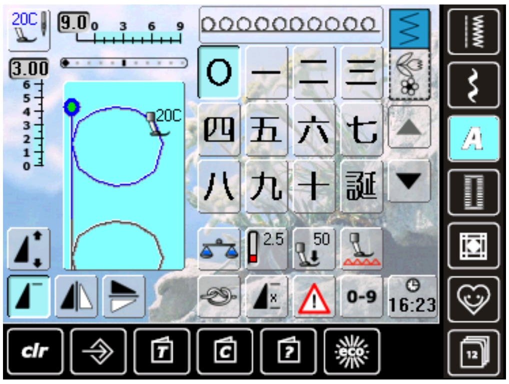
あ い う え
お か き く
け こ さ し
0-9
15:34
clr


す せ そ た ち つ て と な に ぬ ね
の は ひ ふ へ ほ ま み む め も や
ゆ よ ら り る れ ろ わ を ん ぁ ぃ
ぅ ぇ ぉ ゃ ゅ ょ っ が ぎ ぐ げ ご
ざ じ ず ぜ ぞ だ ぢ づ で ど ば び
ぶ べ ぼ ぱ ぴ ぷ ぺ ぽ 1 2 3 4
5 6 7 8 9 0 ― _ 。 ? ! ・
、 「 」 『 』

カタカナ

ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ
ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン	ァ	ィ
ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド	バ	ビ
ブ	ベ	ボ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	1	2	3	4
5	6	7	8	9	0	ー	_	。	?	!	・
、	「	」	『	』							

漢字



生	日	年	才	組	保	育	幼	稚	園	小	中
学	校	月	火	水	木	金	土				

インデックス

ア

アイレットを縫う 75
アイレット(ジグザグ) 68
アイレット(直線縫い) 68
アクセサリー 6-9
アクセサリーボックス 8-9
頭出し機能 34
アップデート 36, 45
アップリケ 90
アラーム 33, 35
アルファベット 32, 65, 66, 139
アルファベットの文字サイズ 34, 67
安定紙 100
安全に関するご注意 2

イ

糸 26
糸をカットした後の留め縫い 38
糸ガイド 11, 20-21
糸カッター 11, 17, 38
糸くず用ブラシ 6
糸こまホルダー 6
糸潤滑装置 20
糸通し(手動) 6
糸と針に関する重要事項 26
糸調子 25, 33, 35, 38, 99
糸の交換 19
インフォメーション 40

ウ

ウィング針 63
ウォーキング押え 7
上糸をかける 18-19
上糸ガイド 21
上糸カッター 11, 17
上糸調子 25
上糸通し 18
上糸通し機構をクリーニングする 46
上送り機構 113
ウェルカムテキスト 37

エ

エアルームステッチ 137
エコ機能について 53
エコモード 32, 53
エッジステッチ 92
エラーメッセージ 124-134
LED ソーイングライト 13

オ

オーディオシステム 43
オーナメントステッチ 137
オーバーキャスティング 93
オーバーロックステッチ 58, 96
オープン刺しゅう押え 7
大文字・小文字 35
送り長さダイヤル 11, 31
送り長さの調節 31, 57
送り歯 33-34
送り歯と布送り 23
押え圧調節 33, 35, 52
押え金 7, 11, 31, 39
押え金の交換 22
押え金の上下 12, 27
押え金の表示 35
オプションアクセサリー 7
オプションアクセサリー取付け穴 11

カ

外観 10, 11
ガイドライン 27
回転釜のクリーニング 116
返し縫いボタン 30, 35, 57
各種機能と組み合わせる 62 62, 67, 69
飾りキルトステッチ 76
飾り縫い 32, 60, 104, 136
飾り縫いの反転 62
カタカナ 142
壁紙 37
釜カバー 11
釜に注油する 46
画面 11
画面を閉じる 34
画面の明るさ 37
画面の計測 42
画面の説明 32, 37
画面の設定 36, 42
漢字 142
環境保護について 117

キ

キーホールボタンホール 100
機能 34, 50
機能画面 33
機能の組合わせ 62
機能ボタン 30
基本設定のリセット 36, 44
キャリングハンドル 11, 58
ギリシャ書体 141
キルティング 90
キルトアルファベット 140
キルトステッチ 32, 76, 138
キルトテクニック 107
キルトラベル 107

ク

クリーニング 46, 116
クリエイティブコンサルタント 32, 49
クリヤー 32
クロスステッチ 103, 136

ケ

言語の選択	40

コ

コーディングアタッチメント	6
コーナー部分を縫う	24
小型ねじ回し	6
コンビネーションの作成	81
コンビネーションの削除	85
コンビネーションの修正	66
コンビネーションの修正	84
コンビネーションの分割	35, 85
コンビネーションの変更	84
コンビネーション全体の反転	84
コンビモード	33, 35, 64

サ

サイズの変更	67
削除	32, 35
サテンステッチ	93, 137
左右反転機能	34
三本針	19, 28, 63

シ

シームガイド	17
シームガイドライン	23
シームリッパー	6
ジーンズ押え	7
ジグザグ縫い	58
システム設定画面	32
下糸カッター	17
下糸の巻き	15
下糸調子	25
下糸巻き取り装置	11
下糸巻き取り用カッター	11, 17
しつけ縫い	58, 88
実用縫い	32, 58-59, 88, 136
実用縫いおよび飾り縫い	51
実用縫いと飾り縫いを組み合わせる	64
自動上糸通し	18, 30
自動かんぬき留め縫い	59
自動シンプルダーニングプログラム22番	95
自動留め縫いプログラム	31
自動糸カッター	30, 39
自動糸カッターのクリーニング	116
ジャージーステッチ	58, 96
収納式トリプル糸立て棒	14
手動で上糸を通す	18
手動で直線縫い1番を使う	94
手動による5段階または7段階ボタンホール	69
手動のボタンホール	99
手動ボタンホール	34
上下反転機能	34
芯糸入りボタンホール	100
シングルストレートステッチ	59
シングルモード	33, 35
芯地	100

ス

スーパーストレッチステッチ	58
スクリプト（筆記体）	140
スクロール・アップダウン	33
ステッチ一覧表	136-142
ステッチカウンター	34
ステッチガイド	6
ステッチカテゴリー	136
ステッチ画面	32, 56
ステッチコンビネーション	64
ステッチのカストマイズ	77
ステッチの選択	56
ステッチの履歴	80
ステッチパターンのカスタマイズ	57
ステッチパターンの削除	79, 82
ステッチパターンの準備	77
ステッチパターンの挿入	84
ステッチパターンを変更する	78
ステッチ表示エリア	33
ステッチメニューをカスタマイズする	77
ステッチメモリーへの変更	57
ステッチ番号による選択	33, 35, 56
スティップリングステッチ	76
ストレッチオーバーロック	58, 97
スライドオンテーブル	17
スライドオンテーブル用布ガイド	6
スライドスピードコントロール	11, 31

セ

セキュリティープログラム	33, 35
セットアッププログラム	36-47

ソ

ソーイング	34, 38
ソーイングスピード	13, 38
ソーイングレンズ用アダプター	6
ソーイング用アクセサリー	6
ソーイングライト	37

タ

ダーニング	94-95
ダーニングステッチ	59
ダーニングプログラム	58
高さ調整板	6, 24
多機能ダイヤル	31
多機能ツール	6, 23, 25, 132
多機能ボタン	34
タッチペン	6
タッセル	138
ダブルオーバーロック	58, 96
ダブルブランケットステッチ	76
ダブルブロック体	139

チ

チェックミラー	6
チュートリアル	32, 48
注油	116
長期メモリーについて	81
直線縫い	58, 76, 88, 98

テ

テーパリング	61, 105
テーパリングステッチ	138
デジタル時計の電池交換	117
手元返し縫いボタン	35
手元返し縫いボタンによる留め縫い	57

032298.53.10_1204_B820_JP

手元スタート/ストップボタン 30
手縫い風キルトステッチ 76
手縫い風ボタンホール 73
デュアルソーイング押え 7
デュアルフィード 113-114
デュアルフィードのバランス 52
電源コード 6, 12
電源スイッチ 12
電源ソケット 11, 12

ト

時計・アラーム 33, 35
留め縫い 31, 33-34, 58, 76, 89
留め縫い機能 110
留め縫いプログラム 58, 89
トラブルシューティング 118-134
取り扱い説明 6
トリプルジグザグ 58
トリプル直線縫い 58, 89
ドロワーの内容を一目で見る 83

ニ

ニットをきれいに仕上げる 96
二本針 19, 28, 63

ヌ

布 26, 114
布ガイド付自動ボタンホール押え 7
布送り 23
布端の仕上げ 92

ネ

ネットステッチ 58

ノ

ノベルティステッチ 138

ハ

バージョン情報 41
パーソナルプログラム 32, 77
パーソナル画面 77
バータックプログラム 58
弾み車 11
パターンエンド 11, 30
パターンの拡大 34, 62
パターンの削除 82
パターンリピート 34
バックステッチ 30, 35
パッチワーク 90
パッチワーク押え 7
バッテリー 12
バランス 70
バランス機能 33, 35, 51, 52
バリオーバロック縫い 58
針 26-28
針、糸および布 26
針板 11, 23
針板のクリーニング 116
針基線の変更 31, 57
針基線ボタン 11
針自動糸通し 11, 18
針上下停止位置 30, 39
針上下停止ボタン 11
針セット 6
針チャート 40
針と糸の関係 26
針止めネジ 11
針について 26
針の一覧表 28
針の交換 22
針の上下 110
反転機能 62

ヒ

BSR 108
BSR押え 7
BSR ジグザグ縫い 108
BSRソーイング機能をオンにする 112
BSR直線縫い 108
BSRの準備 109
BSRモード 108
BSRモードでの各種機能 110
BSRを使わないフリーモーションキルティング 110
BSR機能をオフにする 112
ピーシングステッチ 76
膝押え上げレバー(FHS) 6, 12
一模様縫い（パターンエンド） 11, 30
標準押え 7
ひらがな 141
ピンセット 6
ピンタック 106

フ

ファイルドロワー 35, 82
ファスナー 98
ファスナー押え 7
フェザーステッチ 76
ブザー音（電子シグナル）のオンとオフ 111
フットコントローラー 6, 12, 13
フライステッチ 59
ブラシ 6
フラットジョイニングシーム 97
ブランケットステッチ 76
フリーモーションキルティング 107, 110
フリーモーションソーイング 104
振り幅ダイヤル 11, 31
振り幅の調節 31, 57
フローラル 136
プログラミングおよび保存 81
ブロック体 139

ヘ

ヘム 96
ヘム仕上げ 96
ベルニナステッチレギュレーター(BSR) 108-112
ベルニナデュアルフィード（上送り機構） 52, 113-114
ベルニナ専用押え金 7
ヘルププログラム 32, 50

ホ

補強ダーニングプログラム 95
保証書 6
保存したステッチコンビネーションを開く 83
ボタンサイズの測定 71

インデックス

032298.53.10_1204_B820_JP

ボタンホール 32, 34, 68-75, 99-102, 136
ボタンホール（安定紙） 100
ボタンホール（エアルーム） 68
ボタンホール（キーホール・はと目） 68
ボタンホール（ステッチカウンター） 69
ボタンホール（ステッチカウントボタンホール） 73
ボタンホール（バランス機能） 70
ボタンホール（ボタンサイズの測定） 71
ボタンホール（マニュアル） 69
ボタンホール（マニュアル手法5段階） 69
ボタンホール（マニュアル手法7段階） 69
ボタンホール（ラウンドエンド・キーホール） 72
ボタンホール（穴を開ける） 102
ボタンホール（自動ボタンホールをプログラムする）72
ボタンホール（手動） 69
ボタンホール（重要事項） 99
ボタンホール（芯糸入り） 100-101
ボタンホール（切り込み幅の調整） 69
ボタンホール（長さの設定方法） 69
ボタンホール（長さの直接入力） 71
ボタンホール（長期メモリー） 74
ボタンホール（直線縫いボタンホール） 68
ボタンホール（標準） 68
ボタンホール（標準とストレッチ） 72
ボタンホール（標準-幅狭） 68
ボタン縫い付けプログラム 68, 74
ホバーポジション 39
ボビン 6, 14
ボビンの取り出しおよび取り付け方法 16
ボビンマジック 6, 104
ボビンホルダー 9

マ

まつり縫い 58, 76, 97
まつり縫い押え 7
マニュアル糸通し 18

ミ

ミシンオイル 6
ミシンの外観 10
ミシン用カバー 6

メ

メニュー選択画面 32
メニュー画面 36
メモリー 81-85
メモリー・コンビネーションの削除 82
メモリー・コンビネーションの修正 84
メモリー・コンビネーションの反転 84
メモリー・コンビネーションの分割 85
メモリー・ステッチコンビネーションの作成 81
メモリー・ステッチコンビネーションの修正 84
メモリー・ステッチの挿入 84
メモリー・ステッチパターンの削除 82
メモリー・ファイルドロワーの内容を見る 83
メモリー・ファイルドロワーを開く 82
メモリー・長期メモリー 81
メモリー・保存 81
メモリー・保存したコンビネーションを見る 83
メンテナンスとトラブルシューティング 115-134
メンテナンス・クリーニング 116
メンテナンス・注油 116
メンテナンス・ディジタル時計の電池交換 117
メンテナンス・トラブルシューティング 118-117
メンテナンス・メッセージ 122-123
メンテナンス・エラーメッセージ 124-134

モ

文字の組み合わせ 66
文字のコンビネーションの修正 66
モニターの設定 36
モニター機能 43

ユ

USBの接続 11, 12
ユーザーデータの削除 47

ラ

ライクラステッチ 58
ランニングステッチ 58

リ

リセットおよびユーザーデータの削除 44
履歴（ステッチの履歴） 32, 80

レ

レタリング 65
連続模様 33

ロ

ロングステッチでパターンを拡大 63
ロングステッチ機能 62
ロングステッチトリプル直線縫い 59

032298.53.10_1204_B820_JP

2012/04 JA 032298.53.10

032298.53.10_1204_B820_JP